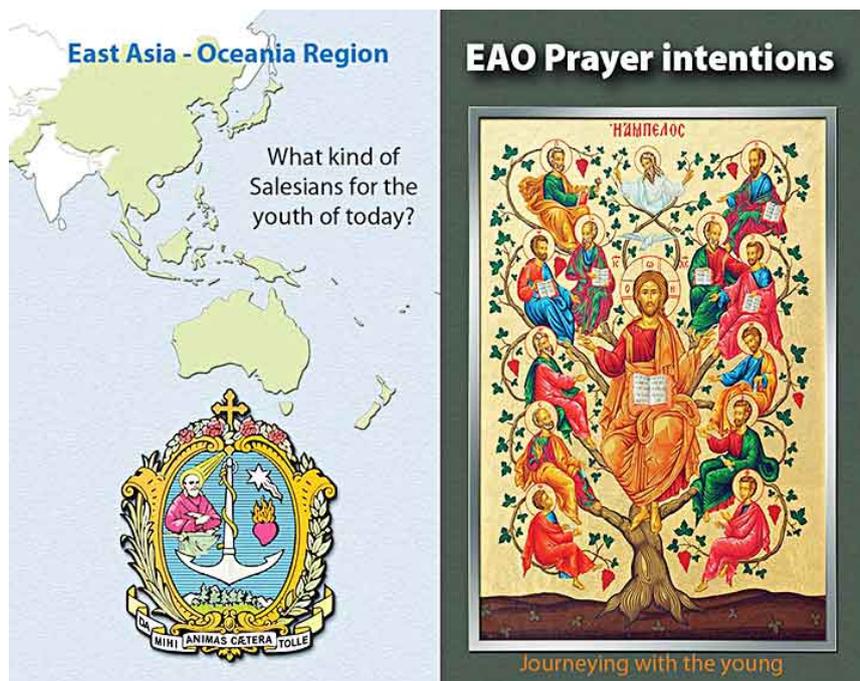


East Asia – Oceania

東アジア・オセアニア



# EAO ボナノツテ

## 2014-2020

ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB  
EAO 東アジア・オセアニア地域顧問 (2014-2020)

Fr. Václav Klement, SDB  
EAO Regional Councilor (2014-2020)

## 目次

### 2014年（4月-12月） EAO 地域への帰属意識を

1. 耳を傾ける－仕えるために
2. 私たちにとって「地域」であることの意味は？
3. 聖霊降臨 - 初めの愛を思い起こす
4. EAO 祈りカード+EAO ヴィジョン・ミッション
5. イエスを最も良くあかしするために！
6. ‘英語無ければ召命無し？ サレジオ会文書翻訳者の歴史的な初会合！
7. 「霊的生活において進歩したいですか？ それなら、いつも宣教者でなければなりません！」
8. 使命を共にする信徒・協働者なしに、奉獻生活の未来はありません！
9. 「あなたのカファッソは？ — あなたの刑務所は？」

### 2015年（1月-12月） ドン・ボスコ生誕 200 周年記念

10. 本当の喜びと幸せを与えてくれるものは？
11. ドン・ボスコ女子在俗会（VDB）は何のため？
12. あなたのいちばん好きな祈りは？ - Cetera Tolle!
13. 奉獻生活への召命を引きつけるものは？
14. アンヘル神父様、EAO 地域へようこそ！
15. アンヘル神父様、Tenk yu tru 交わりの贈りものをありがとう！
16. ‘ヴァルドッコで見たこと、それを EAO で!’
17. ドン・ボスコ、誕生日おめでとう！
18. 収穫の時……若者と共に！
19. 「ドン・ボスコをごらん！」チマッティ師は今もインスピレーションの源
20. ‘おやすみなさい ボナノッテ’ - マンマ・マルゲリータに感謝！
21. 善き牧者の心で、神のいつくしみの年に入る！

### 2016年（1月-12月） いつくしみの年

22. いつくしみの母 - 誰をも拒まず受け入れてくださる母の愛
23. あなたの生きるエネルギーはどこから？
24. 十字架の道の向こうに
25. サレジオ家族は聞くことによって成長する！
26. 農村の辺縁で教皇フランシスコを発見！
27. サレジオ会修道士、イエスのみ心のうちに！
28. いつくしみの年 - 私たちが収穫する実は？
29. 交わり — 特別な贈りもの！
30. サレジオ同窓生 祈りと約束！

31. 日本のボランティア 人々との出会いを求めて！
32. 実り豊かないつくしみの年 日本、浜松！
33. サレジオ家族を信頼していますか？

#### 2017年（1月-12月） アジアでの福音宣教 - サレジオ宣教の日

34. すべての戦争に終止符を！ 2017年を平和の年に！
35. 耳を傾け、評価し、感謝をささげよう！
36. 決して歩くのをあきらめないで！ 自分のどこを変えたらいい？
37. 本当にお互いを必要としていますか？ 良いコミュニケーションなしにはコミュニケーション=交わりもなし！
38. 「聖母がすべてをなさった。キリスト者の助け聖マリアに信頼しなさい。奇跡を目の当たりにするでしょう！」ドン・ボスコ
39. ‘イエスはぶどうの木’のイコンは私たちをどのように動かしているのでしょうか？
40. サレジオ信徒ボランティア - ミッション・ポッシブル？
41. 共に歩む同伴 - サレジオのキーワードの一つ
42. イエスに心を奪われ大好きになったのは？
43. あなたの安全地帯はどこですか？
44. 日常生活の中で、貧しい人々の叫びにどのように耳を傾けていますか？
45. 全てをイエスに、イエスは全ての人に！

#### 2018年（1月-12月） ストレナ - 耳を傾け、共にいる

46. 2018年 - 耳を傾ける新年、おめでとうございます！
47. サレジオ会員はなぜ若者に耳を傾けていないのか
48. 福音をどのようにささやいていますか？
49. 喜んで耳を傾け、時間を無駄にしていますか？
50. カナのマリアのように：足りないものは？ 福者フィリッポ・リナルディのように：マリアのご像のもとに具体的なものを！
51. 毎日福音を読みますか？ 2分だけでも！
52. #ForYouToo フォーユトゥー あなたにも！ - サレジオ聖性のムーブメント
53. サレジオ会修道士に耳を傾ける - サレジオの召命の満ち満ちた豊かさを理解するために
54. 今日、私たちはどのように若者に耳を傾けているのでしょうか？
55. 宣教する若者（Gioventú missionaria）、今日もありえる？
56. 世界の若者は、神の協力者=コオペラトーリを必要としています！
57. 聞くことはいつも最初の一歩 - カリエロ 11！

#### 2019年（1月-12月） ストレナ - 聖なる者になろう！

58. #ForYouToo 君も呼ばれている：聖なる喜びのうちに主に仕えよう！
59. サレジオの聖人たちを知っていますか？

60. サレジオの聖人をどのように大切にしていますか？
61. サレジオの聖人たちにどのように倣っていますか？
62. 人生最高の日：ドメニコ・サヴィオの初聖体 キリストは生きておられあなたが生きることが望んでおられます！
63. サレジオの聖人にどのように取りなしを願っていますか？
64. サレジオの聖人たちを知らせていますか？
65. 主よ、安全地帯の外へと私を遣わしてください！
66. 召命の文化は心を惹きつける魅力を通して（はじめて）育まれる
67. ミッションとなりたいですか？
68. Don Bosco Green Alliance - 今、行動しよう！
69. 教皇フランシスコ、私たちの地域を訪れてくださりありがとうございます！

#### 2020年（1月-3月）

70. あなたの話を聞かせてくれますか？
71. 若者がいなければ、私たちは天国にたどり着けない！
72. 心からありがとう！ 感謝の心で成長しながら……

## はじめに

この6年間（2014 - 2020）の終わりに、72回にわたる EAO 東アジア・オセアニア地域のボナノッテ・コレクションを贈ります。東アジア・オセアニア地域の 1500 名のサレジオ会員とサレジオ家族のメンバーにあてたものです。

私たちの 12 の管区と 200 近い共同体をたびたび訪れたことによって、私は日々の共同体生活、司牧生活におけるボナノッテのカリスマ上の重要性をますます感じるようになりました。ボナノッテがあるかないかで、大きく違います。朝の講話のないドン・ボスコの学校と、日々、朝の講話があるサレジオの教育を比べてみてください。

この短いながら力のある日々のひと時が、多くの子ども・若者、サレジオ会員、サレジオ家族のメンバーの生き方を変えることに驚かされます。そこには何があるのでしょうか？

ドン・ボスコは、この短い日々のひと時がさまざまな実りをもたらすと信じていました：それはその日その日の歩みを締めくくる助けとなり、共同体を築き上げ、現実の状況を信仰のまなざしで見ると同時に私達を鍛錬します。私たちは共同体生活の中で（学校、家庭、修道共同体、グループホーム、学校の寮などで）、この絶えず新たにされる、分かち合い、物語りの体験を必要としています。誰かの生活の分かち合いに日々耳を傾けるか、傾かないか—両者には、日々の生活体験として大きな違いがあるのです！ この複雑な世界を毎日、信仰の視点から理解するか、あるいはそうしないか、それほどの違いがあります。マンマ・マルゲリータの着想のおかげで、私たちの生活はより豊かなものとなり、私たちはその意味を見いだすことができ、生活により深い喜びをいただいていると、私たちは確信しています。

東アジア・オセアニア地域創設から約 18 年、この簡単なボナノッテ・コレクションを皆さんと分かち合えることをうれしく思います。続けてきた毎月のふりかえり、心をゆさぶる出来事や出会いに基づく祈り、私の歩みの中でのより深い考察の実りです。

この簡単なコレクションがサレジオ会共同体の院長、リーダー、信徒協働者・ミッションパートナー、サレジオ家族のメンバーにとって、ボナノッテや朝の講話の深いカリスマ的なひと時を大切にすきかけとなることを、私たちは期待しています。また、デジタルあるいは印刷の形でのこのコレクションの出版を可能にするため働いてくださった皆さんに感謝します。」

ご自分の分かち合いを寄せてくださった皆さん（これらのボナノッテを配信する際の導入として）、この 6 年間、ベトナム語、日本語、中国語に訳してくださった皆さん、またこの 6 年の間に、続けるようにと筆者を励ましてくださったり、コメントを寄せてくださったりした皆さんに感謝します。

ダウンロード用デジタル版：<https://www.bosco.link/buonanotte/56521>

## 耳を傾ける－仕えるために

兄弟の皆さん、友人の皆さん！

ローマより、心からのごあいさつを送ります。私たちはあと1週間で第27回総会を成功裏に閉幕させるため、忙しく働いています。GC27の前、そして期間中の皆さんのお祈りに感謝します。

新しい最高評議会は昨日から、エルサレムよりイヴオ・コエリヨ神父（養成顧問）を迎え、全員そろいました。ドン・ボスコの第10代後継者、アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父のもと、総勢13名の最高評議員となりました（チャーベス神父のときより1人少ない）。そして、初めてアフリカ人会員－アメリコ・シャキッス（モザンビーク）を最高評議会に迎えたことを私たちは誇りに思います。イタリア人最高評議員は2.5人になりました（フランチェスコ・チェレダ神父、ステファノ・マルトリオ神父、そして1975年以来、宣教師としてチリで働いているナターレ・ヴィタリ神父）。

まず、50日にわたる総会の体験を経て、いくつか個人的な思いを皆さんと分かち合いたいと思います。“総会共同体”全体は日々の生活の中、すばらしい家庭的精神に息づいています。運営はさまざまな人によって活気づけられています（典礼、コミュニケーション、スポーツ、書記、通訳、医務係、文書起草）。毎日の‘儀式’の主なものとしては、本会議の初めに福音を読み、聖書を本会議場ステージ上に据えること、毎日昼食の後、コンゴ人‘チャプレン’によるスポーツのアニメーション、祈り、各委員会における真剣な作業、個人でのふりかえりなどがあります。

総会の220名余りの集会とは別に、EAO地域のメンバーとの特別な時間を楽しむこともできました。今回の総会には‘著名な’スピーカーが何人か参加しています。ランフランコ神父（中国）、エリ神父（フィリピン北）、マリアノ神父（ミャンマー）、アレックス神父（フィリピン北）、ボエディ神父（インドネシア・チモール）、アンディー神父、ヴァツラフ神父（ローマ本部）などです。特に、中国管区による多くの深く、徹底した、喜びあふれる語りかけを、私たちはたびたび喜んで受けとめました（5つのダイヤモンドの話など）！

私たちはEAO地域のミサをすでに2度ささげ、4月11日まで続けます。こんどの月曜日には新総長がEAOのミサをささげ、各部門のすべての顧問もあずかります。

最高評議員の選挙期間中、私たちは何度か集いました。地域として識別に貢献するため、新しい地域顧問を祝うため、そして数日後、誓願 25 周年（レイモンド・カジョ修士、フィリピン北、地域コーディネーター）を祝うためでした。

このようにして私たちは皆、地域として良い雰囲気や家庭的な精神を味わうことができ、お互いをよりよく知りたいと関心を持ち、10 の管区、4 つの委任地区が互いにつながり、分かち合いを深める努力をすることができました。

今私は、新しい宣教顧問 — ギジェルモ・バサニェス神父に宣教部門の数々の仕事、連絡先、情報（ニュースレター「カリエロ 11」を始め、ブログ、サレジオ会ウェブサイト AGORA）を引き継ぎ、現在ある次の EAO 地域のデジタル・プラットフォームに少しずつつなげているところです：

<http://blogs.sdb.org/eao.php> (EAO BLOG);

<http://agora.sdb.org/index.php?board=59.0> (EAO Agora 分かち合いのための会員サイト)

<http://www.bosconet.aust.com/pmwiki/pmwiki.php> (EAO 資料)

<http://sdl.sdb.org/cgi-bin/library> (Salesian Digital Library) - インドネシア語、ビルマ語、中国語、日本語、韓国語、タガログ語、テトゥン語、タイ語、ベトナム語の各セクション。

<http://eaosalesianbrothers.wordpress.com/> (EAO Salesian Brothers, Manila)

<https://www.facebook.com/groups/1576979272526655/> (EAO 地域のサレジオ会員)

先週、会における宣教精神に世界的に目を向け世話を役目から、再び愛する EAO 地域の顧問へと、一夜にして人生が変わったとき、どうしたらより効果的に地域を活気づけられるだろうかと考えてみました。実にこの 12 年、初めて地域顧問に選ばれたとき以来、コミュニケーションのツールや取り組みは大きく変わっています。結論は？カリエロ 11 効果からわかるように、おそらく最良の手段は、EAO 地域の全会員に向けての「ボナノッテ」ではないかということです。

この第 1 回 EAO 地域ボナノッテでは、第 27 回総会のキーワードの一つを皆さんと分かち合いたいと思います。「耳を傾ける」という言葉です。

すでに、第 27 回総会の識別の歩みの三段法（耳を傾ける—解釈する—進むべき道）は、生活のありのままの状況に耳を傾けることから始まります。

新総長アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父は最初の説教（3 月 27 日）で、何度も招きました：「今日、主の声を聞きましょう……神の言葉に共に耳を傾けることは、自分自身の殻から出るよう私たちを助けてくれます。自己中心を乗り越え、相手の必要に、特に若者の必要としていることに耳を傾けるよう、助けてくれます。」

名誉総長パスクアーレ・チャーベス神父も、今日、EAO の総会議員への深い、情熱のこもった説教で語りました：「私たちがイエスに耳を傾け、イエスを受け入れること

ができるか、進んでイエスを『われらの生ける会則』とするかどうか、すべてはかかっています。われわれのサレジオ会員としての生活が意味のある、信頼に足る、目に見える、実り豊かなものになるには、これが唯一の道です。」(4月5日)

堅固なサレジオの生活とミッションは、言葉のあらゆる意味で耳を傾ける姿勢にかかっていると、私は正直に認めなければなりません：耳を傾けることは、私たちの間のあらゆる健全なコミュニケーションの出発点（共同体を築くこと、院長とのレンディコント）、真剣な識別の土台（従順）、福音を宣べ伝える際の最初の一步（耳を傾けてもらいたいなら、まず相手に耳を傾けなければなりません）、効果的な青少年司牧の第一歩（若者たちは、「聞いてください！」と強く訴えています）です。よく耳を傾けることは、簡単ではありません！

‘リサイクル’ 地域顧問として奉仕を始めるにあたって、私のために祈ってくださるようお願いいたします。特に、これからの6年間に会う、EAOの1,400名余りの会員、多くの協働者・ミッションパートナー、サレジオ家族のメンバー、若者の皆さんによく耳を傾けることができるよう、お祈りください。添付の「聴」という漢字は、これからの6か年の、私個人の生き方の計画に入っています！

キリスト者の助け聖マリアとドン・ボスコのうちに。

EAO 地域顧問 (2014 - 2020) ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

### 1. Region East Asia – Oceania (2014, January 1)

|     | 2008<br>Total | Temp-<br>L | Temp-<br>S | Perp-<br>L | Perp-S | Dc | Priest | 2014<br>SDB | 2014<br>Novices | 2014<br>Total | 2008-<br>2014 |
|-----|---------------|------------|------------|------------|--------|----|--------|-------------|-----------------|---------------|---------------|
| AUL | 108           | 2          | 7          | 13         | 1      | 0  | 73     | 96          | 2               | 98            | -10           |
| CIN | 126           | 1          | 10         | 24         | 5      | 1  | 75     | 116         | 0               | 116           | -10           |
| FIN | 230           | 6          | 18         | 14         | 11     | 0  | 158    | 207         | 5               | 212           | -18           |
| FIS | 100           | 3          | 27         | 12         | 7      | 0  | 69     | 118         | 7               | 125           | +25           |
| GIA | 120           | 0          | 9          | 13         | 1      | 0  | 82     | 105         | 0               | 105           | -15           |
| ITM | 170           | 15         | 75         | 13         | 8      | 1  | 77     | 189         | 24              | 213           | +43           |
| KOR | 127           | 1          | 19         | 19         | 3      | 0  | 74     | 116         | 5               | 121           | -6            |
| MYM | (73)          | 7          | 37         | 1          | 2      | 0  | 32     | 79          | 4               | 83            | (+10)         |
| THA | 84            | 9          | 9          | 13         | 5      | 0  | 65     | 93          | 0               | 93            | +9            |
| VIE | 251           | 14         | 53         | 27         | 35     | 0  | 147    | 276         | 25              | 301           | +50           |
|     | 1316          | 50         | 264        | 149        | 78     | 2  | 852    | 1395        | 72              | 1476          | +160          |

**Total: 1395 professed SDB (+10 Bishops): 852 priests, 199 brothers, 264 clerics, 72 novices**

**Missionaries sent from EAO (2008-2013): 88 [FIS-1, FIN-4, ITM-11, KOR-3, MYM-1, VIE-67= 43%]**

## 2. EAO Region within the whole Congregation (2008-2014)

| Region          | SDB 2008      | %           | SDB 2014      | %          | Novices<br>2014 | Novices<br>% |
|-----------------|---------------|-------------|---------------|------------|-----------------|--------------|
| Africa –Madag   | 1271          | 8.12        | 1416          | 9.61       | 97              | 21.8%        |
| Amer ConSud     | 1659          | 10.61       | 1419          | 9.63       | 30              | 6.7%         |
| InterAmerica    | 2106          | 13.56       | 1919          | 13.03      | 38              | 13.1%        |
| <b>EAO</b>      | <b>1258</b>   | <b>8.05</b> | <b>1395</b>   | <b>9.5</b> | <b>72</b>       | <b>16.2%</b> |
| South Asia      | 2435          | 15.68       | 2597          | 17.63      | 153             | 34.4%        |
| Europe North    | 2532          | 16.19       | 2292          | 15.56      | 31              | 7.0%         |
| Europe West     | 1638          | 10.47       | 1384          | 9.4        | 8               | 1.8%         |
| Italy- Mid.East | 2532          | 16.19       | 2107          | 14.3       | 16              | 4.0%         |
| UPS             | 205           | 1.31        | 202           | 1.37       | -               | -            |
| Total           | <b>15.636</b> | 100%        | <b>14.731</b> | 100%       | <b>445</b>      | <b>100%</b>  |

**Total: 10.308 priests (68%), 1758 brothers (11.6%), 2646 seminarians (17.4%),**

**445 novices (2.9%) = 15.298 SDB (100%) + 122 bishops**

## 3. 統計を通して EAO に語っておられる神に耳を傾ける

この6年の主な変化（何が起きたか、なぜ起きたかを問うことができるでしょう。）

- EAO のサレジオ会員の総数は 160 人増えました。（ミャンマーで増加；宣教師を派遣しながらも！）
- EAO の存在が会の中で大きくなっています（EAO の修練生は全体の 16%をしめます…）。
- 会員数が増えている管区が 5 つ、減っている管区が 5 つあります。同時に、財源のしっかりした管区が 5 つ、財源確保に苦勞している管区が 5 つあります。
- サレジオ会修道士の数はゆっくり減少しています（10 人減少、特に有期誓願を立てた修道士の数は 7 人減少…）。
- 「ドン・ボスコの聖職者の顔」の成長が顕著に見られます（2008 年よりも司祭は 100 人、神学生は 30 人増えています）。
- EAO は、サレジオ会全体の海外派遣宣教師の 43%を送り出しています。

## 私たちにとって「地域」であることの意味は？

兄弟の皆さん、友人の皆さん！

ベトナム - モンゴル管区の管区長館から心よりのあいさつを申し上げます！ サレジアニ・コオペラトリー東アジア・オセアニア地域大会に参加し、韓国管区の新管区長ステファノ・ヤン神父の就任式のため数日間韓国に滞在し、管区評議員たちと会ったり、3つの養成支部（ソウル、ネリ、クワンジュ）を訪問したりした後、こちらに到着したところです。会のための新たな奉仕を始めて最初の一か月が過ぎました！

第27回総会に続くこの数週間に個人的に感じたのは、6年を経て、私たちの10の管区と1400人以上のサレジオ会員と、“再びつながる”ということでした。置かれた状況や歴史、挑戦や夢の豊かな多様性の中で！

EAO 地域のためのこの2度目のボナノッテでは、サレジオ会の地域に属することの意味を考えてみたいと思います。“私たちの地域”の一員であるとは、どのような意味があるのでしょうか — 神様はこのような形で私たちそれぞれにどのような賜物をくださっているのでしょうか。

会憲で、「地域」は「管区群」（会憲第154条）と呼ばれています。東アジア・オセアニアという広大な範囲の、しばしば互いに遠く離れた国々に散らばって暮らす私たち一人ひとりにとって、それは具体的に何を意味するのでしょうか。

おそらく会憲第59条（世界的共同体）が示唆を与えてくれています。「世界に広がる教会の中で体験している精神の交わり、また、あかしと奉仕の交わり」です。私の取るに足らない意見ですが、地域は、一人ひとりのサレジオ会員が「カトリック信徒の一人」（イエスの弟子、宣教師の普遍的共同体の一員）として、「カトリックの＝普遍的なサレジオ会員」として本当に生きるための具体的な道なのだと思います。

数日前、韓国の修練生たちが地域顧問としての私の務め（会則第136条）について確認していました：「会員同士、管区同士の関係、また、彼らと総長ならびにその評議会との関係の中に、生き生きとした、具体的な家族意識を高める」。それは、必ずしも直接出会うことのない会員同士の、交わりと結びつきなのです。しかし同時に、地域が共に歩むことは、たくさんのインスピレーション、勇気、連帯、祈りや資源による助け合いをもたらすことができます。地域は、私たちの心と精神を、世界的なサレジ

オ会共同体に向けて開かせてくれます。このこともまた、EAO 地域の“付加価値”です！

具体的な 3 つのことについて、お話しさせてください：(1)EAO ビジョン - ミッション；(2)諸管区の交わりとしての EAO；(3)互いのために祈ること（毎月 25 日）。

#### (1)EAO ビジョン - ミッション（共に成長する）

第 25 回総会（2002 年）で EAO 地域が誕生して 12 年たった今、EAO 地域のビジョン - ミッション声明をもう一度、皆さんと分かち合いたいと思います：

（第 1 版、Team Visit 2005 - ファヒン；改訂版、2013 年 11 月 - メルボルン）

#### 私たちの展望（ビジョン）

東アジア・オセアニア地域はサレジオ会諸管区の交わりとして、ドン・ボスコのカリスマに創意工夫をもって忠実に従い、若者、特に貧しい若者の福音宣教者となるため、互いに効果的に協力する。

そのため、私たちは次のことに取り組む（ミッション）

- ▶ 予防教育法を文化受容させる。
- ▶ 共通の取り組みのために協力する。養成、青少年司牧、広報、サレジオ家族、その他の奉仕において。
- ▶ 地域各地でたびたび起こる自然災害の際に連帯を示し、具体的支援を行う。
- ▶ 互いのコミュニケーションを強め、深める。コミュニケーションの媒介言語として英語を使う。

共同の EAO ビジョン - ミッションは、私たちの交流を促進する助けになるでしょう！

#### (2)諸管区の交わりとしての EAO（分かち合い）

第 27 回総会の最後の週、EAO からの 26 人の総会議員と地域の将来について分かち合う良い機会がありました。最初のワークショップでは、2 つの簡単な話題について分かち合いました：(1)EAO のほかの管区に何を提供できるか。(2)EAO のほかの管区から何を受けたいか（資源 - 人的、霊的、物的；培われた経験；会合の場、ほかの管区のための機会）。分かち合いはとても豊かな作業になりました。提供できるものの長いリストが必要とするもののリストより長かったことに、私たちの多くが驚きました（添付参照）。この 12 年の間に、EAO 諸管区の交わりが大きく成長したと私は深く確信しています。そして 10 の管区と 4 つの統治区の分かち合いから、私たちはこれからも益を得ることでしょう。

#### (3)祈りの交わりとしての EAO（毎月 25 日）

2014 年 EAO 管区長会議（4 月 10 日、ローマ）で、月に一度、EAO 地域のために祈る日が決められました。各管区の会員たちの地域への帰属意識を高めるためです。

聖ルイジ・ヴェルシリアと聖カッリスト・カラヴァリオの殉教を記念し、毎月 25 日を当てることになりました。

真の兄弟的な生活は互いのために祈ることから始まると私は深く確信しています。EAO のほかの管区の高齢の会員のため、具体的な祈りの意向を寄せてくださいという中国管区の祈りの申し出に、私たちは皆、感動しました。

私が地域のために、会が求めているように、創意工夫をもってたゆみなく奉仕することができるよう、どうぞ助けてください！ キリスト者の助けマリアの母としてのはからいに、私たち皆をゆだねます。

ドン・ボスコのうちに。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父,SDB

EAO ボナノッテ(3)

2014 年 6 月 8 日 / 聖霊降臨の主日 ローマ

## 聖霊降臨 - 初めの愛を思い起こす

兄弟の皆さん、友人の皆さん！

総本部から、心よりあいさつを送ります。私たちは総長と共に、最高評議会の最初の本会議で 2014 - 2020 年の 6 か年計画について話し合い、忙しくしています。また、8 つの管区（ボリビア、エクアドル、米国西、メキシコ - グアダラハラ、モザンビーク、マダガスカル、UPS、日本）の新しい管区長を選ぶ識別も行われているところです。

聖霊降臨の主日にあたり、第 27 回総会のキーワードの一つについて分かち合いたいと思います。「召命の文化」です。EAO 地域の最初の訪問を終え、サレジオ会を志願する若い世代の急速に変わりゆく顔、グローバル化した文化の強い影響を受けていることに、私は深い印象を受けました。

私たちの 10 の管区では、実に多様な召命司牧が行われています。まさに多様性は、聖霊が EAO 地域に下さった最良の賜物の一つです！ 実際、22 か国に約 20 の志願院があります。ベトナムの 324 人の大学生志願者（7 つのセンターで毎週日曜日に集会）から日本（四日市、写真）、ミャンマー、ティモール、タイの中学生志願者に至るまで。合わせると 500 から 600 人ほどの青少年、青年が「志願者」として、さまざま

な形で EAO のサレジオ会員の同伴を受けています。神に感謝！

私はたびたび自問します - 何が、誰が、ドン・ボスコのスタイルで修道士あるいは司祭として生きるサレジオ会奉獻生活に若者たちを惹きつけるのだろうか、と。私たちの家庭的精神でしょうか？ 貧しい青少年の教育と福音宣教への献身でしょうか？ ドン・ボスコ自身の魅力？ あるいは、“カリスマのある”サレジオ会員の姿でしょうか？ 告解室で、ユースセンターで、若者のグループで、あるいはどこか別の所で偶然に出会った力ある霊的指導者でしょうか（「サレジオ会員のところへ行きなさい」）？ それとも、貧しい青少年、危険にさらされ、親の保護も教育にも恵まれない青少年に仕え、彼らを救うというやりがいのある使命のためでしょうか？ たしかに私たちのあかしは重要です。しかし最終的には、神が呼ばれる内なる声を私たちは認めなければなりません。ドン・ボスコのように御子に従うよう、「ご自分の」若者たちを愛し、選び、一人ひとりを呼んでくださる神です。実に私たちは、聖霊が「起こし、形づくり、呼び、導かれた」（会憲第 1 条参照）のはドン・ボスコだけでなく、私たち一人ひとり、また志願者たちの人生のうちに聖霊が働いておられると信じています。

この聖霊降臨の主日、私は総本部から聖パウロ大聖堂、バチカンの聖ペトロ大聖堂へと巡礼をしました。半日の徒歩の巡礼（20 キロ）は、私たち東アジア・オセアニア地域の共同体のうちに召命の文化が成長するようにと願う聖霊への祈りになりました！ 私たち一人ひとりが初めの愛に感謝し、この賜物を - 謙遜と勇気をもって、今日も若者たちと分かち合うことができますように！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父,SDB

EAO ボナノッテ(4)

2014 年 7 月 4 日 / ローマ

## EAO 祈りカード+EAO ヴィジョン-ミッション

今日は、EAO 各国の会員のため、毎日一回、めでたしを唱えることを皆さんに呼びかけたいと思います！ 一人ひとり、私の兄弟です！ ドン・ボスコのうちに。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父,SDB

EAO の国、会員、共同体、管区 (2014 年 1 月 1 日)

10 管区 + 4 委任統治区; 会員 1395 人, 修練者 76 人; 214 の共同体および 25 の拠点  
AUL (Australia, Fiji, Samoa, New Zealand); CIN (Hong Kong, Macau, Taiwan);  
FIN (Manila-Luzon, Papua New Guinea, Solomon Islands), FIS (Cebu, Pakistan);  
GIA (Japan); ITM (Indonesia, East Timor); KOR (South Korea); MYM (Myanmar);  
THA (Thailand, Cambodia, Laos); VIE (Mongolia, Vietnam) SDB は 22 か国に! \*  
委任統治区

#### EAO 地域 vision - mission

私たちは東アジア・オセアニア地域を、ドン・ボスコのカリスマに創意豊かに忠実な、また若者、特に貧しい若者への福音宣教者となるため互いに効果的に協力し合う、サレジオ会諸管区の交わりとして心に描きます (Vision)。

そのため、次のことに取り組みます (Mission)。

- >各管区で、予防教育法を文化受容させる。
- >共通のプロジェクトにおいて協力する。養成、青少年司牧、サレジオ家族、広報、その他 (C) の奉仕。
- >EAO 地域各地でたびたび起こる自然災害の際、連帯と具体的支援を行う (and formation expenses)

毎日の祈りの意向: EAO 地域の交わりを築くための自由な招き

1. Australia
2. Fiji
3. New Zealand
4. Samoa
5. China - Hong Kong
6. China - Macau
7. China Services
8. Taiwan
9. Philippines
10. Papua New Guinea
11. Solomon Islands
12. Pakistan
13. Japan
14. Korea
15. Indonesia
16. Timor Leste
17. Myanmar
18. Thailand
19. Cambodia

20. Laos
21. Vietnam
22. Mongolia
23. サレジオ会修道士の召命
24. サレジオ家族の各グループとその召命
25. EAO 地域のため（聖ヴェルシリア、聖カラヴァリオの記念）
26. 召命の文化と召命司牧
27. 宣教の文化と宣教の召命
28. 院長、事業責任者
29. 管区長とその評議会
30. 総長と最高評議会
31. 霊的指導者、養成担当者

EAO ボナノッテ(5)

2014年8月6日／カンボジア プノンペン

## イエスを最も良くあかしするために！

EAO 地域のサレジオ会員にとって、2014年8月は意味深い行事が目白押しです：全世界のサレジオ会は、8月16日にドン・ボスコの200歳の誕生日の祝いを開始します。そして21世紀に入った今、15年ぶりに、とうとうアジア大陸に教皇様を迎えることになりました。教皇ベネディクト16世のオーストラリア WYD 訪問に続き、フランシスコ教皇が私たちの地域を訪問されるのは、このたびもまた、若者の集いです。

教皇様は第6回アジアン・ユースデーと韓国の124殉教者の列福式のため、5日にわたり韓国を訪問されますが、この2つの行事は第6回アジアン・ユースデーの次のスローガンによって結ばれています：「アジアの若者、目覚めよ！ 殉教者の栄光はあなたがたを照らす！」

これは私たちサレジオ会にとり、「福音の徹底した生き方のあかし」を生きる第27回総会の道を歩むよう、力強い招きとなるでしょう。

私たちが若者と共に本当に目覚め、ほとんどすべての地方教会に存在するおびただしい数の殉教者に感謝をささげるなら、私たちの人生は変わるでしょう！

尊敬、深い感謝、殉教者たちの取りなしを通しての祈りのうちに、私たちはイエス・

キリストへの信仰という大いなる賜物の根本を発見します。私たちの地域では、普遍教会によって公式に認められた殉教者は数百人だけです（中国 - 聖人 120 人、ベトナム - 聖人 117 人、日本 - 聖人 42 人（クレメンテ師は 26 人としているが、聖トマス西と 15 殉教者が加わる）、福者 388 人、韓国 - 聖人 103 人、福者 124 人、ラオス - まもなく列福される 17 人、タイ - 福者 7 人、オセアニア - 聖人 1 人、福者 5 人、フィリピン - 聖人 2 人、ミャンマー - 福者 2 人）。そしてまた、「血を流さない殉教者」もいます。教会が大変困難な状況にあったときにキリストをあかしした人々、オーストラリア初の聖人、聖マリア・マキロップ（8月8日祝日）、神言会の中国の宣教師、聖ヨセフ・フライナンデメツらです。

この人々は氷山の一角にすぎません — 過去 500 年のあいだに、何十万人もの人々が、神の大いなる愛をあかしするために血を流しました！ 殉教者以上に、イエスの福音を徹底してあかしする人々はいらっしゃいますか。

アジアの若者たちと共に、殉教者たちの豊かなあかしに目を向けましょう！ ドン・ボスコ生誕 200 周年の開始という機会を活かし、若者たちの中で、日々イエスをあかしすることに心を傾けましょう！

ドン・ボスコのうちに

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父,SDB

---

EAO ボナノッテ(6)

2014 年 9 月 4 日 / パンパンガ

**‘英語無ければ召命無し？ No English - no Vocation’ ？**

**サレジオ会文書翻訳者の歴史的な初会合！**

この 2 か月の EAO 訪問で、ミャンマー、タイ、ラオス、カンボジア、またフィリピン北部の多くの会員に会うことができました。私は耳を傾けるように努力しています：日々の生活のあかし、若者への使命、皆さんの喜びやチャレンジについて分かち合ってください、ありがとうございます！ 各管区でのサレジオ会カリスマの成長のダイナミズムに再び接する良い機会です。さまざまな管区で 8 月 16 日前後に開催された行事は、ドン・ボスコ生誕 200 周年の開始をしりました。ドン・ボスコゆかりの聖地へのさまざまな管区からの巡礼（フィリピン、中国、日本、モンゴル）は、私たちの父への愛を表すものです。

私自身にとっては、フランシスコ教皇と韓国で過ごしたあの 5 日間は、日々のインスピレーション、教皇様の「福音の喜び」(Evangelii Gaudium) を繰り返し思いめぐらす強い動機となって心に残っています。Word and Life (FIN, Manila, Fr. Sal Putzu) から出版された、充実した内容の「福音の喜び」の手引きを添付します。ありがとうございます！

「英語無ければ召命無し！」 - これは、私たち EAO 地域の管区や国々と基本的に同じ範囲に対応する、イエズス会東アジア太平洋地域の規準です。また、最近、6 人の管区長と管区委任地区の長上が参加してマニラ - パラニャケで行われた養成支部担当者会議でも、英語力の向上について時間をかけて話し合われました。確かに 2005 年、私たちは地域の共通語として英語を選び、長期的な対策によって英語の水準の向上が見られます。確かに、EAO のすべての管区で英語力が向上しています。

私たちの地域における言語の多様性のもう一つの側面は、それぞれの地域の文化、教会の中で私たちのカリスマを分かち合う必要があるということです。来たる 10 月 9 - 11 日に開かれる歴史的な初会合で、「サレジオ会文書の翻訳者」の役割に光が当てられます。参加者と各管区長への総長のメッセージ (添付) は雄弁です！ モンゴル、韓国、日本、中国、タイ、カンボジア、インドネシア、ベトナムからの約 20 名の参加者は、翻訳者の養成、方法論について、何らかの遂行計画を打ち出すこととなります。この奉仕は、将来のため、サレジオの教育と福音宣教、EAO 諸管区における養成のために、非常に重要な奉仕職であると私たちは考えています！ サレジオ会文書の質の高い翻訳の奉仕職への養成とこれを支えることは、ドン・ボスコ生誕 200 周年のための最良の贈りものの一つになるでしょう！ サレジオ・デジタル図書館 (sdl.sdb.org) の EAO 各言語のセクションにそれぞれの翻訳版を送りましょう！

1906 年から現在に至るまで、忍耐強くたゆみない翻訳、同時通訳を通して、ドン・ボスコのカリスマを広めることに貢献してきた、現在も貢献しているすべての会員への、心からの感謝のうちに！

ドン・ボスコのうちに。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

## 「靈的生活において進歩したいですか？」

**それなら、いつも宣教者でなければなりません！」**

(フランシスコ教皇『福音の喜び Evangelii Gaudium』272)

10月は宣教の月、ロザリオの月です！ 東アジア・オセアニアという宣教地域に暮らす私たち皆にとって、共同体のうちに宣教の文化を強めるためにロザリオを祈る特別な時です。

ヴァルドッコでの第145回サレジオ宣教派遣から数日たった今、このボナノッテを送ります。2014年の12名の新宣教師のうち、5人が私たちの地域出身です（インドネシア、韓国、フィリピンからそれぞれ1名、ベトナムから2名）。また、賜物の交換が進められるなか、3人が私たちの地域に派遣されます（スワジランドのBr.ラファエルが香港へ、スリランカのBr.ハルシャとBr.ペトロ・カイがパプアニューギニア・ソロモン諸島へ）。私たちの地域へようこそ！

世界宣教の保護者、リジューの聖テレジアの祝日にあたり、私が今、旅をしながら心の奥底で思いめぐらしている黙想を、分かち合いたいと思います：「しっかりとした宣教の文化を築かなければ、そして日々の宣教の取り組みがなければ、教会と私たちの会に未来はない！」

EAOのさまざまな管区から宣教師 missionary ad gentesとして送り出された150名以上のサレジオ会員に、私たちは深く感謝します！ 先月、あるポスト・ノビスの養成支部を訪ねたとき、私は驚かされました。5人の養成担当者と20人の養成中の会員がいるこの支部で、そのうちの7人が、一人ずつ私のところにやってきて、宣教師になりたいという夢を分かち合ってくれたのです！ この健全なサレジオの環境を、神に感謝します！ 若い会員たちのうちに、新しい、しっかりとした宣教召命が数多く与えられるよう、私たちは祈ります！ それにしても彼らは、宣教の氷山の一角なのです！

フランシスコ教皇が『福音の喜び』で語っているように：「靈的生活において進歩したいなら、私たちはいつも宣教者でなければなりません！ 福音宣教の務めは……靈的な地平を開き、聖靈の働きに気づくための鋭敏さを養います……宣教に専一している宣教者は……喜びを味わっています！」（『福音の喜び』272）

絶えず「自らの快適さの中から外に出て行くこと」を真剣に考えるなら — 私たちは、ユースセンターや小教区、学校（マニラ・トンドの中高生カテキスタ）で宣教グループを育て、宣教召命のためによく祈り、宣教師たちに召命のきっかけを分かち合ってもらい（毎月の宣教促進広報紙「カリエロ 11」の記事のように）、日々の奉仕職のなかで、まだイエス・キリストを知らない人に福音を告げるように努め（フアヒンの学校で3人の求道者があかししているように）、宣教ボランティアを促進するでしょう（オーストラリアの「カリエロ・プロジェクト」やセブの「サルヴォ・プロジェクト」のように）。こういった取り組みや、そのほか宣教の文化、イエスに徹底して従う弟子、宣教者の共同体の日々の取り組みの、多くの真実な表れを各支部共同体に見いだすことを、私は心から願っています！ ボナノッテ、おやすみなさい！

日々のロザリオの祈りのうちに一致しつつ、  
ドン・ボスコのうちに。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父,SDB

EAO ボナノッテ(8)

2014年11月1日／ニュージーランド オークランド

## 使命を共にする信徒・協働者なしに、奉献生活の未来はありません！

ドン・ボスコ生誕 200 周年の 1 年という長い期間は、サレジオ会奉献生活のルーツ — ドン・ボスコの生涯と精神における私たちの DNA を再発見する助けになります。1888 年にドン・ボスコが亡くなったとき、776 名のサレジオ会員と 250 名以上のサレジアン・シスターズがいました。しかし同時に、ドン・ボスコは、8 万人というサレジアニ・コオペラトリーの大きな群れを残しました。1888 年には、一人の奉献されたサレジオ会修道士あるいは司祭の会員に対し、約 100 人のサレジアニ・コオペラトリー会員がいました！

パスクアーレ・チャーベス神父はよく、「信徒・協働者なしに奉献生活の未来はない」と言っていました（私たちの地域では「使命を共にする信徒・協働者なしに」と言います）。EAO の 10 の管区ではどうでしょうか。何千人もの教員、カテキスタ、小教区の信徒評議員、サレジオ青少年運動のアニメーターの皆さんのうち、どれほどの人が深くドン・ボスコに結ばれているのでしょうか。2014 年の最初の訪問の際に、EAO の多くの管区でサレジアニ・コオペラトリーを広め育てようという新たな動きを見ることができました。現在、サレジアニ・コオペラトリーには 2500 人余りの会員、300 人余りの志願者が、120 余りの支部にいます。

サレジアニ・コオペラトリーの第6回 EAO 地域大会で、6年の任期を終えたフィリップ・ユ氏（中国 - 香港）が、私たちの地域を代表する世界評議員として再選されました。最近改訂された『使徒的生活のプロジェクト』を — すでに韓国語とタイ語に訳されています — 私たちは手に取り、サレジオ会員一人ひとりがこれを研究すべきです（サレジオ会一般会則第38条）。

この一年、数多くのコオペラトリー会員が、台湾（53）、ベトナム（39）、韓国（29）、フィリピン（26）、日本（2）で約束を立てたことを神に感謝します。少なくとも6つの新たな支部が立ち上げられ（台湾 - 3、フィリピン北 - 3）、タイのコオペラトリーは26年ぶりに第2回大会 Congress of local centers を開催し、新たなサレジアニ・コオペラトリーの最近の傾向、教区司祭や司教が会員になっていること（カンボジア、台湾）は、今後の歩む道を示しています。2015年8月16日に約束を立てることを目指し、165名ほどの志願者が養成を受けているフィリピン北管区は、すばらしい賜物を分かち合っています！ この4か月、EAO各地のコオペラトリー支部を訪問して感じているのは、SDBのデレガートの養成により力を入れ、サレジアニ・コオペラトリーの召命を育むようサレジオ会の各支部共同体を助けなければならないということです。その第一歩になるのは、最近出版された『使徒的生活のプロジェクト』を丁寧に読むことかもしれません！ サレジアニ・コオペラトリーの約束の言葉を、祈りを込めて読むことから始めましょう（『使徒的生活のプロジェクト』第32条）。

サレジアニ・コオペラトリー会員のいない多くのSDB、FMAの共同体が今もあり、私たちの地域にさえあります（フィジー、ラオス、ミャンマー、ニュージーランド、パキスタン、サモア、ソロモン諸島）。各共同体でサレジアニ・コオペラトリーの召命を（再）発進させることは、ドン・ボスコの200回目の誕生日に、最良の贈りものの一つになるかもしれません。

ドン・ボスコの最初のコオペラトリー、マンマ・マルゲリータと共に、

“ボナノッテ、おやすみなさい！”

ドン・ボスコのうちに。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父,SDB

## 「あなたのカファッソは？ — あなたの刑務所は？」

ドン・ボスコの聖年の一年間の旅路（2014-2015）は、サレジオ会の使徒的奉獻生活のルーツを再発見するよう助けてくれるものです。数日前、私たちは奉獻生活者年に入りました（2014年11月24日 - 2016年2月2日）。フランシスコ教皇は、修道会総長連合との忘れがたい会合（2013年11月、ローマ）で奉獻生活者年の開催を発表しました。それは3つの意味での招きとなります：(1)（私たちの）奉獻生活の刷新；(2) 教会における奉獻生活者の生きたあかしと奉仕をより目に見えるものとする；そして、(3) 奉獻生活という選択肢を考慮するよう若いカトリック信徒を招く。

私は数日前、‘私たちの地域’（＝東アジア・オセアニア）を巡る、5か月近い訪問の旅を終えました。旧友との親交を温め、サレジオ会カリスマの成長を喜び、EAO地域の10の管区・4つの管区委任地区それぞれの直面する挑戦について分かち合う、すばらしい時でした。召命の回復、青少年司牧の再発進、多くの会員の宣教への開かれた姿勢、各管区でのドン・ボスコ生誕200周年の準備と祝いの力強い動きに、私は深い感銘を受けました。投げかけられているおもな挑戦として、個人的靈的指導を行うサレジオ会員を、各管区がさらに多く必要としていることを指摘したいと思います。

11月に、2つのたいへん意義深い、重要な地域会合がありました — 青少年司牧部門と養成部門の会議が、それぞれの顧問、ファビオ神父とイヴォ神父を迎えて行われました。私はその両方に参加することができました（前者はオーストラリア - リスターフィールドで、後者は韓国 - ソウルで）。

サレジオ会員としてより真実に生きようとするとき、私たちはサレジオ家族の多くの聖人たち、特に私たちの父ドン・ボスコに直接つながりのある聖人たちを仰ぎ、彼らに倣うことができます。養成担当者の養成の集いで（11月13 - 16日、ソウル）、ある朝、聖ヨセフ・カファッソの典礼が選ばれました *During the Formation of formation guides one morning was chosen the liturgy of St. Joseph Cafasso*。私にとって挑戦でしたが、ドン・ボスコの靈的指導者であったこの人物が、これからの6か年、私たちの良い道連れになってくれるということに気づきました！ 実に、第27回総会の終わりに、EAOの26名の総会議員は、より多くのサレジオ会員を靈的指導者として養成する大きな必要性を認識したのです！

聖カファッソは、ドン・ボスコよりたった4歳年上でした。20年間、ドン・ボスコの聴罪司祭でした（1841 - 1860年）。聖カファッソは、トリノの街や刑務所にあふれ

る若い移住者たちの叫びに耳を傾けるよう新司祭ドン・ボスコを導きました。ドン・ボスコの生涯と使命へのカファッソの影響は実に大きいものがあります。奉獻生活者年のはじめに当たり、聖ヨセフ・カファッソの姿は豊かなインスピレーションの源になるかもしれません。ドン・ボスコに差し出された指導は、サレジオの DNA について雄弁に語ります。ソウル養成担当者の養成の集いで投げかけられた 2 つの問いを私たちも受けとめましょう：私のカファッソは？ 私の刑務所は？

ドン・ボスコと共に、“ボナノッテ、おやすみなさい！”

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父,SDB

EAO ボナノッテ(10)

2015 年 1 月 1 日 / ミャンマー ヤンゴン

## 本当の喜びと幸せを与えてくれるものは？

会員の皆さん、友人の皆さん、明けましておめでとうございます！

私たちの喜びの源について、一人ひとりにあてたこの問いは、東アジア・オセアニア地域を巡るこの 5 か月の訪問の実りです。私は皆に — サレジオ会員、信徒・協働者、若者にたびたび聞きました。「あなたにとって本当の深い喜びを与えてくれるのは何ですか？」

このドン・ボスコ生誕 200 周年には、私たちの父を奉獻生活の模範としてより目に見える存在とする機会がたくさんあります。ヴァルドッコのドン・ボスコの部屋を訪れた多くのからの巡礼者は、7 分間の短いビデオ「聖霊の作業場」を鑑賞します ([http://www.youtube.com/watch?v=0wF6xPw\\_95s](http://www.youtube.com/watch?v=0wF6xPw_95s))。ナレーションは、ドン・ボスコのカリスマ的プロフィールの簡潔な紹介から始まります。「1854 年 1 月 24 日の夜、ロキエッティ、オティリア、カリエロ、ルアと私はドン・ボスコの部屋に集まった。その夜から、“サレジアン” という名は、この行動規範に参加し、従う者に与えられるようになった。」「全世界へ行き、良い知らせをすべての人に告げなさい！」「いつもできるだけのことをやってきました。まだやり残したことがどれほど多いことか。後は私の息子たちが見てくれるでしょう！」「我に魂を与え、ほかは取り去りたまえ。」「自分の魂を全面的に神にささげなさい。自分の思い、体の骨やエネルギーと共に、魂を完全に神にささげなさい。」そのとき神は、世の救いのために最も良いとお思いになる方法で、あなたをお使いになるでしょう。

私たちが修道者として若者とキリスト者共同体に差し出すことのできる最良の贈りものは、福音を徹底して生きる喜びのあかしです。

「心と魂を全面的に神にささげなさい」という今も続くドン・ボスコの招き、そして「より神のもの、兄弟のもの、若者のものとなる」(アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父, 総長書簡, 最高評議会報 419) と総長が繰り返している最近の招きは、この奉獻生活年の良い出発点になるでしょう。

この招きは、奉獻生活に定年はないことをあかししてくれている病気の、あるいは高齢の会員を思い起こさせてくれます。モンゴル、パキスタン、ラオス、カンボジア、ソロモン諸島などのミッションの前線の、極限の状況における喜びあふれる生きたあかしを思い起こさせてくれます。そうです、喜びあふれるあかしだけが、この世を目覚めさせるために私たちの助けになるでしょう！

2015年の初めにあたり、この問いを受けとめましょう：私に本当の幸せを与えてくれるものは何ですか？

ドン・ボスコのうちに

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父,SDB

EAO ボナノッテ(11)

2015年2月2日 奉獻生活の日／台湾 台北

## ドン・ボスコ女子在俗会 (VDB) は何のため？

台北より、心からのごあいさつを送ります！

今年、4月28日まで3か月近くを中国管区の会員と共に過ごせるという恵みを頂いています。その間、旧暦の新年も祝うこととなります(2月19日から山羊年が始まります)。特別視察の体験は、香港、マカオ、台湾に12の共同体を擁するこの管区共同体の、14か国出身の124人のサレジオ会員全員と、より深い、落ち着いた生活の対話に入らせてくれます。

奉獻生活の年は、私たちの根本を深める良い機会を、私たち皆に与えてくれます。カトリック教会には、約70万人の女子修道者、8万人の修道士、11万5千9人の修道司祭がいます。しかし、ふだん、‘在俗会員’という小さな群れにあまり注意を向け

る人はいません。実は、教会には 3 万 2 千 549 人の在俗会員がいます。そして何と、ヴォロンタリエ・ディ・ドン・ボスコ (VDB) はそのうち最大の会であり (1200 人以上)、代表 *Responsabile maggiore* のオルガは、カトリック教会の 214 のすべての在俗会が加盟する世界連合の会長でもあります。

アジアでは、143 人の VDB に出会えます。インド (14)、香港・マカオ (16)、タイ (12)、カンボジア (2)、ベトナム (28)、韓国 (21)、日本 (3)、フィリピン (46)、インドネシア (1)、東ティモール (2) です。皆さんの多くはきっと、VDB 中央評議会のアジアからの初めてのメンバー (2001 - 2013)、パオリーヌに会ったことがあるでしょう。私たちの地域には、ecclesiastical assistant として VDB 会員の召命の歩みに同伴する 18 人のサレジオ会員がいます。

韓国で VDB Assistant を務めた 12 年間 (1990 - 2001)、私はたびたび自問しました。「教会とサレジオ家族への VDB の固有の貢献とは、何だろうか」と。実に、サレジオ家族の 30 のグループのうち 5 つは在俗会です。VDB、ドン・ボスコの弟子、元后マリアの子女会、Cancão Nova (新しい歌)、ドン・ボスコ・ボランティア CDB です。「私たちはどんな状況でも、どんな時でも、用意できています！」これは、ローマで行われた 2015 年サレジオ家族週間での、VDB の熱意あふれる応答です。

謙遜に、非常に具体的で効果的に「地の塩」になることが、VDB の最良の貢献です。会員は共同体や外的な組織に守られることなく、ふつうの世俗の環境の中、イエスの従順、貞潔、清貧をあかしします。家庭や職場、地域社会を内側から変容させることができます。定期的な養成と毎月の静修が、会員の‘養成の家’です。会員は自分たちの奉獻を明かすことなく、ドン・ボスコの道にしたがってイエスの輝かしいあかしになります。VDB はこれを次のように言います。「私たちはイエスとドン・ボスコを社会にもたらず」。

VDB100 周年 (1917 - 2017) の準備は、すでに 3 年前に始まりました。VDB のルーツは、ヴァルドッコの福者ドン・フィリッポ・リナルディにさかのぼります。皆さんの管区の VDB 会員に会い、聞いてみてください。「あなたの召命は何のため？」この奉獻生活年に、そのインスピレーションに満ちた答えをお聞き逃しなく！

ドン・ボスコのうちに

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

## あなたのいちばん好きな祈りは？ - Cetera Tolle!

友人の皆さん！

毎日は神の恵みです。中国管区の特別訪問のあいだ、私は毎日耳を傾け、中国管区のサレジオ会員、サレジオ家族のメンバー、使命を共に担う多くの献身的な協働者、若者の皆さんの心を知ろうと努めました。2月19日は、私たちの地域の109回目の誕生日、1906年にヴェルシリア神父ほか6名の最初のサレジオ会員がマカオに到着したことを思い起こす恵みの時でした。数日前、聖ヴェルシリアと聖カラヴァリオの巡礼地で再び祈ることができ、特別な恵みでした。香港からそう遠くないけれども人里離れた山の中で、85年前に起きた2人の殉教を、その竹林は今も沈黙のうちに証言しています。この6週間、個人面談の中で、我らが中国管区の会員の、強く深い祈りの精神を感じました。「いちばん好きな祈りは？」という問いが、私たちの対話の中にあっただからです。

同時に、ドン・ボスコのいちばん好きな祈り、人生のモットーを、私たちは意欲的に自分のものにしていくだろうかと私はよく尋ねるようにしています。「(良き主よ) 我に靈魂を与え、ほかは取り去りたまえ！ (Da mihi animas, cetera tolle!）」この10年、私もこの祈りを自分のものにしてしようと努めてきましたが、今も挑戦のように感じています！ この祈りをたびたび真剣に祈るなら、人生は全く変わるでしょう！

ジャカルタでクリスマスを祝ったときのこと(2014年12月25日)、教会のある若い信徒が、善い羊飼いの十字架(サレジオ会の終生誓願のしるし)に惹きつけられました。彼は十字架の写真を何枚も撮り、善い羊飼いについて尋ねました。1800年前にさかのぼるこのイエスの姿を刻んだ小さな十字架と、ドン・ボスコの「愛されるように努めなさい」(Studia di farti amare!)という言葉の思い巡らす私たちサレジオ会員は幸いです。

フランシスコ教皇は、四旬節に、心の養成において前進するようにと招いておられます！ 教皇様はよく祈るようと呼びかけています。「私たちの心をあなたの心に似たものにしてください！」(Fac cor nostrum secundum cor tuum) 若者や子どもたち、あるいは兄弟会員の心に届くため、私たちは常に自分の居心地の良い場から出て行かなければなりません。居心地の良い場を後にするには、身軽でなければなりません - そうしてはじめて私たちは、耳を傾け、人の心に触れることができます。サレジオの十字架をいつも自分の前に置きましょう。ドン・ボスコと共に、ドン・ボスコのよう

に、たびたび祈るために。「良き主よ、我に靈魂を与え、ほかは取り去りたまえ！」

ドン・ボスコのうちに。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父 SDB

EAO ボナノッテ(13)

2015 年 4 月 5 日

## 奉獻生活への召命を引きつけるものは？

友人、会員の皆さん、心からのごあいさつを送ります！

40 日間の四旬節を経て、私たち皆のため、一人ひとりの人ために十字架につけられ、復活された主イエスとの出会いの深い喜びを分かち合えるうれしさを、私たちは味わっています！

この 2 か月の中国管区訪問中、私はより深い関心をもって、サレジオ会員やサレジオ家族のさまざまなグループのメンバー、そして使命を共にする信徒・協働者の皆さんのサレジオ会召命についての話にたびたび耳を傾けました。私たちは召命の文化を築き上げるよう呼ばれており、召命キャンプや集い、出会いの場を定期的に提供する必要があります。EAO のほとんどの管区には召命の担当者がいます。

残念ながら、私たちの地域には召命が非常に少ない“特別なところ”もたくさんあります。サレジオ会は台湾で 52 年間働いていますが、台湾人の会員はまだ 3 人しかいません（司祭 1 人、神学生 1 人、ポスト・ノビス 1 人）。EAO で最も古いサレジオ会事業（中国 - マカオ）では、この 24 年間、新たなサレジオ会修練生は生まれていません。他方、オーストラリアでは新たな“召命の泉”が湧き出し、カンボジアとパキスタンに最初のサレジオ会員たちが誕生しています。私はたびたび自問します。「今、サレジオ会奉獻生活に若者たちを引きつけるものは何だろうか？」

たくさんの答えがありますが、その一つはヨハネ李神父です（南スーダンで働いた韓国人宣教師。癌を患い、2010 年に帰天）！ 90 分の映画、「スーダンよ、私のために泣かないで！」が私たちの地域のサレジオ会召命に、そして新たな求道者にさえ、今も影響を与え続けている（公開から 5 年）ことは信じられないほどです（<https://vimeo.com/69300535>）。韓国では、毎年新たな志願者のうち何人かが、初めに李神父のあかしを通してドン・ボスコに惹きつけられたと打ち明けます。ベトナム

人サレジオ会員の宣教師召命の多くは、この映画がきっかけでした。日本の十代の求道者の中にさえ、信仰の道を歩みはじめたきっかけが、この若い宣教師の姿だったという人がいます。

李神父は、非常に困難な場所へ若者のために派遣され、全面的に献身する宣教師の姿を示しています。彼はオラトリオの“アシステンテ”として献身的に奉仕し、多くのスーダン人の子ども・若者の心に触れました。「スーダンよ、私のために泣かないで」は、誠実に、徹底的にイエスに従う人を描きます。そうです、多くの人が涙を流し、彼の物語に深く心を揺さぶられました！ 若者たちのただ中に生き、全面的に仕える者となり、すべてをささげ、自分のことを忘れる、そのようなサレジオ会員アシステンテの生涯ほど魅力的なものはありません！

実り豊かな 2015 年の復活節をお祈り申し上げます。復活節は 50 日間、若者たちの中で、兄弟姉妹の中で、謙遜に仕える者となるオラトリオの生き方をあかしする機会です。

ドン・ボスコのうちに。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父 SDB

EAO ボナノッテ(14)

2015 年 5 月 1 日

## アンヘル神父様、EAO 地域へようこそ！

友人、会員の皆さん、

つい昨日の朝、ポートモレスビーの空港で、新総長を初めて東アジア・オセアニア地域に迎えました！ アンヘル神父様、ようこそ！

3 か月間の中国管区訪問の後、私は総長と共に、この 20 日間の旅を始めました。パプアニューギニアに到着したアンヘル神父様はこれから 3 週間（4 月 30 日 - 5 月 17 日）を、パプアニューギニア、ソロモン諸島、フィジー、サモア、ニュージーランド、オーストラリアで過ごします。そのうち 3 つの国は、総長の訪問を受けたことはありません。

前任者のパスクアーレ・チャーベス神父は 8 年前、次のように語りました：「地理的に、ローマから最も遠いのは、東アジア・オセアニア地域のどこかでしょう。2004 年

にオーストラリアとサモアへ旅したとき、このことを自分で確認することができました。私が訪問したとき不在で、2006年5月に自分の夢を語ったのは、最初のサモア人院長でした：『ドン・ボスコの聖地を訪れてみたいです。そして一生に一度でいいから、総長に会ってみたいです……』。……管区によっては、総長の最後の訪問が24年前になるところもあります。また、総長が一度も訪れたことのない場所もあります。ソロモン諸島、パキスタン、モンゴル、ラオス、フィジーなどです」(最高評議会報397, 2007年2月)。アンヘル神父様が第27回総会中、EAOの中でサレジオ会の前線にまず来ていただきたいという招きを受けてくださったことを、感謝します。

これからの3週間、太平洋の地域で互いに遠く離れて暮らすサレジオ会修道士と司祭たち、たった100人余りに総長は会うことになります。

ドン・ボスコの第10代目後継者によるEAO地域のこの最初の訪問は、私たちにとって何を意味するのでしょうか。まず、喜びと祝いの雰囲気だけでなく、私たちは子どもが父親と会うようにアンヘル神父様に近づき、単純に自分たちの生活を分かち合い、アンヘル神父様の分かち合いにも耳を傾けたいと思います。サレジオ会員に会うために、それぞれの国で十分な時間を取ってほしいと総長は願いました。第2に、私たちが世界のサレジオ会共同体の一員であるという感覚を深める、良い機会になります(会憲第59条)。最後になりますが決して小さくはない意味として、恵みの年DB200の永続する実りを総長と分かち合う良い機会になるということです！ ようこそ！

総長秘書のオラシオ・ロペス神父様(アルゼンチン)のほか、ANSビデオ制作のジェイコブ・イルツパッカートゥ神父様(インド)も私たちに同行しています。広報のメンバーがいることは、ANSと共に、Boscoink(<http://www.bosco.link>)でも日々分かち合いをする大きな助けになります。また、オセアニアに目を向けるサレジオ宣教の日2016のビデオのためにも、良い機会です。6つの国それぞれで、サレジオ会員と信徒協働者が、日々の生活の中で福音を知らない人々にイエスをどのように告げているか、インタビューを受ける予定です。

マリアの月、5月が皆さんにとって実り豊かでありますように！

ドン・ボスコのうちに

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父,SDB

## アンヘル神父様、Tenk yu tru 交わりの贈りものをありがとう！

友人、兄弟会員の皆さん！

最高評議会の会合1日目に、ローマより、心からのあいさつを送ります。2015年のこの5か月をふり返るとき、思いはただ深い感謝に満たされます。特に、総長の私たちの地域への最初の訪問の3週間を感謝します。アンヘル神父と出会ったすべての会員の気持ちや考えを分かち合う最良の方法は、2人の長上の声を、本人たちの言葉で皆さんに伝えることだと私は確信します：

「オセアニアの6つの国々への訪問の初めから終わりまで、総長は目を見張るような影響、消えることのない効果を、出会い、関わったすべての人に与え、言葉のあらゆる意味で、ドン・ボスコの精神、父のような温かさ、友情を体現しました。……私にとっては、新総長は絶えず励まし、肯定し、現状の困難を前にする私たちの自信を常に支え、気力を高めてくれる人でした。正直でオープンな人、洞察力があり、率直で、現状の課題や問題を評価し、『見たままのことを語る』のを恐れない人だと感じました。さらに、「難しい決断」を行い、大きな挑戦を投げかけ、意味のある行動と責任ある取り組みをもって夢やプロジェクトを推し進める勇気と大胆さのある人だとお見受けしました。最後になりますが、最も重要なこととして、力と粘り強さのあるリーダーだと思いました。笑顔を絶やさないその姿は、サレジオの快活さと楽観的精神を深く備えていることを物語っています。」

会員の皆さん、特に院長、デレガート、管区長の皆さんのおかげで、総長訪問の良い準備ができ、また、オセアニアでイエスを宣べ伝える福音宣教に焦点をあてたサレジオ宣教の日2016のビデオのため、多くのインタビューを共にする良い機会になりました。ドン・ボスコ・アラファの44名のボスコニアン-生徒と共に‘DB200号’を漕いでたどりついたサモアの浜辺で行われたアンヘル神父の歴史的インタビューも、私たちにとって特別な意味で大切な出来事になりました。

「総長様、会への奉仕の1年目に、あなたはすでに25の国を訪れ、約2,600人の会員と顔と顔を合わせて出会いました。それにしても、ローマから最も遠く離れた者たちのもとへ来てくださるとは、私たちにとっては力強いしるし、祝福です。そうです、親愛なる総長様：『フィジー、サモア、ソロモン諸島、パプアニューギニア、ニュージーランド、オーストラリアは、ローマから決して遠いことはありません！』この大声で発せられたメッセージに感謝します、インスピレーションを与える存在として私

たちと共にいてくださることを感謝します！ アンヘル神父様、就任されて1年目に、オセアニアにこれほど心をかけてくださりありがとうございます！」

私たちがいただいたいちばん重要な贈りものは、より強められた交わりです。もう一人の長上はそのことを次のように言っています：「私にとり、アンヘル神父様がもたらしてくれた最も大きな恵みは、交わりです。ドン・ボスコ（その後継者として）とドン・ボスコのカリスマとの交わり、サレジオ世界との交わり（私たちサレジオ会員だけでなく、サレジオ家族、ボスコニアンも）、そして私たちの委任地区における交わりです。それは私たちを再び、同じ心、同じ理想のもと一つにしてくれました。」

Tenk yu tru! (パプアニューギニア)

Tangio tu mas! (ソロモン諸島)

Vinaka! (フィジー)

Fa-afeatai! (サモア)

Kia ora! (マオリ)

本当にありがとうございました！

ドン・ボスコのうちに

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父,SDB

EAO ボナノッテ(16)

2015年7月1日

## ‘ヴァルドッコで見たこと、それを EAO で！’

友人、兄弟の皆さん！

この聖年のあいだ、私はヴァルドッコの私たちの最初の家で数日を過ごしました。先週訪れたときは、フランシスコ教皇のトリノ巡礼（扶助者聖マリア大聖堂）と重なり、その数週間前は、ドン・ボスコ生誕 200 周年を記念する、90 人以上のサレジオ会員司教と総長の集いのためでした。恵みの時でした！

この年のあいだ、ドン・ボスコの聖地を訪れる実に多くの EAO の巡礼者と出会えることも驚きです。これまですでに、オーストラリア、カンボジア、中国、日本、インドネシア、韓国、ラオス、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナムからの巡礼者が訪れています。このように問うことができるでしょう：誕生から 200 年後にヴァルド

ッコでドン・ボスコに会うことの実りは何だろう？ サレジオ会員ティム・コステロー大司教の単純で深い分かち合いは、この聖年に、サレジオの心と魂を深く洞察させてくれるものと言えるでしょう。

「私にとり、その体験の真の価値は、沈黙のうちに過ごした時の中に大いにあるのではないかと思います。巡礼者たちがみな宿に帰り、オラトリオの敷地を散策したり、聖フランシスコ・サレジオ聖堂で静かに座ったりすることのできた時。これらの場所は、私たちのよく知る物語や出来事が実際に起きた現場です。オラトリオの中庭にいるドン・ボスコ、大聖堂の外や、ドン・ボスコの部屋のあった窓の下にたたずむドン・ボスコを思い浮かべるのは容易なことでした。聖フランシスコ・サレジオ聖堂の祭壇の後ろにある小さなスペースに、静かに座ることができます。そこは、ミサが終わって何時間もたっているときに、年若いドメニコ・サヴィオがまだ祈っているのをドン・ボスコが発見した場所です。ドン・ボスコが朝食のロールパンを配った戸口に立つことができます。かごの中にロールパンが数個しかなかったのに、少年たち全員に食べさせることができたときの戸口です。幸運にも失敗に終わった暗殺未遂事件で、何者かがドン・ボスコに向かって発砲したときの小さな窓を見ることができます。グリージョの吠える声、夕食が出来たと子どもたちを呼ぶマンマ・マルゲリータの声を、あるいは青年たちを周りに集め、愛されていると子どもたちが知ることがどれほど大切かを語るドン・ボスコの姿を想像するのも、難しくありませんでした。

私は、司教任命が発表されて間もない頃（2007年）、ヴァツラフ神父が私に言ってくれた言葉の意味をより深く受けとめてオーストラリアに戻って来ました。元サレジオ会員の司教ではなく、教会のためのこの新たな奉仕職においてサレジオ会召命を生き抜くように呼ばれた、司教でもあるサレジオ会員になるために力を尽くすべきだという言葉。トリノで過ごした時間は、サレジオ会員であることの意味の理解に新たなのちを吹き込んでくれました - そして願わくは、誕生したその場所で、実に手で触れ、近づくことができるように感じられるドン・ボスコの精神をもって、司教職を豊かにするのを助けてくれるでしょう。」

私たちのそれぞれの共同体の家が、ヴァルドッコのような存在にますますなるようにとの心からの願いをこめて。ドン・ボスコは私たちに語ります：ヴァルドッコで見たことを実践してください、フィリピンで、東ティモールで、フィジー、ミャンマー、韓国で、オーストラリア、タイ、モンゴルで……！

ドン・ボスコのうちに。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父 SDB

## ドン・ボスコ、誕生日おめでとう！

いよいよ2015年8月16日がやってきました - 数年をかけて準備してきた私たちは、とうとうあなたの200歳の誕生日を、共に心から祝う時を迎えました！

「親愛なるドン・ボスコ、ベッキやヴァルドッコから最も遠いサレジオの地域であるあなたの200歳の誕生日を祝うことは、EAO地域の私たち皆にとって、とても豊かな意味があります！」

「あなたの聖遺物を4年前、韓国、日本、香港、マカオ、台湾、タイ、カンボジア、ベトナム、ミャンマー、フィリピン、インドネシア、東ティモール、オーストラリアに迎えることができ、私たちは幸運でした。何千人ものサレジオ家族のメンバーが、あなたとのこの特別な出会いを、生涯にわたって宝物のように大切にしてください。」

「EAOの各国語であなたの著作を翻訳、出版することによって、あなたの生涯の物語、あなたの精神を広めるために私たちが頑張ったことを、あなたにご存知です。私たちはこの4年間、DB200の数多くのイベントを行うため、努力、資金、サレジオ家族のエネルギーを惜しみませんでした。会議、シンポジウム、祝祭、スポーツ大会、若者の集いなど。多くの管区は、あなたの愛するベッキとヴァルドッコへの巡礼を企画しました。」

「親愛なるドン・ボスコ、あなたの生誕200周年の実りを引き続き収穫できるよう、私たちを助けてください！ 貧しい若者へのあなたの優先的な愛をあかしする知恵と熱意を私たちにお与えください、後の世代が、東アジア・オセアニアのさらに多くの場所で、あなたの生誕300周年も祝うことができますように！」

この祝いの年の実りとしてパプアニューギニアの若者が書いた次の決意が、私たちの心の奥にあふれる思いを表すものでありますように：「ああ、あわれみに満ちた神よ、私はドン・ボスコの道について行きたい！ 助けを必要とする貧しい若者に手を差し伸べることができるように、私を助けてください。若者たちをドン・ボスコのもとに連れて行き、イエス・キリストに近づけることができるように。私たちの主キリストを通して、私がすべての人のために輝く光になれるように！ アーメン。」

また、中国管区が制作したこのDB200のロゴ：「心から心へ、手に手をとって、サレジオ家族の未来に向かい、共に前進しよう」は、私たちの道を示しています！

愛するドン・ボスコ、心の底からお祝いします - 誕生日おめでとう！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(18)

2015 年 9 月 1 日

## 収穫の時……若者と共に！

友人、会員の皆さん！

何日か前、私たちの共同体、委任地区、管区の多くで、私たち一人ひとりにはドン・ボスコ生誕 200 周年のさまざまなお祝いに参加しました。AustraLasia (<http://www.bosco.link>)のニュースを通してそれぞれのお祝いを分かち合ってくれた数多くのサレジオ会員やドン・ボスコのサレジオ家族の皆さんに、心から感謝します。トリノとベッキから、アニサカン、オークランド、バンボン、セブ、ダルカン、香港、ホーチミン市、マニラ、メルボルン、ソウル、サモアのアピアに至るまで、私たちは感謝をささげ、父・創立者を囲む家族としての深い喜びを味わいました。今、祝祭は（ほぼ）終わりました。私たちは問いかけることができます — 大きなお祝いが明けた今日、次の歩みはどのような一歩になるのだろうか、と。

フェルナンデス神父は 2015 年の書簡「200 周年の五つの実り」(最高評議会報 421)をサレジオ会員に送りました。一つ提案したいと思います — その五つの単純な、深い夢を、周りの若者と分かち合いましょ！ 宣教ボランティアの若者の存在がどれほど修道共同体 (SDB, FMA, ほか) の意識を変えるか、一年間、彼らが私たちと共に祈り、食べ、働き、分かち合ったならわかるでしょう。2015 年のストレンナ「ドン・ボスコのように、若者と共に、若者のために」は、若者と共に生活し、計画を立て、働くという挑戦を私たちに投げかけていると私は感じます！

総長の最初の夢は、幸せなサレジオ会員です。これは中国管区のサレジアニ・コオペラトリーの「幸せな召命運動」を後押しするものです。この運動は、すでに昨年、フェルナンデス神父の五つの夢に 10 か月先立って始まりました！ それは、教皇フランシスコの「福音の喜び」の道を歩み続ける助けになります。私たちの周りの若者に次の問いかけをさせ、勧めるなら、何が起こるのでしょうか。「神父様、ブラザー、シスター、先生……どんな時、本当に幸せと喜びを感じますか？」このようにして、自分たちの生き方を若者に開かれたものとするよう努めるなら、私たちはドン・ボスコの

最も深い喜びを見いだすかもしれません。

私たちの日常生活にもっと若者を受け入れましょう：若者たちに熱心に耳を傾け、彼らのニーズ、疑問を私たちの共同体の祈りに加え、あるいは若者のアニメーターやリーダーを共同体の食事、祈り、分かち合いに招きましょう。生活を若者に向けて開くなら、若者たちの生活の中に神を見いだすことができるようになり、サレジオのミッションにおける若者たちの重要な役割を、もっと信じるようになるでしょう。若者たちともっと生活を共にするなら、私たちはより本物のサレジオ会員になっていけるでしょう — 羊が羊飼いに変わる夢を見たドン・ボスコのように！

聖ヨハネ・ボスコのうちに

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父,SDB

---

EAO ボナノッテ(19)

2015年10月1日

「ドン・ボスコをごらん！」

チマッティ師は今もインスピレーションの源

友人、会員の皆さん！

私たち EAO 地域の中には、“自分たちのドン・ボスコ”をいただいた幸せで恵まれた管区があり（中国、ベトナム、フィリピン、フィジー、パプアニューギニアなどのドン・ボスコ）、またその地域の人の中に受肉したドン・ボスコが現れるのを今も待つ管区もあります。このことは、最初の宣教師たちの中にサレジオ的な生き方を徹底的に生きた人物がいたということです。その人たちは、特定の文化や状況の中で、ドン・ボスコを目に見える存在にしました。その偉大なサレジオ会員たちに感謝！ チャーベス神父はよく言っていました：「サレジオの歴史の最良のページの数々は、私たちの宣教師によって書かれました！」

10月6日、私たちは日本のサレジオ家族と共に、尊者ヴィンチェンツォ・チマッティ師（1965-2015）の帰天50周年を記念します。チマッティ師は最初の宣教団の指導者として、日本で40年間働きました。東京の調布では、毎月6日、チマッティ師の墓所と資料館のそばで、特別なミサと集いが行われます。EAOの多くの会員に、一度はチマッティ資料館を訪れてほしいと私は願います。資料館では、100年前にカリスマ

を共有した EAO 初期の宣教師たちの宣教への情熱と宣教の計画について優れた展示が見られます。

ヴィンチェンツォは 3 歳のとき、教会でドン・ボスコが説教している中、母に言われました：「ドン・ボスコをごらん！」 サレジオ会の召命を歩みはじめ、将来のサレジオ会員の優れた養成担当者としてトリノで長年働いた後、とうとう 46 歳のとき、チマッティ師は日本への最初の宣教団の指導者として派遣されました。調布のチマッティ資料館を見学すると、なぜチマッティ師が「日本のドン・ボスコ」と呼ばれたかが容易にわかります。多岐にわたる第一次福音宣教の活動、教育・社会福祉事業、音楽や化石のコレクション、広報活動、最初の日本人の召命の養成などについての展示は、チマッティ師の宣教の情熱をよく裏付けています。

先の 9 月 27 日、第 146 回宣教派遣によって 25 人の新宣教師がヴァルドッコから派遣されました。1925 年のチマッティ神父のように。私たちは EAO 地域に 2 人の宣教師を迎え（カンボジアに派遣されたマイケルとジョシュア）、また EAO の 3 つの管区から派遣された 9 人の新宣教師（韓国 2 人、フィリピン北 2 人、ベトナム 5 人）のために祈ります。

今日、私たちはマリアの月、宣教の月である 10 月に入りました。「主よ、私をお遣わしてください！」 - サレジオ宣教の日 2015 - は、宣教師の生きたあかちに耳を傾けるよう招くものです。宣教師となった動機、宣教の生活の喜びや困難について、宣教師たちに語ってもらいましょう。彼らの話に耳を傾け、ドン・ボスコの宣教師を見るとき、多くの若者がチマッティ師のようにサレジオの召命の道を歩み出すかもしれません！

御父の宣教師、イエス・キリストのうちに。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父 SDB

EAO ボナノッテ(20)

2015 年 11 月 1 日

**‘おやすみなさい ボナノッテ’ - マンマ・マルゲリータに感謝！**

友人、会員の皆さん！

サレジアニ・コオペラトリー第 1 号のマンマ・マルゲリータを記念する月にボナノ

ッテについてのこのボナノッテを分かち合えることを、大変嬉しく思います。ドン・ボスコ生誕 200 周年の間、聖ヨハネ・ボスコに目が向けられてきましたが、フランシスコ教皇も、6月21日、ヴァルドッコの扶助者聖マリア大聖堂での集いの際、ドン・ボスコの母に光をあてました。サレジオのカリスマへのマンマ・マルゲリータの非常に重要な貢献の中には、オラトリオの初期の頃、最初の寮生たちに聞かせたボナノッテもあります。

私たちの地域のほとんどの管区をすでに訪問し終えた今、私たちの日常の共同体的、司牧的生活におけるボナノッテのカリスマ上の重要性について、私は以前にも増して認識するようになりました。あるのとないのとは、大きな違いです - 朝のひと言のないドン・ボスコの学校、あるいはボナノッテのないサレジオ会共同体。この短いながらも力強い日々のひと時が、いかに多くの若者やサレジオ家族のメンバーの生活を変容させているか、驚かされます。何がこの違いをつくり出すのでしょうか。

日々のこの短いひと時が多くの実りをもたらすとドン・ボスコは考えています：一日を締めくくる助け、共同体を築き上げる、現実を信仰の目で見ると訓練などです。総長アンヘル神父は毎日、フェイスブックで「朝のひと言」を、英語、イタリア語、スペイン語で、何千もの友達と分かち合っています (Angel Fernandez Artime Rector Mayor)。サレジオの院長、教育者、アニメーター、家庭のお父さん、お母さんたち一人ひとりが、この日々のささやかな3分から5分くらいの分かち合いの魅力と効果を、実感しているのです。

そうです、私たちは共同体の中で (学校、家庭、修道共同体、グループホーム、寮などで)、この分かち合いと物語ることの、絶えず新たにされる体験を必要としています。一人ひとりの生活の分かち合いに毎日耳を傾けるかどうか、この複雑な世界を信仰の目で読み取るかどうか、どちらも同じということはありません。マンマ・マルゲリータのこの発明のおかげで、人生がより豊かになり、人生の意味とより深い喜びを見いだしていると、私たちは確信しています。

チェコスロバキアで、サレジオ会の修練準備期生として、夏のキャンプで子どもたちに初めてボナノッテを聞かせるように頼まれたとき、私は震えていました。韓国の光州で副院長だったとき、朝から考えていました：「夕の祈りの後で、共同体と何を分かち合おうか」と。この13年間は、各地の会を訪ねる継続的巡礼の途上で、ほとんど毎日のように若者や会員と朝のひと言やボナノッテを分かち合えるのは、とても嬉しいことです。そしてドン・ボスコの母とその温かな優しい発明を忘れてしまった共同体を訪れると、とても悲しくなります。日々の生活で、朝のひと言やボナノッテを失い、さびしい思いはしていませんか？ おやすみなさい、ボナノッテ！ マンマ・マルゲリータ、ありがとう！

ドン・ボスコのうちに。

EAO ボナノッテ(21)

2015年12月1日

## 善き牧者の心で、神のいつくしみの年に入る！

友人、兄弟の皆さん！

11月中、数多くの空港で、日々の黙想の時間に、ドン・ボスコ生誕200周年を祝ったこの2015年に得られた特別な「発見」や「洞察」について振り返りました。この200周年、私たちが日常的に身につけているしるし、サレジオの十字架に私の注意は向かいました！ ボナノッテを話すとき、信徒・協働者や若者に講話をするときなど、数多くの機会にこのサレジオのしるしの意味について分かち合うことができました。善き牧者イエスよりインスピレーションを汲む、サレジオの心 - ドン・ボスコの心を表す十字架が、いかに人々の深い尊敬と感謝を集めるかに、私は驚かされました。ドン・ボスコの帰天100周年を記念した1988年以来、この「十字架」は唯一無二の、典型的なサレジオの象徴になりました。EAOのほとんどの管区でこの十字架は共通の目に見えるしるしであり、世界中どこへ行っても、サレジオ会員 - ドン・ボスコの修道士・司祭であると認識させてくれるものです。

善き牧者としてのイエスは、初代キリスト教芸術の最も意味深いイメージの一つで、おそらくイエス・キリストの姿を描いたものとして、最も古い像の一つでしょう（カタコンベ）。サレジオの十字架の裏側には、ドン・ボスコの手書きの言葉を写した文字が見られます。Studia di farti amare（1884年、ローマからの手紙：愛されるように努めなさい！） - ドン・ボスコの予防教育法の心 - ドン・ボスコの霊性、教育、生き方を表す言葉です。

ボナノッテ、おやすみなさい、そして良い「いつくしみの聖年」の開始を！

ドン・ボスコのうちに。

## いつくしみの母 - 誰をも拒まず受け入れてくださる母の愛

親愛なる友人、兄弟の皆さん！

カンボジアの使徒座知牧区のバタンバンを訪れるたびに、私は最も意味深く美しいマリアの彫像の一つ - いつくしみの母に、深い感動を覚えます。キリング・フィールド、殺戮の原野の国にこの像が現れたのは、偶然ではありません。その元の呼び名は「すべての人を受け入れる愛の御母」です。この温かく迎え、抱擁し、微笑むマリア像を素直な心で観想することは、2016年のいつくしみの聖年の旅を歩む私たちの助けとなるかもしれません。

バタンバンの使徒座知牧区長エンリケ・フィガレド神父 SJ による単純明快なカテゴリーは、このいつくしみの聖年の初めにあって、私たちの助けとなります：

「マリアはイエスを抱いています。イエスは両手を開いて、近づこうとするすべての人を迎えています。お二人とも、慈愛という温かな衣をまとい、相手の警戒を解かせてしまう微笑みを浮かべておられます。

像の中央には、二人の子どもがいます：一人は、善悪を見極める助け、知恵を象徴する本を持っています。もう一人は笛を吹き、神を讃える芸術、音楽、伝統を合わせて表しています。子どもの一人は車いすに乗り、平和の象徴、鳩を抱いています。別の一人は松葉づえを使いながら、愛のしるし、花束を持っています。神の最も大いなる掟です：「私があなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい！」松葉づえと車いすは秘跡のようです、彼らに尊厳を取り戻させ、障害者と障害のない者との間の交わりを作り出します。

聖母のマントは私たち皆が所属する家族を表しています：それは教会です。私たちは皆、このマントの中に入っています。

下方には蓮の花があります。蓮の花は、カンボジアで最も象徴的な花で、栄光、清らかさ、聖性の象徴です。」

使徒座知牧区では、たった 10 人の司祭が、31 の小教区と宣教拠点で働き、4 千人のカトリック信徒に奉仕しています。信徒たちは、大多数が仏教徒の 5 百万人の人々のただ中で暮らしています。この聖母像は知牧区のすべての小教区にあり、障害を負

ったカンボジア人芸術家たちによって彫られたものです。このことは、私たちの状態がどのようなものであろうと、イエスが私たちの人生・生活にもたらしてくださる神の愛を運ぶために、お互いに助け合うことができることも、示しているのです。

カンボジアの若い教会のこの美しい姿が、この年を新たにされた心で、いつくしみに満ちて始めるのを助けてくれますように！

心より、幸多い新年でありますように！

ドン・ボスコのうちに

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父,SDB

EAO ボナノッテ(23)

2016年2月1日

## あなたの生きるエネルギーはどこから？

友人、会員の皆さん！

EAO の多くのサレジオ会共同体で各会員の誕生日は、感謝をささげ、家庭的なお祝いをするすばらしい機会になっています。そうであるなら、2016年2月13日は、なおさら祝う理由があります。私たちの地域の誕生日なのです！ ちょうど110年前、ルイジ・ヴェルシリア神父に率いられた6人の宣教師の小さな集団が中国のマカオに到着し、‘世界の中の私たちの地域’での、最初のサレジオ会の事業が始まりました。このEAOの最初の創立の歴史的記念 - 1906年2月13日の中国、マカオへの最初の宣教師の到着 - が、私たちにとって、神から頂いた召命と使命への忠実をさらに深めるインスピレーションとなりますように！

第51回国際聖体大会が、昨日、セブで、チャールズ・ボー枢機卿, SDB の司式によって閉幕しました。大会中のさまざまな行事は、フィリピンのサレジオ会員たちによって、毎日 *austraLasia* ニュースを通して分かち合われました。この聖体大会は、私にとって、私たちの生活と使命における聖体の中心的な位置づけについて振り返る助けになりました。私たちの多くの管区や共同体の「生活における聖体の不足状態 Eucharistic life deficit」(チャーベス神父, 2007-最高評議会報 398) を、私たちは謙虚に認めます。

生活における聖体の不足状態とは、どういうことでしょうか。私たちは忙しくしていることを選び、人のためにたくさんのことをする活動に紛れ、大きな愛で神に愛されていると知る驚きを、自分自身から奪っているのです！ 私たちの生活の中で、聖体の心は鼓動しているのでしょうか。私たちの周りの人は、私たちがキリストと頻繁に出会っていること - 聖体が、若者のための使命のエネルギーと堅忍の源であることを、見て取れるのでしょうか。聖体の心が私たちの内に息づいているならば、イエスと出会ったことのない若者とどのようにイエスを分かち合うか、その方法をいつも見つけることができるでしょう。そうです、聖体の心は、私たちの宣教の生活スタイルによって推し量ることができます。聖体への愛は、貧しい若者へ、イエスに出会ったことのない若者へと、私たちを送り出すのです！

この写真‘地球の聖櫃’が、私たちのカリスマと教育の根本的な要素としての聖体を中心とした生活について、個人で、また共同体で振り返る助けとなることを願っています。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父,SDB

EAO ボナノッテ(24)

2016年3月1日

## 十字架の道の向こうに

友人、会員の皆さん！

東アジア・オセアニア地域の若いサレジオ会員はベッキのドン・ボスコ大聖堂を訪れると、光の道行の14留を見て驚きます。私たちの11の管区で光の道行はあまり知られていません。ここで、2016年の復活節にこの道行を祈るようおすすめしたいと思います！

キリストの生涯の最後の12時間の出来事を取り上げる、14留から成る十字架の道行は、教会で古くから行われている祈りです。それは特に四旬節にふさわしい信心です。しかし、私たちのまなざしが復活に注がれる復活節には、十字架の道行は少々場違いに思われます。

そこで、25年前、一人のイタリア人サレジオ会司祭、サビーノ・パルンビエリ神父（正式にサレジオ家族の一員となっているグループ「復活の主のあかし人」の創立者）は、四旬節の信心の延長となる復活節の信心を編み出そうと、インスピレーションを

受けました。パルンビエリ神父は、キリストの受難と死のさまざまな場面を、復活の日から五旬祭の聖霊降臨までの間に起きた出来事と入れ替えました。

その後まもなく、一人の芸術家、ジョヴァンニ・ドラゴーニ氏（同窓生）がサビーノ神父のビジョンをとらえ、木彫の 14 留を製作しました。そして 1994 年、復活の主日、初めての光の道行がベッキの丘、ドン・ボスコ大聖堂で祝別されました。（写真参照）

この 2016 年の復活節に「光の道行」を祈ってみたいと関心のある方のため、Boscolink でイタリア語、英語、フランス語、中国語、日本語のさまざまな資料を読むことができます。

来たる復活節のお祝いのあいだ、神様の大きな愛を実り豊かに体験されますように。

ドン・ボスコのうちに

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父,SDB

EAO ボナノッテ(25)

2016 年 4 月 1 日

## サレジオ家族は聞くことによって成長する！

友人の皆さん、兄弟の皆さん！

皆様、あらためて主のご復活の旅、おめでとうございます！ 第 27 回総会后、総長による記念すべき初めての東アジア訪問から、すでに一月がたちました。訪問の間には、マニラのバトゥラオでの EAO 管区長・委任地区長との忘れがたい 2 日間の会合もありました。

多くの管区長は、活性化と統治の奉仕のなかで、いかに謙遜、忍耐、分かち合いにおいて成長させてもらっているか分かち合ってくださいました。管区長たちは、会員に耳を傾けるため、多くの時間を費やしています！

エマオの村に向かって二人の弟子と共に歩まれたイエスは、落胆して方向を見失ったこの二人に何時間も耳を傾けました。旅の道で忍耐強く耳を傾けてくださらなかったなら、弟子たちは復活された主の顔を見いだせなかったでしょう。

コッレ・ドン・ボスコ（ベッキ）で、大聖堂の中央で、私たちは復活された主の大きな木像に出会います。大聖堂を出る前には、エマオの道のイエスを描いた色彩豊かな大きなフレスコ画が私たちに語りかけます。

私たちは兄弟サレジオ会員のため、日々耳を傾けることを通してどれほどの時間とエネルギー、忍耐をかけているのでしょうか。若者との対話に、私たちはどれほど時間をかけているのでしょうか、あるいは、信徒協働者やサレジオ家族のメンバーの発せられることのない言葉の意味を、どれほど受けとめているのでしょうか。

心から心に単純に耳を傾けることの大切さを、私たちは謙遜に認めます！ ドン・ボスコの時代から、私たちサレジオ家族は耳を傾けることによって成長してきたのです！ここに添えたパウロ・アルベラ少年の告解を聞くドン・ボスコの写真は、エマオの物語が今日も生きていることを示しているのです！

よく耳を傾ける、実り豊かな 2016 年の復活節を過ごされますように！

ドン・ボスコのうちに。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(26)

2016 年 5 月 1 日 / ティルチー

## 農村の辺縁で教皇フランシスコを発見!

友人の皆さん、兄弟の皆さん

私たちはたった数時間前、ここティルチーで、3 か月に及んだインド最南端の管区の特別視察を終えたところです。220 人余りの、多くが若いサレジオ会員の心と魂を日々の生活の中で一人ひとり知ることは、すばらしい体験でした。今なお半数近い会員がまだ初期養成中で、平均年齢はたったの 35 歳です。この成長、熱意、喜びあふれる生き方の秘訣は何でしょうか？

ティルチー管区は 1999 年にこのモットーを掲げて創設されました: 辺縁にある人々を真ん中に！ 教皇フランシスコとまさに同じ動きです！

この3か月、タミール・ナドゥの多くの農村の小教区と、村々や海沿いのいくつもの小さな拠点を訪ねるのは、心躍らせる体験でした。我々がサレジオ会員たちは本当にとっても簡素な生活を送り、大変貧しい人々に仕えています。人々の多くは“生まれながらのカースト”（ダリト - 不可触賤民）でもあり、今なお社会から疎外されています。

サレジオ会はどのようにイエスの福音をあかししているのでしょうか？ 出かけて行って人々と出会う彼らの力量の広さ・大きさは、見事です。サレジオ会は、ほかの宗教の人々が多数を占める多くの村でも青年グループを組織し（村のために奉仕する）、生活を助ける女性たちの自助グループに力をつけさせ、子どもや若者が共通善に責任をもって取り組む「子ども会議」に同伴しています。

この3か月、私は何百回も質問しました：あなたの心を深い喜びで満たすものは何ですか？ 実に、サレジオ会員の喜びは貧しい人々と共に歩み、教育 - 小さな部屋の夜間学校から、農村部からの最初の世代の少年少女たちの高等教育に至るまで - によって人々の人生変化を起こすことができることから来る喜びです。

農村の小さなキリスト者共同体の多くで、私は教皇フランシスコの心を発見しました。実に、その地方のカトリック・テレビ・チャンネルで毎日教皇の姿を見ている人々もいて、苦闘する生活の中、とても勇気づけられています。人々の喜びは周りにも伝わります！

私たちは再びマリア月 - 5月 - に入りました。カナでそうであったように、今日もマリアは、人々の必要をどのように発見すればよいか教えてください：「ぶどう酒がなくなりました！」 自分たちの安全地帯から出て、最も助けを必要とする若者たちに出会いに行きましょう。

すべての民の助け、マリア！ マリアを、多くの宗教の人々が呼び求めます。マリアは今日も、すべての人のまことの母です。実り豊かな5月を、開かれた心の月をお祈り申し上げます！

ドン・ボスコのうちに。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父 SDB

## サレジオ会修道士、イエスのみ心のうちに！

友人の皆さん、兄弟の皆さん、

新たにされ、よき牧者—イエスのみ心を発見するためのすばらしい機会、いつくしみの聖年が続いています。4か月ぶりにローマに向けて旅立つ前に、私はこの期間の最も意義深い発見について思いめぐらしました：サレジオ会修道士がいるかないかで、私たちの生活と使命にどのような違いが出てくるかについてです。

すでに30年前、エジディオ・ヴィガノ神父は指摘しています。「サレジオ会修道士が全くいなくなってしまうようなことがあれば、私たちはドン・ボスコのサレジオ会ではなくなるでしょう」。私はインドのある管区の3か月にわたる特別訪問で、サレジオ会修道士の召命をほとんどあきらめてしまったような姿勢に、驚きと悲しみをもって出会いました。220人の会員のうち修道士はたった6人しかおらず、ザッティやスルギ、サンドルのような修道士たちの新しい世代を興そうという動きは、全く見られなかったのです！

幸い、世界中の214名の有期誓願を立てたサレジオ会修道士のうち、52名の修道士が私たちの地域にいます（アメリカ60名、アフリカ41名、南アジア32名、ヨーロッパ30名）。そして毎年、修道士として会の一員になることを選ぶ修練生がいます。また今年は、最初のクメール人修道士、エン・サローンさんの初誓願を、誇りをもってお祝いします！

私たちの地域の終生誓願を立てたサレジオ会修道士153名の中に、生きたドン・ボスコとしてたくさんの魅力的な模範をいただいていることは、喜ばしいことです：新しい宣教事業の創設者、管区財務（ベトナム、日本、タイ）、優れた教育者、技術分野の専門家、すばらしいコミュニケーター、校長、宣教事務局の責任者、霊的指導者、危険にさらされた若者のカウンセラー、養成担当者、教師、最高のアシステンテなどです。

修道士たちの存在 - 生き方のあかしはなぜそれほど重要なのでしょうか？ それは、サレジオ会修道士たちが行っていることのためというよりも、共同体の家庭的精神のためのかけがえのない貢献、貧しい人々に寄り添い、若者と共に働くこと、奉獻されたサレジオ会員としての謙遜な生き方の輝かしいあかしのためです。修道士たちがいないと、私たちの教育や司牧の働きの効果が減退することを、私たちは経験上、知っ

ています。修道士たちはまた、一般社会やほかの宗教とカトリック共同体の間の最良の橋渡し役でもあります。最後になりますが大切な点として、サレジオ会修道士は一部の文化にある聖職者主義の危険に立ち向かう助けになります。私たちの管区や委任地区におけるサレジオ会修道士という賜物を感謝します、そしてより多くの修道士召命を祈り求めます！

実り豊かな 6 月、イエスのみ心の月をお祈り申し上げます！

ドン・ボスコのうちに。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(28)

2016 年 7 月 1 日

## いつくしみの年 - 私たちが収穫する実とは？

友人の皆さん、会員の皆さん、

いつくしみの聖年はすでに後半に入りました。私たちの多くは、すでに自分の教区のカテドラル、あるいはどこか有名な巡礼地の聖年の扉をくぐったことでしょう。遠く離れた島々までも聖年の扉を舟で運ぶという、ギゾの司教（ソロモン諸島）の創意の豊かさに多くの人が驚かされました。今、私たちは問うことができるでしょう：この聖年の実りは何だろうか、と。

私は一月前、ローマに再び戻り、すでに 3 回、バチカンの聖ペトロ大聖堂で祈ることができました。聖年の扉をくぐるたびに、イエスがペトロやほかの弟子たちの足を洗われるとても深く考えさせられる場面に心を打たれます（ヨハネ 13 - 写真）。イエスは今も私たちを招いておられます：「あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。私は模範を示した……」今行われている合同の黙想会（SDB+FMA の最高評議員）の中で、教皇フランシスコのこの深い招きを私は思い巡らしています：「今この時、あらゆるところの、すべてのキリスト者を招きます、イエス・キリストとの親しい出会いを新たにしてください……皆さん一人ひとりをお願いします、毎日、怠ることなくそうしてください。今、イエスに言う時です：『主よ……あなたが必要です。もういちど私を救ってください。主よ、私をあがなうあなたの抱擁の中に、もういちど私を抱きとめてください！』と。」使徒的勧告『福音の喜び』

私たち皆が、率先して動かれるのはいつも神であるという確信に、いつもしっかり根ざすことができたらと、私はどれほど願っていることでしょうか：「神が先に私たちを愛してくださいました」 - そして私たちの全人生はただ、その方の限りないいつくしみへの応答なのです！ 実に、われわれの神は、私たち一人ひとりの前に、ひざまずいておられます！

実り豊かな7月をお祈りします！ 私たちの多くにとって青少年司牧の活動に満ちた忙しい夏、一部の人のにとってはクラクフの世界青年の日大会 2016 に参加する機会に、またほかの人にとっては、黙想会で回心する良い機会になるでしょう。

ドン・ボスコのうちに。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父,SDB

EAO ボナノッテ(29)

2016年8月1日

## 交わり — 特別な贈りもの！

友人、会員の皆さん、

ポーランドのクラクフで開催された世界青年の日大会ワールドユースデーが昨日、閉幕しました。サレジオ青少年運動 SYM フォーラム&フェスに参加した若者（7月27日、6千人が集合）を含む、世界全五大陸から集った200万人の若者たちは、すでに帰途についています。私たちのうち WYD に参加する幸運に恵まれた人は多くありませんが、1985年以來行われている聖ヨハネ・パウロ二世によるこの壮大な取り組みがカトリック教会に与えている影響を、皆知っています。ほかの国々からのイエスの若い弟子たちとの出会いを通して信仰は成長しており、私たちは EAO 諸管区の SYM でもそのさまざまな効果に触れることができます。

総長がじきじきに私たち EAO の国々を訪れることで生まれる交わりの実りを心に留めるとき、私たちはこの貴重な贈りものをよりよく、喜んで受けとめることができるでしょう。総長との交わりを分かち合い、生きる人は、より深いサレジオ的な考え方、規準を成長させ、それによって行動します。世界に広がるサレジオ家族共同体にあまり結ばれていない人は、より弱くなり、動機づけやダイナミズムは減退します。

葡萄の木であるイエスの聖書的イコンは、この6か年（2014 - 2020）に私たちが目

指す刷新を絶えず思い起こし、そのために動機づけられるための目に見えるしるしとして選ばれました。多くの枝を持つひとつの木は、それぞれの生活する場でドン・ボスコのサレジオ会員として生きる私たちの生活・いのちが、互いに結ばれていることを思い起こさせます。あるオラトリオでの目立たない生き方のあかしは、実際、ほかの共同体、ほかの管区、ほかの大陸のわがサレジオ会の兄弟たちの生活に影響を与えるのです。

私にとってこの聖書的なイコンは、日々の生活の中で思い起こすための、とても力強いしるしになっています！ どのイコンでもそうするように、ここに描かれているイエスとその枝について観想することができます。しかし同時に、私たちは、み言葉を生活の中心におきながら、イエスが温かく迎える腕を広げ、毎日私たちを観想しておられることを信じます！

皆さんにとって実り豊かな 8 月でありますように、この月が、世界に広がるカトリック教会と世界のサレジオ共同体との交わりのうちに生きる、もうひとつの機会でありますように！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父 SDB

EAO ボナノッテ(30)

2016 年 9 月 1 日

## サレジオ同窓生 祈りと約束！

友人の皆さん、会員の皆さん

ボスコニアン - 同窓生 - サレジアン：ドン・ボスコの同窓生はさまざまな名で呼ばれています。その始まりは、毎年、ドン・ボスコの祝い日、6 月 24 日でした。

ボスコニアンよ、永遠に！ サレジオ同窓会は、サレジオ大家族の 31 のグループの中で最大のグループです。私たちのオラトリオ - ユースセンター、学校、小教区でドン・ボスコの教育を受けた子ども・若者は数百万人に及びますが、会長のミヒャル・ホルト氏は、登録メンバーを約 10 万人としています。

同窓会世界連合の 6 年重要プロジェクトを読むと、心躍ります：①常設の事務局：目標 - 3 百万人の同窓生の連絡先を集める；②サレジオ同窓生ビジネス・プラットフォーム - DB のミッションを助けるため；③同窓生アカデミー：サレジオ会員顧問（デ

レゲート) と同窓生リーダーの養成を促進するため; ④同窓生ボランティア活動: 青少年司牧、宣教ボランティア活動への同窓生の参加。

しかし私は、新たに承認された規約に、さらに心を打たれました。規約には、同窓会のすべての会合で唱えるよう勧められている、すばらしく勇気ある「祈り - 約束」が収められています。

\* \* \* \*

サレジオ同窓生の祈りと約束 (仮訳) (会則 2015 第 5 条 b)

わたしたちの父である神よ、御子イエスのとりなしと、聖ヨハネ・ボスコのとりつぎによって、

世界中の同窓生の祈りに心をとめてください。

わたしたちは感謝します。

サレジオ会員の啓発的な導きのもと、わたしたちは教育の貴重な賜物を受けました。その賜物はサレジオの精神と共に、わたしたちの人生にしみ込んでいます。

わたしたちは家族としての信頼をもって願います。

・わたしたちが社会において、教会において、人間らしくキリスト者らしいメッセージを生きられるよう、力と勇気を与えてください。

・わたしたちが「善きキリスト者、誠実な市民」となれるよう、励ましてください。

・わたしたちが同窓会の内外で共に生き、連帯を強められるよう、助けてください。

・わたしたちの信仰、希望、隣人愛を強めてください。

わたしたちは約束します。

・不正や恐喝、軽薄さや無関心と闘うことを。

・いかなる犠牲を払っても、ドン・ボスコの教えから得た価値観、とくに命・自由・真理という価値を、社会的・政治的・経済的に献身する精神をもって守り抜くことを。

・世界そして教会において、強い影響力をもつ「地の塩、世の光」となることを。

わたしたちは切に願います。

わたしたちのサレジオ家族と、すべての大切な一人ひとりをお守りください。アーメン。

\* \* \* \*

EAO の国々でドン・ボスコの教育を受けているすべての若者が、いつかドン・ボスコの同窓会に招かれ、加入することを私は夢見ています。来たる 10 月 4 日から 8 日

にかけて、インドネシア・ティモール準管区は、東ティモールのディリで初めてのサレジオ家族の会合、第 11 回 EAO 地域サレジオ家族同窓生大会を開催します。この大会に祝意を表し、その豊かな実りをお祈りします！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父,SDB

EAO ボナノッテ(31)

2016 年 10 月 1 日

## 日本のボランティア 人々との出会いを求めて！

友人の皆さん、会員の皆さん、

数日前、私たちはヴァルドッコでの第 147 回サレジオ宣教派遣を目の当たりにしました。派遣される 39 名のうち、EAO 出身者がかなりの数いることを、私たちはうれしく思います：韓国、東ティモール、フィリピン、ベトナムのサレジオ会員、サレジオアン・シスターズです。また、私たちの地域にもう一人、メキシコ人宣教師を迎えることを喜んでいますが（フィリピン南管区のパキスタン委任地区へ）。

日出ずる国（日本）の管区に 2 か月に及ぶ特別視察のため訪れていますが、この間、外へと出かけて行き奉仕しようとする新たな取り組みを見て、私は深く感動しています。多くの学校や小教区で、さまざまな形のボランティア活動が育っています：浜松のホームレスの人々の毎週の訪問、熊本や東北の被災地のボランティアグループ、さまざまな学校のグループによる社会福祉施設の定期的訪問などです。

とても興味深かったのは、学校や小教区、SYM サレジオ青年運動の多くの若者たちの生き方にボランティア体験が影響を与えたことを、さまざまな分かち合いの場で聞いたことです。多くの若者にとって、ホームレスの人と路上で過ごした一夜、地震の被災地で奉仕した 5 日間、ソロモン諸島での 3 週間は、人生を一変する体験になったのです。若者たちはボランティア活動の中で多くの貧しい人々の状況に気づき、東ティモール（サレジオ高専）やフィリピン（静岡サレジオ）、ソロモン諸島（DBVG）の貧しい若者たちの喜びあふれる信仰に触れます。多くの若者にとって、家に帰った後の生活は変わります：洗礼に向かう信仰の歩みが始まったり、将来の仕事にかかわる新たな人生の夢を持つようになり（教師、医師、召命）、カトリックの若者は信仰を強められ、キリスト者としてより献身的に生きるようになります。私は若者たちの分かち合いを決して忘れません！

この10月、私たちはドン・ボスコの第10代後継者を迎えることをうれしく思います。今回、総長はモンゴル委任地区（ベトナム管区）とミャンマー準管区を訪問しますが、乗り換えのためソウルとバンコクの管区長館も訪れます。総長の存在が活気づけとなって、人々と出会うために出かけて行く私たちの精神が強められますように！

EAOのサレジオ家族のすべてのメンバーにとって、実り豊かな10月でありますように - 聖母の月、ロザリオの月、そして宣教促進の月です！ 私の夢は、EAO地域のすべてのサレジオ会事業のボランティアグループと出会うことです！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父,SDB

EAO ボナノッテ(32)

2016年11月1日

## 実り豊かないつくしみの年 日本、浜松！

友人の皆さん、会員の皆さん、

総長と共にモンゴル（チンギスハンの地への総長による初めての歴史的訪問）と、ミャンマー（ミャンマー準管区への初めての歴史的訪問）を訪れ、ソウル（韓国）とバンコク（フィリピン南管区からの会員）で会員と会うのは、心躍る時間でした！

この12か月、教皇フランシスコと全世界のカトリック共同体のおかげで、私たちは神の名をより深く知る良い機会を与えられました——それはいつくしみという名です！ 私たち EAO 地域の23か国で、実に多くの聖年の扉が開かれました。ソロモン諸島のギゾ教区のように、扉が島から島へと、船で運ばれたところさえありました。こんどの11月20日に、いつくしみの特別聖年は正式に閉幕し、日本の横浜教区にある、浜松のサレジオ会の、アシジの聖フランシスコ教会の聖年の扉も閉じられます。

1993年以来、浜松に暮らした開拓者、エヴァリスト比嘉神父のおかげで、また後に彼と共に働いたほかのサレジオ会員たちのおかげで、弱々しかった小教区共同体は、少しずつ教区全体のモデル小教区となるまでに成長しました。この一年、浜松のカトリックの4つの言語グループ（日本語、ポルトガル語 - ブラジル人、スペイン語、フィリピン語の人々）は、奉仕と霊性の類ない環境をつくり上げました。横浜の司教は、多文化の共同体の家族的精神を体験するために、教区の聖職者皆を浜松へ連れて来ました。移住者の司牧奉仕に関する2つの大きな全国会議も、この教会で開催されました。

浜松のサレジオ会共同体は、いつくしみの特別聖年のさまざまな実りを分かち合っています：多数の巡礼者の告解 - 回心；いつくしみの宣教者たちにとっては、信仰の養成において巡礼者を導くことが、深く人生を変えるような経験になりました。この一年、4千人の巡礼者を迎え、熱心に奉仕したことで、教会の信徒は信仰、責任感、霊性、共同体の精神において成長しました。信徒たちの中に霊的養成のための新たな多文化のグループが発足し、いつくしみの聖年のあいだ訪れた多くのカトリック巡礼者は、この活力にあふれた共同体によって、信仰の歩みのためのインスピレーションを受けています！

東アジア・オセアニア地域（EAO）のサレジオ家族の皆さんにとって、いつくしみの特別聖年の実りあふれる締めくくりとなりますように！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父,SDB

EAO ボナノッテ(33)

2016年12月1日

## サレジオ家族を信頼していますか？

友人、兄弟会員の皆さん、

今年最後の月に入りました。これから数週間、総本部でまたふだんの生活を味わいたいと願っています。何か月も旅をし、多くのサレジオ会員、サレジオ家族のメンバー、若者と出会い、耳を傾けた後で、執務室の落ち着いた中で、祈り、思いめぐらし、書きとめ、分かち合う良い機会を再び得ています。ほとんど信じられないような時間です！

振り返ってみるとき、EAO 東アジア・オセアニア地域の会合で、皆さんの多くと実り豊かなたくさんのお会いを持てたことに感謝をささげます。特に最近の3日間の日程で行われた EAO サレジオ家族担当者研修会（ソウル、クロン、セブ）は、私にとって個人的に非常に強いカリスマの体験になりました。EAO の11のすべての管区から参加したサレジオ家族の10のグループ、150名以上が、ドン・ボスコの霊的、使徒的家族の豊かな賜物を直接体験できたことをうれしく思います！ サレジオ会 EAO の6人の管区長が参加したことは、サレジオ家族への私たちの注目と献身の最良のあかしでした！

サレジオ家族を信頼していますか？ それは喜びあふれる「信頼します！」という答えにとどまりません。エウセビオ・ムニョス神父（サレジオ家族顧問）とそのチーム（サレジオ家族事務局）がアニメーターとして参加してくれたことを感謝します！オルガさん（VDB 世界会長）、フィリップさん（コオペラトリー地域代表評議員）、ウィチャイさん（前コオペラトリー地域代表評議員）、ノエミさん（コオペラトリー世界コーディネーター）の非常にサレジオ的な貢献に感謝します！

司祭、奉獻生活者、信徒が互いに豊かにし合うことなしにサレジオの召命を生きることはできないことを、私たちは共に見いだしました。「あなたがたがいなければ、私たちは自分自身になれない！」[サレジオ家族のカリスマにおけるアイデンティティー憲章, 第 10 条] FMA、サレジアニ・コオペラトリー、ドン・ボスコ同窓会がなければ、私たちは真のドン・ボスコのサレジオ会員ではないという意味です！

3 回にわたるサレジオ家族担当者研修会の 150 名余りの参加者にとり、研修会はサレジオのカリスマを深く洞察する機会になりました。EAO 22 か国の 1500 名のサレジオ会員と、この地域に存在する 15 のサレジオ家族のグループの何千人ものメンバーが、ドン・ボスコのサレジオ家族の成長のため、この大きな賜物と責任を理解し受けとめてくれることを、私たちは願っています！ 31 のサレジオ家族のグループにおいて同じ召命を分かち合う 50 万人のサレジオ家族のメンバーの生きたあかしは、普遍教会の使命と若者の救いのために私たちが果たすことのできる最良の貢献です！

クリスマスの祝いに向けて、良い待降節の旅を歩まれますように！ 私たちが若者への信頼、家庭への信頼と、日々の生活におけるサレジオ家族の重要性への確信を深めることができるよう、ナザレの聖家族が助けてくださいますように！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(34)

2017 年 1 月 1 日 韓国 ソウル

**すべての戦争に終止符を！ 2017 年を平和の年に！**

友人の皆さん、会員の皆さん、

新年の初めにあたり、サレジオ会員との重要なすべての出会いを、聖母の導きと加護にゆだねます。特に、ドン・ボスコの第 10 代後継者の私たちの地域への 3 回の訪問と集いです。ベトナム、タイ、そして諸管区の評議会と集うフアヒンでの 4 日間の Team

Visit です！

この降誕節、2017年の新年を祝いながら、私の心は世界各地の数多くの戦争や暴力（37の武力紛争地帯）に深く揺さぶられます。中東、アフリカの多くの国、アジアもそうです。総長アンヘル神父も2016年のクリスマス・メッセージでとても具体的に平和のため祈るよう私たちを招いています！

最近、ミャンマーを訪問して、60年以上続く内戦の影響をあらためて目の当たりにしました。ミャンマーの内戦は、おそらく世界で最も長い内戦でしょう。少なくとも75の異なる武装グループがすでに平和協定に署名しましたが、武力衝突には終わりが見えません。私たちの心を貫くような兄弟サレジオ会員司教の呼びかけを、元旦のミサでささげましょう！ 平和の建設が進むよう、教会の母マリアが助けてくださいますように！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

\* \* \* \* \*

ミャンマーの兄弟姉妹の皆さん、Happy New Year 幸いな新年をお祈りします！

毎年、私たちはこのメッセージをもってあいさつを交わします。本当は、この国の多くの場所で、幸いがありません。多くの場所で戦争が続いています。難民キャンプにいる20万人以上の国内避難民にとって、幸いな新年はありません。

60年前に始まった戦争が、今も続いています。カンボジアはその紛争を終え、ベトナムの戦争も終わりました。彼らは皆、平和と繁栄への道を歩んでいます。私たちは勝利のない戦争にはまり込んでいます。多くの人が苦悩に沈み、住んでいた土地を追われたこと、それが唯一の結果です。

ミャンマーの沈黙する大多数の人々は、この長期にわたる戦争の傍観者でした。平和のために力を合わせましょう。私たちが手を取り合う時が来ています - すべての宗教、すべての民族が - 2017年を本当に幸いな新年とするために。

正義のある平和は可能です。交渉による平和は可能です。武力に頼る道は失敗しました。そのため、2017年1月1日を、平和のための断食と祈りの日とするよう、すべての宗教に呼びかけます！

「すべての戦争に終止符を」と書かれたプラカードを持って、私たちの修道院や教会、お寺、モスクに集まりましょう！

平和を求める祈りと日中の断食をもってこの日を過ごしましょう、すべての人の心を変えるために！ すべての戦争を終わらせましょう！ 2017 年を平和の年にしましょう！

ヤンゴン大司教 チャールズ・ボー枢機卿

EAO ボナノッテ(35)

2017 年 2 月 1 日

## 耳を傾け、評価し、感謝をささげよう！

友人、兄弟会員の皆さん、

新たな年が始まりました。私たちにとっては、家庭の年です。1 月、私たちは総長のストレンナを自分のものにするように努めました：「家庭は命と愛の学び舎」！ 実に、先日ローマで開かれた第 35 回サレジオ家族霊性週間は、教皇フランシスコの勧告 - *Amoris Laetitia* を中心に、「家庭」に向けた古くて新しい使命をもって、私たちの心を深く揺さぶるものでした。主な課題は - 困難の中にある家庭にどのように寄り添うか！

2 月に入り、私たちの地域の 3 人の会員のために祝い、祈りたいと思います：ケレマ教区（パプアニューギニア）の司教に任命されたペトロ・バケーロ神父（司教叙階は 3 月 25 日）、二人目はパプアニューギニア・ソロモン諸島準管区の長上アルフレッド・マラヴィジャ神父（司教着座は 3 月 19 日）、そしてタイ管区（タイ、カンボジア、ラオス）の第 16 代管区長ヨハネ・ボスコ・テパラト・ピティサン神父（司教着座は 2 月 2 日）です。

私にとって昨年、会合や個人的対話の中で、特に多くの院長、各部門の管区担当者、管区長、そのほかリーダーシップの奉仕を務める会員の希望に満ちた姿勢が大切なものとして心に残っています。会員たちは、立ち向かわなければならない数々の大きな挑戦にもかかわらず、現実を正直に見つめながら笑顔、喜び、信仰を保っていました - いつも励ましの言葉を口にして。

私たちの地域のある少々難しい国で、長上の方に賢明なアプローチに出会いました。その長上は会員たちに「未来志向の話だけ」するようにと言いました！ 若者たちに「人生の夢は何？」と尋ねるとき、たいいてい生き方に影響を与えるような対話に入ることができます。ドン・ボスコがサレジオ会員や若者たちと多くの夢を分かち合った

のは、偶然ではありません。私たちは、支部共同体として、管区共同体として、分かち合いのとき、集会や管区会議で、あるいはよく準備された計画 - 評価のミーティングで、共に夢見るとき、成長し、前進しているのです！

おそらく私たちの中の多くの人は、一月前、具体的な決心をもってこの年を始めたことでしょう。私自身の年頭の決心を分かち合いたいと思います：「耳を傾け、評価し、感謝をささげよう！」私たちに最も必要な生活の姿勢は耳を傾けることだと私はますます深く確信しています - もっと神に聞くこと、仲間である兄弟姉妹、特に若者に共感をもって耳を傾けることです。そうです、耳を傾けることに十分ということはないのです！

耳を傾けてもっと時間を無駄にすること、穏やかに、共感と祈りに満ちた心で耳を傾けることを、私たち皆に勧めたいと思います。耳を傾けられる母マリア、私たちのためにお祈りください！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(36)

2017年3月1日

## 決して歩くのをあきらめないで！ 自分のどこを変えたらいい？

友人、兄弟会員の皆さん、

ちょうど今日、私たちは再び四旬節の旅を歩み始めます。主の復活に向かう 40 日間の歩みです。今年は、4 月 16 日にご復活を祝います！ 四旬節は毎回、特別な 40 日間の回心の巡礼です。回心とは、神に向かって歩むこと、自分の安全地帯から出ることです。それは常に健全な動きです。自分の安全地帯から、日常の繰り返しから、生ぬるい生活スタイルから、自分の小さな生活スペースの安心から、「すべて統制できている **under control**」ところから出るように招かれているのです。

今年、私はドン・ボスコの祝日を若い宣教師の中にやや年配の会員の混じったグループと共に過ごしました。とても意味深い、多様な世代の家庭的体験でした。ある日の午後、一人のあまり若くない会員にストレートに尋ねられ、驚きました：「3分だけいいですか？ 教えてくれませんか、もっと良いサレジオ会員になるために自分のどこを変えたらいいですか？」それは短い言葉でしたが真剣で、兄弟的でとても福音的な顔と顔を合わせた出会いでした。この数年、彼をよく知るようになっていたので、彼自身の成長 - 回心のためにいくつかの点を分かち合いました。この出会いに、私は

深く心を打たれました！

教皇フランシスコは、この 2017 年の四旬節の歩みの間、金持ちの男とラザロのたとえ話（ルカ 16・19 - 31 参照）を黙想するよう招いています。「この非常に意味深いたとえ話の導きに身をゆだねましょう。この話は、真の幸福と永遠のいのちを得るためにはどのように行動したらよいかを知る鍵をもたらすと同時に、心から回心するようわたしたちを強く促しているからです。……

ラザロ（＝「神は助ける」の意！）は、『他の人々はたまものであること』をわたしたちに教えています。……わたしたちが会おういのちは皆たまものであり、受け入れられ、敬意をもって愛されるに値します。みことばは、わたしたちがいのち、とりわけ弱いいのちを受け入れ、愛せるように目を開く助けとなります。……

金持ち（＝名前がありません！）の中には、罪による腐敗がはっきりと見られます。その腐敗は三段階で次々に進行します。すなわち金銭への執着、虚栄心、そして思い上がりです！……この金持ちのように、みことばというたまものに心を閉ざせば、兄弟姉妹というたまものにも心を閉ざしてしまいます。

[教皇フランシスコ,2017年四旬節メッセージ,カトリック中央協議会訳より]

これからの 40 日、真摯な旅を歩まれることを心から祈っています。この回心の旅の実りとして、まことの深い喜びをもって、共に「アレルヤ！」と歌えるように！

マリア、巡礼する神の民の母、私たちのためにお祈りください！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

【参考】2017年 四旬節教皇メッセージ（カトリック中央協議会 HP より）

<https://www.cbcj.catholic.jp/2017/02/10/12225/>

EAO ボナノッテ(37)

2017年4月1日

本当にお互いを必要としていますか？

良いコミュニケーションなしにはコミュニオン=交わりもなし！

友人、兄弟の皆さん、

この数年、私たちは世界中で不思議な状況を目の当たりにしています。多くの国、多くの人々が、他者に対し心、家、国境を閉ざし、新しい壁が再び築かれ始めているところさえあります。しかし、一つの人類家族の未来は明らかに互いに結ばれたものであり、すべての国はますます一つの大きな家族のように生き、ますます互いに依存し合うものになっています。そうです、教皇フランシスコの教会は確かに「交わりの教会」です！ 私たちは毎日あらゆるところで、交わりが大切だという確信を深めています！

この4年間、旅をする際、私はいつも教皇フランシスコの使徒的勧告『福音の喜び』を携えています。実に勧告は、継続的な挑戦であり、回心への力強い呼びかけです。このカトリックのロードマップで最もよく使われている言葉は「すべて」だということに私は気づきました。すべてを感謝する、すべての人にイエスをあかしする、すべてを結ぶ橋を築く、すべての人を愛そうとする - これが、教皇フランシスコが私たち皆に示す道です！

ほかの人の賜物によって豊かにならないほど豊かな人は、私たちの中にいません。そして、自分の賜物を分かち合うことによって周りの人を豊かにできないほど貧しい人は、この世に誰一人としていません！

最近、タイのフアヒンで開かれた **EAO 2017 Team Visit** で、私たちはこのすばらしい相互交換をさまざまな形で体験しました：今日、私たち **EAO** の全 11 管区は、宣教師を受け入れ、国際的 - 文化際的共同体を構成することができます。最も小さなパプアニューギニア - ソロモン諸島 (**PGS**) 準管区も会員を派遣することができ、最も大きなベトナム - モンゴル (**VIE**) 管区もほかの国から会員を喜んで迎えます！

しかしながら、サレジオ会の中で、私たちの管区、支部共同体の中での交わりは、分かち合い、コミュニケーションを取り、耳を傾ける開かれた心から始まります！ 病気の会員への一本の電話、遠くの宣教地の共同体への E メール、Facebook での個人的体験の分かち合い、**austraLasia** ニュースに送られる短い記事を付けた写真、遊びの時間に耳元にささやかれた一言二言が、変化をもたらし、交わりを築くのです！

より豊かな四旬節の旅の締めくくりと、**2017** 年御復活の深い喜びをお祈り申し上げます。十字架にかけられ復活された主、イエスとの、いつもますます深められる交わりのうちに！ 恐れなくてください、繰り返し何度も、イエスに心を開きましょう！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

「聖母がすべてをなさった。

キリスト者の助け聖マリアに信頼しなさい。

奇跡を目の当たりにするでしょう！」 ドン・ボスコ

友人、会員の皆さん、

皆さんにとってキリスト者の助け聖マリアとは、どのような方ですか？ 日本からサモアまで、5月は一年でいちばんすばらしい季節の一つです。ドン・ボスコにとってマリアの月は、少年たちやサレジオ会員と共に、信仰において成長する別な時でした。この2017年のマリアの月を、これまで以上に意味深いものにしましょう。マリアは私たちのただ中におられます、私たちの母は、ドン・ボスコの時代と同様、私たちの運動場や教室を歩いておられます。

光り輝くような体験が世界中にあります：イエスの母マリアへの信心が深く根を下ろし、文化の中に豊かに表現されるところでは、イエスの弟子たちの信仰も盛んに花開いています！ 御子の家族の信仰を母がどれほど支えておられるか、私たちは感じるのです。ベトナムの教会では毎日ミサの後、家に帰る前に、信徒が皆、マリア像の前に集まり、アヴェ・マリアの祈りを三度唱え、美しい歌を歌います。そうです、深い民衆信心のすばらしい表現は数多くあります！

マリアとの絆を表すたくさんの豊かな表現を私たちは体験します：生徒たちと唱える毎日のロザリオの祈り、毎月24日のサレジオ家族のミサとドン・ボスコが書いた扶助者聖マリアの祝福。私たちは頻繁に呼びかけます：「扶助者聖マリア、私たちのためにお祈りください！」、あるいは「キリスト者の助けなる聖マリア、私たちのためにお祈りください！」と。言葉遣いは、多宗教の環境であるかどうかによって変わります。ADMAのグループは日本や韓国でも広がっています。そう、本当にたくさんの美しいマリアの歌が歌われていますし、ラホーレからマティに至るまで、マリア像が建てられると、われらの母に花がささげられます。パラニャケ、ポートモレスビー、ダルカンの最初の宣教師たちは、特に宣教の前線の地に聖母にささげられた聖堂や巡礼地を建設しています。東ティモールのファトゥマカのように、私たちは荘厳な聖母行列を行います。将来の使徒職のため必要な土地に、聖母のメダイを投げ入れる人もいます。私たちは若者と共に、マリアにささげられた聖なる場所へ巡礼します。新たにされるために、あるいは必要とする特別な恵みを願い求めるために。中国のように一つの国、

あるいはオセアニアのような一つの大陸が、主な保護者として扶助者聖マリアを崇敬しています。私たちの地域の 11 の管区のうち少なくとも 4 つの管区が扶助者聖マリアを保護者としています：ミャンマー、中国、オーストラリア - 太平洋、フィリピン・セブ（フィリピン南）の諸管区です。

私たちはドン・ボスコの息子、娘として、「私たちの家で生活を共にし」、「若者一人ひとりをドン・ボスコの家に導く方」、願う勇気もないような本物の奇跡を取りなしてくださる方、マリアに結ばれていると感じます。最初のサレジオ会員たちのように、天の母へのドン・ボスコと同じ強く親しみに満ちた愛に、私たちも心奪われますように。ドン・ボスコは教えています、聖母のために心が力強く鼓動するよう青少年少女たちを助けることなく、サレジオの教育者としての確かな道を歩むことはできないと。われらの母の月が、皆さんにとって特別なものとなりますように！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(39)

2017 年 6 月 1 日

## ‘イエスはぶどうの木’のアイコンは

### 私たちをどのように動かしているでしょうか？

友人、兄弟の皆さん、

この 3 年間（第 27 回総会 - 2014 年 4 月から）、イエスの聖書的アイコン - ぶどうの木（ヨハネ 15・1 - 11）を私たちは手にし、共同体の中に飾り、EAO の小さな祈りのカードにしました。この古くからあるイメージはすべてのサレジオ会員にゆだねられました。日々の回心の歩みの動機づけとなるように。中央の開かれた聖書（神秘家としてのサレジオ会員）、ぶどうの木の縊（よ）り合わされた枝（兄弟としてのサレジオ会員）、ぶどうの実に見る数々の交わりの実り（若者のしもべとしてのサレジオ会員）を、私たちは観想します。

このアイコンを聖堂、あるいは食堂、玄関ホール、そのほか目に見える場所に置いているサレジオ会共同体もあります。私にとってこのアイコンは、信頼に足る証しをするための日々の力強い招きで、携帯電話に入れてあります。特別視察で EAO の各共同体、各管区を訪れるのは、このアイコンの美しさ、深い意義、それによって与えられる動機づけを見いだす素晴らしい機会です！

この6月、イエスのみ心の月に、この聖書的イコンを手元近くに置くことを、私たち皆への挑戦として呼びかけたいと思います。実に、私たちがイエスを観想するとき、イコンのイエスも私たちのいのちを観想しておられるのだと、東方教会のイコン神学は教えています！ イエスに、私たちのいのち、使命にまなごしを注いでいただきましょう！

先月、5月に、私たちは東京に320名の参加者を迎え、第9回サレジアニ・コオペラトリー EAO 東アジア・オセアニア地域大会を開催しました。この数日で、私はオーストラリア - 太平洋管区 (AUL) の次期管区長諮問を締めくくるところです。この重要な二つの出来事が豊かな実を結ぶよう祈っていただけたら大変ありがたいです！

実り豊かな、喜びあふれる2017年の聖霊降臨祭をお祈り申し上げます！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(40)

2017年7月1日

## サレジオ信徒ボランティア - ミッション・ポッシブル？

友人の皆さん、サレジオ家族の皆さん！

7月はEAO東アジア・オセアニア地域の多くの国にとって学校の夏休み、あるいは冬休み、また多くの使徒的活動——夏のオラトリオ、信仰——召命キャンプ、聖書キャンプ、若者のボランティア体験の季節です。

若者のボランティア体験なしには、青少年司牧は不完全なものであり、本当の意味でダイナミックではなく、その将来はないと、私は日々より深く確信しています！ その名称は、DBVG ドン・ボスコ海外青年ボランティアグループ（日本）、カリエロ・プロジェクト（オーストラリア）、たいまつ運動（中国）、国際ボランティアグループ（韓国）、VIDES（日本、韓国、フィリピン、カンボジアのサレジアン・シスターズの国際ボランティアグループ）、SAVIO（フィリピン南）など……。私たちEAO、11管区のサレジオ家族によるさまざまなボランティア運動です。

この6か月、何人かの若い、あるいはそれほど若くない宣教ボランティアに会いました。彼らは人生の中の1年間を、サモア、カンボジア、ベトナム、モンゴル、ミヤ

ンマー、フィリピン、東ティモールなどで、若者に仕えるためにささげます。彼らの体験に耳を傾けると、深い感銘を受けます：

「学究生活をそのまま続けたくなかった、少なくとも何か良いことをしてみたかったので応募しました。英語なら教えられると思ったので、英語を教えたいと希望しました。ここに来て1年近くですが、想像をはるかに超えてたくさんのことを学びました！ ボランティアとしての1年をまとめていちばんよく言い表すとするなら、自分の持っている少しの知識、経験、人生を分かち合ったということです！」

ソロモン諸島を訪れるとき、あるいはソロモン諸島のサレジオ家族の Facebook を見るとき、私は26年にわたる DBVG（日本）のたゆみないボランティアの取り組みに感謝を覚えます。ソロモン諸島から日本に帰った DBVG メンバーの体験に耳を傾けると、両国の若者たちが互いの交流によってどれほど豊かにされたかに気づかされます。若者たちの無私の奉仕の証しは、世界中の若者の人生を形作ります。経済発展した物質主義的な国々でボランティア体験がなければ、おそらく奉獻生活への召命は半分に減るでしょう！

そうです、EAO のすべての諸管区、委任地区で宣教ボランティアがさらに盛んになることを、私たちは夢見ます。そうです、若者が2週間の生活体験を超えて、1年をささげるようになることを夢見ます——サレジオの宣教地でフルタイムのボランティアとして！ EAO の共同体にほかの国から若いボランティアがやって来るとき、ベトナム、ティモール、カンボジア、ミャンマー、モンゴルなどの宣教ボランティアの成長のためにインスピレーションをもたらしたり、そのきっかけになったりするのは、挑戦しましょう！

ドン・ボスコのうちに。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(41)

2017年8月1日

## 共に歩む同伴 - サレジオのキーワードの一つ

友人の皆さん、サレジオ家族の皆さん！

腰を下ろしてふり返る時間、ふり返ったことをひざまずいて祈る時間が私たちには

もっと必要だと、私はますます深く確信するようになりました。私たちは数週間前、フィレンツェの近くにあるベネディクト会の修道院で総長と共に年の黙想をする機会に恵まれました。地域顧問としてのこの3年を振り返ったとき、私たちが共に歩む同伴に新たに取り組んでいることに、とても強い印象をもって気づきました。実に、私たちは現在、アンヘル神父と共に、世界中の90人の管区長に同伴するために多くの時間をさいています。管区長たちは任命されるとすぐにローマに招聘され、最高評議員全員と、一人ひとり話す機会を持ちます。6年の任期中には、さらに3度、このような機会があります。

ドン・ボスコは多くの人に同伴されました、ドン・カロツツからドン・カファツツに至るまで。私たちは、ヴァルドッコの豊かな家庭的精神が若者の信仰、召命、使命の成長のために最良の環境であると認識しています。ヴァルドッコでは皆が共に歩んでもらっていました。そうして最初の世代のサレジオ会員は、子どもたちと若いサレジオ会員に同伴することができました。

今日、私たちの共同体には共に歩む同伴が大きく欠けていると、私たちは正直に認めます。さまざまな理由があります — 時間がない、重要とっていない、あるいはただ若者や会員にどのように同伴したらよいかわからない、などといった理由です。しかし、私自身が誰かに同伴してもらわなければ、私がほかの人々と共に歩めると期待するのは難しいでしょう。

この夏（EAO 地域の南半球では冬）、管区長たちを助けることができるようにと私は祈っています。そして管区長が院長によりよく同伴し、院長やほかの円熟したサレジオ会員が兄弟会員、信徒ミッションパートナー、サレジオ家族のメンバー、そして特に、召命のしるしが見られる若者に同伴するために、十分な時間とエネルギーをかけますようにと。

そして私たちは、この歩みにおける第一の、最も大切な姿勢は、耳を傾ける力だと信じています — 穏やかに、忍耐強く、信仰のまなざしをもって。この夏を、耳を傾ける時、共に歩み、共に祈り、私たち一人ひとりへの神の夢を発見できるよう助ける時にしましょう！

ドン・ボスコのうちに。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

## イエスに心を奪われ大好きになったのは？

友人の皆さん、サレジオ家族のメンバーの皆さん！

6週間前、私たちはローマでの最高評議会の夏の会合を終えました。私はソロモン諸島、パプアニューギニア、タイ、カンボジア、フィリピンで、サレジオ会員、サレジオ家族と共にすごしたすばらしい時を経て、今、10月の終わりまで、特別視察のために韓国にきています。

数日前、タイのサンフランで、アジア、オセアニアの23の管区から集まった80人以上のサレジオ会員とサレジアン・シスターズの大きな会合がありました。「イエスを告げる第一次福音宣教とサレジオのミッション」がテーマでした。多くの参加者にとって、この研修会は実に黙想の時になりました。深く意識を呼び覚ます、人生を変える体験でした。EAO地域から参加した24人以上のサレジオ会員（2人の管区長を含む）は、力づけられ、生き方を変えたいと望むようになりました。

研修会の間、私はたびたび問いかけました：私たちのところに来る子ども・若者たちは、どのようにしてイエスに惹かれますか？ どうすればイエスという方への興味が目覚めるよう、子ども・若者たちを助けることができるでしょうか？ 人生の中で、私が初めてイエスに心を奪われ大好きになったのはいつだろうか？ 福音の物語を読むとき、マザー・テレサやチマッティ神父、ドン・ボスコ男子在俗会のニーノ・バリエリのような魅力的な聖人と出会うとき、心惹かれる瞬間があるでしょう。自分自身のことを打ち明けると、私にとって、最初のサレジオ会員の聴罪司祭、カファッソのような霊的指導者との出会いは、そのような恵みに満ちた時であり、サレジオ会の召命、宣教師としての召命の道を歩む助けになりました。

祈りながら神のみ言葉を読む（レクツィオ・ディヴィナ）ために十分な時間を取り、イエスとどのように出会ったかを人と分かち合うとき、私たちははじめてイエスという方に惹かれる気持ちを相手のうちに呼び覚ますことができます。ガリラヤの最初の弟子たちはイエスに招かれました：来て、見なさい！ 私たち自身に至るまで連綿と続いてきた人による仲介の長い鎖をたどることができ、その結果、私たち一人ひとりも、誰かを通してその声を聞くように招かれたのです：「来て、見なさい！」という声を。イエスを告げる第一次福音宣教についての簡単なビデオを見たり、この研修の資料を読んだりするために時間を取ることを皆さんにお勧めします。人と分かち合うとき、信仰は成長すると私たちは知っています……。

ここ韓国では、9月は殉教者の月です。私たち一人ひとりを殉教者の取りなしにゆだねます。EAO地域のサレジオ家族のメンバー一人ひとりがイエス・キリストとの愛に満ちた絆の実を結びますように！

ドン・ボスコのうちに。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(43)

2017年10月1日／ロシア ヤクーツク (シベリア)

## あなたの安全地帯はどこですか？

友人、サレジオ家族のメンバーの皆さん！

特別視察のために6週間、韓国で過ごした後、ヤクーツク（ロシア）を初めて訪問してのこのボナノッテを分かち合いたいと思います。ヤクーツクは、世界のサレジオ・ミッションの中で最も忘れられた宣教地といわれています。東アジアの「中秋の名月」の祝いを、この地上の僻地で5人のスロバキア人サレジオ会員と祝えることをうれしく思います。すでに25年前、スロバキアの勇気あるサレジオ会員たちが、この簡単ではない場所でイエス・キリストへの信仰を忍耐と勇気をもって分かち合うため、かつてソビエト連邦に属していたこの辺境の地にたどり着きました。神に感謝、今年からここは、国際共同体となります！

何年前、イエズス会士の故パウロ Shan Kuo-hsi 枢機卿（1924-2012）に台湾の召命について尋ねたとき、その一筋縄ではない答えは、神の呼びかけへの私たちの応答のより深い真実を明かすものでした。「召命がほしいなら、迫害が必要です！」今日、イエスの忠実な弟子として、自分たちの安全地帯の外へ向かわなければならないと、私たちは教皇フランシスコと共に謙虚に認めます。そしてこのように宣教のために‘出向いていく’ことは、常にいくらかの痛み、あるいは犠牲を払うことを余儀なくされます。しかし、福音の喜びへの道は、ほかにないのです！

昨日、スロバキアのブラチスラバで、何千人ものサレジオ家族が参列する中、アンジェロ・アマート枢機卿, SDB は「召命のための殉教者」、ティトウス・ゼマン神父, SDB（1915-1969）の列福式を執り行いました。サレジオ会員としての生活を、決して楽ではない共産主義政権のもとで引き続き送ることができましたが、ティトウス神父は、

3回に及ぶ秘かな脱出を導き、東西ヨーロッパを分ける‘鉄のカーテン’をあえて潜り抜けました。多くの若いサレジオ会員と教区司祭の貴重な召命を救うためでした。最後の脱出行の際に捕まり、共産政権の刑務所で15年にわたる長く恐ろしい殉教の歳月、苦しみをささげたのです！

私たちは召命のため、召命の文化を築くために、どのような犠牲を払っているでしょうか。新たな候補者が夏のキャンプや毎月の召命の集い（来て見なさい）に来るのをただ待っているだけでしょうか。ティトゥス神父の輝かしい模範は私たちに道を示してくれます。

10月の宣教の月の間、安全地帯の外へ出かけて行くようにという教皇フランシスコの招きを受け入れましょう。汚れたり、けがをしたりしながら。そのようにするとき、はじめて私たちは、福音の深く終わることのない喜びを体験できると、私は深く信じています！ 自分たちの学校、家庭、小教区、仲間の間のおだやかで安全な環境の枠を超え、外へ出向いて行くとき、まことの福音の喜びを私たちは味わうでしょう！

ドン・ボスコのうちに。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(44)

2017年11月1日／韓国 ソウル

## 日常生活の中で、貧しい人々の叫びに

### どのように耳を傾けていますか？

第1回 貧しい人のための世界祈願日 - 11月19日

友人、サレジオ家族のメンバーの皆さん！

教皇フランシスコの預言的な『福音の喜び』という賜物から4年たってなお、世界のカトリック共同体の多くの信徒が、いまだに教皇の‘プロジェクト-夢’を知らないということを私は何度も経験しました。常に宣教する状態にある教会、人々、特に貧しい人々と出会い、手を差し伸べようとする教会、というプロジェクト-夢です。

そのため、第1回貧しい人のための世界祈願日（2017年11月19日、日曜日）の発表を、私たちは喜んで受けとめました。実にこれは、教皇フランシスコの最も深い

確信に即した、さらなる一貫した取り組みです。福音の核心にあるのは共同体的ないのち・生き方であり、他者への献身であるという確信です。貧しい人々を具体的に愛さなければ、私たちはイエスのまことの弟子にはなれません。

この4年間、私たちの総長は疲れを知らない熱意をもって繰り返し言ってきました：貧しい若者がサレジオ会員を救うと！ 実に、さまざまな形で生きられるサレジオの召命（SDB, FMA, サレジアニ・コオペラトリー、VDB, CDB, ADMA, イエスのカリタス会, SAL, SIHM, DQM - SQM religious, ドン・ボスコ&FMA 同窓生, ミカエリートなど）は、同じ現実を体験します：助けを必要とする、あるいは危険にさらされている貧しい人、若者と共にあって献身するとき、そこでは召命が花開き盛んになるのです！

教皇フランシスコが特に願っていることにしたが、11月12日から19日にかけての1週間を、貧しい人（若者）と出会い、その人々のために行動する時にしましょう。言葉ではなく、行いをもって愛しましょう！ 貧しい若者がいなければ、私たちはふさわしくドン・ボスコのサレジオ会員としてイエスと出会うことはできません。それは、そのための特別な事業 - Tuloy sa Don Bosco (フィリピン北)、 Los Palos (インドネシア-東ティモール)、小平 - 東京 (日本)、 Myitkyina (ミャンマー)、 Liloan - Cebu (フィリピン南)、 Dae Rim Dong - ソウル (韓国)、 Boys Town - 台湾 (中国)、 Engadine - シドニー (オーストラリア)、 Can Gio (ベトナム)、 チェンマイ (タイ)、 ソロモン諸島テテレ (パプアニューギニア-ソロモン諸島) - だけのことではありません。

また、サレジオ家族のメンバー一人ひとりもこの11月、貧しい人のうちにイエスと、Facebook 上だけでなく、顔と顔を合わせて出会うよう招かれています。貧しい人（若者）は神のみ心のうちに特別な位置を占めているので、神のまことの子どもでいたいなら、同じ心臓の鼓動をもって生きるよう私たちは呼ばれているのです！ ガエタノ・ニコシア神父やエルマー・ロドリゲス修士、そのほか貧しい人々のために献身した多くのサレジオ会員の模範が私たちを励ましてくれますように。周りの貧しい若者のうちにおられるイエスと出会うため、自分の安全地帯からいつも歩み出て行くために！

ドン・ボスコのうちに。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

## 全てをイエスに、イエスは全ての人に！

友人の皆さん、サレジオ家族の皆さん！

私たちはそれぞれ、1年の終わりに、最も意味深かったこと、出会い、いただいたもの、投げかけられた挑戦を振りかえります。私はこの1年を振りかえるとき、最も印象深く思い浮かぶのは、この時代の‘辺縁の地’に福音の喜びを運ぶ、数多くのイエスの証し人たちのことです。

パキスタンのドン・ボスコ同窓生、信仰のために命をささげたアカシュ・バシール（+2015年3月15日）のご家族との、ラホーレ・ヨウハナバードの聖ヨハネ教会での出会いを感謝します。

ガエタノ・ニコシア神父（中国）やエルマー・ロドリゲス修士（フィリピン北）のようなサレジオ家族の生涯のあかしを感謝します。この2人やそのほか多くのサレジオ家族のメンバーは、貧しい若者のための生涯にわたる情熱によって数多くの人の心を動かしました。

人々と出会うために出向いて行くカトリック共同体として私たちが成長し続けられるよう、教皇フランシスコがたゆみなく努力されていることに感謝します。私たちは皆、教皇のミャンマー、バングラデシュ訪問に感動しています。実に、‘世界の辺縁’は教会の中心となっています！

私たちの地域、23か国を回る旅で、私はいつもサレジオ会会憲のコピーと『福音の喜び』を荷物に入れてあります。教皇フランシスコの使徒的勧告が示す教会のプロジェクトについて読み黙想することを通して、すべての人に出会うため出向いて行くというその強調点に、私はますます心を打たれます！

この年の終わりにあたり、‘*Tutto a Gesù, Gesù a tutti!*’というモットーに生涯衝き動かされた1人の中国人サレジオ会員を再び思い出します。このモットーは私にとり、イエスの弟子・宣教師としてドン・ボスコのように生きるよう、日々、力強く招くものです。この人生のモットーのうちに、‘*Cetera Tolle*’（全てをイエスに）の知恵は‘*Da Mihi Animas*’（イエスは全ての人に）を生きるよう私たちを助けてくれます：全てをイエスに、イエスは全ての人に！

一切為耶穌, 耶穌為一切人! (中国語)  
Todo para Jesus, Jesús para todos! (スペイン語)  
Tous pour Jésus, Jésus pour tous! (フランス語)  
Jesus para todos, todos para Ele! (ポルトガル語)  
Wszystko dla Jezusa, Jezus dla wszystkich! (ポーランド語)  
예수님께 모든 것을, 모든 이들을 예수님께로! (韓国語)  
全てをイエスに、イエスは全ての人に! (日本語)  
Hotu-hotu ba Jesus, Jesus ba hotu-hotu (テトゥン語)  
Semua buat Yesus, Yesus buat semua (インドネシア語)  
Givim olgeta long Jisas, givim Jisas long olgeta! (ピジン語)

ドン・ボスコのうちに。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(46)

2018年1月1日/ローマ サクロクオーレ

## 2018年 - 耳を傾ける新年、おめでとうございます!

友人、サレジオ家族のメンバーの皆さん、

2018年の元旦にあたり、心からのごあいさつを送ります! 皆さんお一人おひとりにとって、真に祝福された、恵みあふれる年、2018年でありますように!

私たちの多くは、特別な決心をしてこの年を始めます。例えば、パプアニューギニア - ソロモン準管区 PGS は中心となるモットーとして次の言葉を選びました - 「ボナノッテや朝の講話が、子どもたち、サレジオ会共同体への、それぞれのグループへの明確な同伴であるように!」 実に、これは、単純素朴で賢明、効果的で、非常にサレジオ的な決心です!

この年の初めに、心躍らせていることを皆さんと分かち合えるのを大変うれしく思っています。世界中で、若者たちがサレジオ会員にあまり耳を傾けてもらえず、がっかりしています! 2018年に私たちは、前進し、この大切な挑戦を受けとめ、より耳を傾ける人となるよう、招かれています!

世界中の全カトリック共同体は今年、若者に耳を傾ける術を学ぶよう招かれています!

す！ 教皇フランシスコは、若者の信仰を力づけ、召命識別の歩みによく同伴するため、若者に耳を傾けるよう、全司教に願っています。今度の10月に、司教シノドスは「若者、信仰、召命識別」のダイナミズムを探究することになります。

総長は、2018年のストレンナ「主よ、その水をください！」(ヨハネ4・15)で、「耳を傾け、共に歩む生き方を深める」ようにと、全サレジオ家族に願っています。そしてサレジオ家族のそれぞれのグループは、この耳を傾ける年に特別な味わいをもたらすことができるでしょう！

サレジオ宣教の日2018は、アジアの魂に「福音をささやく」ことに焦点を当てます。特に職業訓練センターで！若者たちの耳にささやきたいなら、方法は一つだけだと、私たちは経験上知っています：若者たちの中に親しみのある存在として共にいて、若者たちの生活、好み、心によく耳を傾けることです！

どうしたらよく耳を傾けることができるのでしょうか？十分に耳を傾けるには？神のみ心、兄弟会員の心、私たちの世話をゆだねられた一人ひとりの若者の心に耳を傾けるにはどうしたらいいのでしょうか？そう、私たちはこのすばらしい招きを、2018年を通した歩みとして受け取ります！

ドン・ボスコのうちに耳を傾けながら

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(47)

2018年2月1日／東ティモール ディリ

## サレジオ会員はなぜ若者に耳を傾けていないのか

友人、サレジオ家族の皆さん

東ティモールのディリからごあいさつを送ります。私たちは昨日、こちらで、ドン・ボスコの第10代後継者、アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父と共に、そしてこの国の全サレジオ家族と共にドン・ボスコの祝日を祝いました。私はヴァルドッコに思いを馳せます。ほんの数日前、総長はトリノで第36回サレジオ家族霊性週間を主催し、五大陸すべてから、サレジオ家族の22のグループに所属する400人近くが参加しました。

私たちは多くの良い講演に耳を傾けましたが、ハイライトは若者たちとの公開フォーラムでした。若者たちははっきりと言ってくれました。「サレジアンの皆さん、あきらめないでください。ぼくたちは皆さんをいつも必要としています！」

皆さんの多くは、すでにストレンナ 2018 を母国語で受け取られたことでしょう。総長が語る 15 分のストレンナのビデオと一緒に鑑賞した管区や共同体も（サレジオ家族と一緒に鑑賞したところさえ）あるでしょう。ストレンナ 2018 は全サレジオ家族にとり、カリスマにおける真の挑戦です。EAO 地域のサレジオ家族の、すべての事業一つひとつにおいて、若者たち—子ども、思春期の若者、青年たち—は同じように私たちに求めているに違いありません：「サレジアン—修道士、シスター、神父、教師……の皆さん、私たちに耳を傾けてください！」と。

アンヘル神父ははっきりと述べています：「彼らは、成長を続け信仰において成熟するために私たちの助けを願う若者たちです。そのほかにも、言葉に出して願うことはなくとも、個人的に出会うこと、耳を傾けて聞いてもらうことの必要性を深く感じている若者たちがいます。個人的に、また共同体の中で、識別と同伴の歩みをたどりたいと望む若者はたくさんいます。

そこで私は自問します：私たちは何をしているのか、と。私たちのところに来るすべての若者と、彼らの人生で最も大切なことに関して共に歩むために、今よりもっと必要に応える開かれた姿勢を持とうと、なぜ私たちは決断しないのでしょうか。私たちを引きとめているものは何なのでしょう。このことが教育と福音化の真の優先事項であるにもかかわらず、なぜほかのことで『忙しく』、ほかのことに『時間をかけている』のでしょうか。」（ストレンナ 2018 解説）

ヴァルドッコで過ごした 1 月の 4 日間、ドン・ボスコの聖地で祈りました。「良き主よ、もっと多くの時間を若者たちと共に無駄にし、彼らに耳を傾けることができるよう私たちを助けてください。私たちの父ドン・ボスコのように！」若者に耳を傾けるよう、互いに勧め合いましょう：告解のとき、運動場で、グループの分かち合いの中で、心を開いて—いつも喜んで‘時間を無駄に’して。

ドン・ボスコのうちに

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父,SDB

## 福音をどのようにささやいていますか？

友人の皆さん、サレジオ家族の皆さん、

スンバの美しい島からごあいさつを送ります！ ここはインドネシア委任地区の7つのサレジオ会共同体の中で、最も新しいものです。とても前途有望な支部で、修練準備期の共同体、職業訓練センター、中学校があり、まさにインドネシアのヴァルドッコを体験できるところです！ スンバの宣教の前線にいる10人のサレジオ会員と8人の修練準備期生からよろしくとのことですよ！

皆さんが（おそらく）ご存じのように、今年、EAOの全サレジオ家族は、「サレジオ宣教の日 2018」のおかげで、「福音をささやく」ことによって宣教精神を深める特別な機会を与えられています。今年焦点となるのは、アジアにおいてイエスを告げる第一次福音宣教です。特に職業教育の場に目を向けます。今年、私たちは、生き方のあかしと教育を通して共に歩むことにより、イエスへの愛を若者たちの魂にささやく同伴を学びます！

過去30年(1988-2018) そうであったように、今年も4つの魅力的な宣教の物語(ラオス、ベトナム、スリランカ、ネパール)がビデオになっています。宣教促進のための冊子(44ページ)、美しいポスター、そしてサレジオ宣教の日のための次の短い祈りがあります！

天地の創造主

全能の神よ

あなたはご自身をエリヤにあらわされました

大きな風にも、地震にも、火にも、あなたはおられず

そよ風のささやきの中にあなたはおられました

福音の心を

アジアの心に告げるために

私たちが聖霊のささやきに温順なものとしてください

雇用へと結びつく教育の

調和ある、喜びあふれる物音が

若者の人生に尊厳を与え

“ナザレの大工” イエスとの出会いへと導きますように アーメン

皆さんは今日、どのように福音を若者にささやいていますか？ ドン・ボスコのまことの息子、娘として、福音をどのようにあかし、ささやくかを学ぶチャンス逃さないでください！

ドン・ボスコのうちに

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(49)

2018年4月1日／東ティモール デイリ

## 喜んで耳を傾け、時間を無駄にしていますか？

友人の皆さん、サレジオ家族の皆さん、

再び東ティモールのデイリより、心からのごあいさつを送ります。EAO 管区長・地区長会議からひと月がたちました。私は昨日、ローマで行われた最高評議会の短い中間期会合から戻りました。会合で私たちは総長と共に、次期第 28 回総会（2020 年）に向け、テーマと道のりについて識別を行いました。また今日、私たちは、ドン・ボスコの母マンマ・マルゲリータ（マルゲリータ・オッキエナ、1788-1856）の 230 回目の誕生日、そして 1934 年のドン・ボスコ列聖の日を記念します。

インドネシアと東ティモール各地を 2 か月にわたって移動しながら、私はサレジオ家族のメンバーのもとで成長する大勢の若者と出会い、サレジオ会員の心に耳を傾け、対話し、深く洞察するために長い時間をかけました。特に、投げかけられた多くの質問を大切にしようと思いました。今、復活節に入り、私の思いは、イエスが落胆した弟子たちと共に歩まれるエマオの話に向かいます。そうです、イエスは、耳を傾けて貴重な時間を無駄に費やすのを躊躇しませんでした。今日、自分は、私たちはどうでしょうか？

兄弟会員やミッションパートナー、アニメーターの若者の長くイライラする話を早く切り上げようとする誘惑に、私たちは簡単に陥るかもしれません。結論をすでに“知っている”ので“時間の無駄”だと考える誘惑があるかもしれません。そうすることで、何分かもうけるかもしれませんが、会員、協働者、若者に心を閉ざすこととなります。いまいちど認めなければなりません、若者や協働者から最もよくあげられる批判は、「サレジオ会員は、私たちの話を聞く暇がない」というものです。

この復活節の 50 日が始めるにあたり、エマオへの道で歩み、耳を傾けるイエスに目と心を向けます。思いめぐらすのに何というすばらしいイメージでしょうか！ そう、確かに、忍耐と深い関心をもって若者、協働者、兄弟会員と共に歩み対話するのは簡単ではありません！ 友情あふれるアシステンテの謙遜な姿勢のイエス、若者と共に歩み、まことの人生へと彼らを導くイエスに従う恵みを、私は願います。

そう、私は喜んで、若者と兄弟会員に耳を傾け時間を無駄に費やします！

主よ、お話してください！ 僕は聞いております！（サムエル記上 3 章 10 節）

皆さん、喜びあふれる復活節をすごされますように！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(50)

2018 年 5 月 1 日 / 東ティモール・ヴェニラレ

**カナのマリアのように：足りないものは？**

**福者フィリッポ・リナルディのように：マリアのご像のもとに具体的なものを！**

友人の皆さん、サレジオ家族の皆さん、

5 月、私たちの母、イエスの母であるマリアの月の最初の日、東ティモールの小さなヴァルドッコ、ヴェニラレの共同体から、心よりのあいさつを送ります！ ここは、小さな町のような一つの家族で、サレジオ会の福者フィリッポ・リナルディ共同体とサレジアン・シスターズの 2 つの共同体があり、山間部の大きな小教区に 16 の聖堂、多くの学校、1 つの孤児院、志願準備期の支部（サレジオ会、中学生、170 人の少年たち）、そして 1 つの志願院（FMA）があります。

1 月 31 日以来、私は聖カリストス・カラヴァリオ・インドネシア・ティモール準管区の各地を回り、ここ数か月間その生活を共にし、この 2 つの国で行われたドン・ボスコのあらゆる奇跡を感謝しています。そして、我々サレジオ会のいる各所での深く強いマリア信心に、私はあらためて深く感動しました。特に何百人もの ADMA（扶助者聖マリアの会）のメンバーは、献身的な生き方のあかし、深い信心、よく組織され

た使徒職をもって、キリスト者共同体、サレジオ家族を築き上げるために大いに貢献しています！

この訪問の間、若者の置かれている現実への非常に具体的なアプローチについて、私は深く認識するようになっていきます。マリアに目を向けながら、この5月の歩みのために、2つの模範を提案したいと思います。:

まず、母マリア。細やかな母の心をもって、御子の家族—教会共同体—の小さな具体的な必要にも深く関心を持っておられます。聖母が婚宴で足りなくなったものに気づくことのできたカナの時のように：私たちの周りの若者のニーズに深く注意を向ける賜物を願いましょう。そのための第一歩は、若者一人ひとりに、全面的に心を開いて耳を傾けることです！

2人目は、福者フィリッポ・リナルディです。ご存じのように、ドン・リナルディは多くの「解決不可能な問題」を非常に具体的な方法でマリアに託しました——総長としても。彼は小さな紙切れにそれらの意向を記し、仕事机の上の小さな聖母像の下に置いていました。亡くなった後で、次のような意向の書かれた、たくさんの小さな紙が見つかりました。「愛するマンマ・マリア、もうこれ以上何もできません、人間的な方法はやり尽くしました、この兄弟会員〇〇をあなたの世話のもとにお受け取りください！」

この5月を、私たちの周りの若者の必要に耳を傾ける、本当に特別な時としましょう！ 若者たちの必要をイエスのもとに運びましょう：「ぶどう酒がなくなりました」と。イエスはカナの婚宴のときのように、応えてくださるでしょう！

実り豊かな2018年5月—マリアの月を！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(51)

2018年6月1日／中国 香港

**毎日福音を読みますか？ 2分だけでも！**

友人の皆さん、サレジオ家族の皆さん、

この6月の月を、イエスに耳を傾ける特別な時にしましょう！ 私たちは伝統的に

6月をイエスのみ心の月として祝います。イエス・キリストのみ心に近づく良い機会です。最近のビデオ・メッセージで、教皇フランシスコはアルゼンチンの若者に挑戦を投げかけています：

「皆さんのうち、その日の福音を読むために毎日2分をかける人はどれくらいいますか？ たったの2分です！ バッグに、ポケットに（あるいはスマホに）、福音書の小さな本を入れておいてください。バスや電車、地下鉄に乗っているとき、友だちを待っているとき、家にいるとき：福音書を開いて、2分間、読んでください！ 試してみてください！ 人生が変わるのを経験するでしょう！ イエスと出会い、イエスのみ言葉と出会うからです。」

香港で、三位一体の主日の夕方、扶助者聖マリアの美しい行列の後で、Tang King Po 教会で中国のカトリック共同体のために祈りながら、私はこの短いビデオを何度も繰り返し見ました。教会で短い講話をした際、サレジオ家族に質問しました：「どちらの方が簡単ですか - イエスに耳を傾けるのと、皆さんのお子さんやご主人、または奥さんに耳を傾けるのと？」

最近の調査によると、香港の親の約2割が週に1回も子どもの話を聞かないそうです！ 私たちも自問することができるでしょう。学校、小教区、ユースセンター、学生寮の若者たちに、私たちはどれほど耳を傾けているのでしょうか！ 実に、私たちが耳を傾けていないことが、あらゆるところで感じられるのです！

深く注意を傾けてイエスに耳を傾けるのは簡単ではないと、私たちは経験から知っています。毎日の30分の黙想を短くする言い訳を、私たちはたくさん思いつきます。若者に耳を傾けることから、自分たちを免除してしまいます。人生を変えるほどのイエスとの出会いを自分自身が体験していなければ、ほかのことに目を奪われている若者たちに、教皇フランシスコと共にどうして言うことができるでしょうか：「耳を傾けてみない - 2分だけでも？」と。

実り豊かな2018年のイエスのみ心の月をおすごしくください！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

教皇フランシスコのビデオ：

<https://www.vaticannews.va/en/pope/news/2018-05/pope-videomessage-argentina-young-people.html> - play

## #ForYouToo フォーユートゥー あなたにも!

### - サレジオ聖性のムーブメント

友人の皆さん、サレジオ家族の皆さん、

今回のボナノッテを7月の最初の日に受け取られるとき、同じ日に私たちは総長との黙想会に入ります。私たちが祈りのうちに思い出してください、私たちが皆さんのために祈ります!

まず、先月の間に任命された EAO の新しい管区長たちのことも、皆さんの祈りにゆだねたいと思います: ヨゼフ・NG 神父 (中国)、アンドリュー・ウォン神父 (インドネシア)、ヤコブ濱口神父 (日本) です。新管区長が、サレジオ会の兄弟会員のため、サレジオ家族のメンバーのため、ドン・ボスコの友人たち、それぞれの国の若者たちのために、もう一人のドン・ボスコとなりますように!

おそらく皆さんの多くは、性犯罪の被害を受けた女性たちを代弁する、2006年に始まった #MeToo (ミートゥー) 運動のことを聞いたことがあるでしょう。この20年の間に、1900万人近くの女性が被害の苦しみを訴えてきました。とても胸を打つことで、深く考えさせられます。

現代世界における聖性への呼びかけを取り上げた最近の使徒的勧告 *Gaudete et Exultate* (歓喜し喜び踊りなさい) で、教皇フランシスコはもう一つの運動、#ForYouToo (フォーユートゥー) 運動へと私たちに招きます。それは私たちサレジオの耳には馴染みのある招きです—この招きは、聖フランシスコ・サレジオ、そしてドン・ボスコにさかのぼるのです。

「14. 聖なるものであるために、司教や司祭、修道者である必要はありません。聖性はおっぱら、日常生活の事柄から身を引き、多くの時間を祈りに費やすことのできる人々のためであるとする誘惑に、私たちはたびたび陥ります。そうではありません。...

16. 主が皆さんを招いておられるこの聖性は、小さな行いを通して成長します。一つの例をあげましょう: 女性が買い物に出かけます。近所の人に会い、話しはじめ、噂話が始まります。しかし、女性は心の中で思います: 「いや、誰のことも悪く言わないようにしよう」。これは聖性に向かっての一步前進です。その後、家に帰ると、子ど

もが自分の望みや夢について母親に話したがりです。女性は疲れていますが、座って、忍耐と愛をもって耳を傾けます。これも、聖性をもたらすもう一つの犠牲になります。それからまた後で…女性は外へ出かけると貧しい人に出会い、立ち止まって優しい言葉をその人にかけます。また一歩前進です。

17. (ベトナムの) フランシスコ・ザビエル・グエン・バン・トゥアン枢機卿は囚われの身であったとき、解放される日を待つことで時間を無駄に過ごそうとはしませんでした。その代わりに、このように生きることを選びました。『今という時を生きる、その時を愛でいっぱい満たして：平凡な行いを、非凡に果たそう』。

もちろん、教皇フランシスコのこの勧告を、祈りと振り返りのために取り上げて読むことがいちばん良いでしょう。実に、全サレジオ家族は来年、2019年にそうするよう招かれるでしょう。

私たちの弱さのただ中にあっても、復活された主と共に ‘#ForYouToo あなたにも’ 聖性の道は可能です！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(53)

2018年8月1日／インドネシア ジャカルタ

## サレジオ会修道士に耳を傾ける

### - サレジオの召命の満ち満ちた豊かさを理解するために

友人、サレジオ家族のメンバーの皆さん、

8月のボナノッテはジャカルタから皆さんにお届けします。アンドリュー・ウォン神父の信仰告白をもって、新しい聖ルイジ・ヴェルシリア準管区(INA)が正式に発足しようとしています。私たちは喜びと希望に満ちた熱意とを、この大きな国の72人の会員と共にしています。特に最近の12人の修練生の初誓願を受け(3人のサレジオ会修道士、9人の‘Frater’-司祭候補者)、そして新たな7人の修練生を迎えて！

あと数日で、私たちは長く待ちわびた第7回EAOサレジオ会修道士大会をベトナムのクロンで開催します。テーマは「あなた方は皆、兄弟である！」(マタイ23・8)。6年ごとのこの定期的な行事は、なぜ必要なのでしょう？1975年に行われた唯一のサレジオ会修道士世界大会にかつて参加した年配の修道士の一人は、深い確信を分

かち合ってくれました：「ドン・ボスコは私たちに、奉献されたサレジオ会員 — 司祭と修道士 — から成る、活力に満ちたサレジオ会共同体を約束しました。修道士のいない不完全な共同体が一つでもあるかぎり、サレジオ会召命の満ち満ちた豊かさを示すため、『サレジオ会奉献召命の完全な姿』について、折々に意識を高める機会が必要です！」

EAO 地域の 1500 名の会員の中には 215 名のすばらしいサレジオ会修道士がおり、そのほとんどが今回の第 7 回 EAO 大会に参加します！ 8 月 9 日から 12 日にかけて集まる前に、サレジオ会修道士の 4 割が Boscolink（7 か国語で発信される ANS にも掲載されるかもしれません）のインタビューに応えました。多くの管区が、すばらしいビデオ・プレゼンテーションを作りました。

修道士に耳を傾けることによって、私たちの目は開かれます。教育と福音宣教から成るサレジオの使命のすばらしさ、唯一のサレジオ会奉献召命の二つの形の補完性と美しさをわからせてくれます。実に、私たちは互いに言い合えるでしょう：あなたたちがいなければ、私たちは自分自身になれない、と！ インタビューの、地に足をつけ、心は天にある姿、若者たち、特に最も助けを必要とする若者のただ中に深く存在する姿を、私たちは尊敬の念をもって見ることができます。世俗のただ中での、日々の使徒的献身におけるサレジオ会修道士の単純さ、深い祈りに尊敬の念を抱きます。個人的には、EAO 大会の準備の過程で、すでに帰天した修道士たちの中に多くのサレジオの聖性の模範を発見したことに、何よりも感銘を受けました。時にその修道士たちは、本当に「忘れられた聖人」です — 東ティモールのジョゼ・クシー修士はそうではありませんが！ 私はただ皆さんを招きたいと思います — サレジオ会修道士に耳を傾けてください！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(54)

2018 年 9 月 1 日 / タイ・バンコク

**今日、私たちはどのように若者に耳を傾けているのでしょうか？**

友人の皆さん、サレジオ家族の皆さん、

教皇フランシスコの力強い招き以来、この 2 年、全世界の教会は若者に耳を傾けるよう招かれています。1 か月後、ローマで、「若者、信仰、そして召命の識別」を取り上げる司教シノドスが始まります。多くのサレジオ会員—専門家、司教、そして総長

アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父が参加します（10月3 - 28日）。

2018 司教シノドス作業用文書（Instrumentum Laboris）は、全世界のカトリック共同体が若者に耳を傾けていることのわかりやすい要約にほかなりません：作業用文書の編集のために用いられた 5 つの主な情報源のうち 2 つは、10 万人の若者が回答を寄せた「オンライン・アンケート」、そして 300 人以上の若者と 1 万 5 千人のオンライン参加者が集った「プレ・シノドス集会」から汲むものです。また、シノドス事務局に送られた多くの意見は若者から寄せられたものでした。司教シノドスがこれほど自由に意見を寄せられたことは、かつてありませんでした！ このことは、私たちの時代のしるしと考えられ、今度の 2018 シノドスの類まれな性格を確認するものです。全体で、2 つの若者の‘情報源’から 100 以上の表現が引用され、長く引用されている場合も多くあります（作業用文書 - 第 5 章）。読む価値があります！

しかし、すでにこの 2 年、すべてのカトリック教区（4500）、小教区・教会共同体は若者に耳を傾けるよう招かれてきました。そして多くの司牧者や大人が、どのように若者に近づき、耳を傾けたらいいのかわからないということを私たちは知っていますーサレジオ会員を含め！ これは回心への明確な呼びかけです！

次期、第 28 回サレジオ会総会のテーマは：「今日の若者のために、どんなサレジオ会員に？」です。そして、EAO 地域の 23 の国々で、「どんなサレジオ家族に（サレジアニ・コオペラトリー、サレジオ同窓会連合、ウニオーネ扶助者聖母会同窓会、VDB ドン・ボスコ女子在俗会、CDB、ADMA 扶助者聖マリアの会、Damas Salesianas、サレジアン・シスターズ、イエスのカリタス修道女会、SIHM、DQM、SQM、主の告知修道女会、ミカエリート）？」と私たちは付け加えることができます。

世界のサレジオ会の 90 管区が管区会議を準備しており、それぞれの管区は、多くの若者と出会い、次の 4 つの質問を投げかけるよう、総長に呼びかけられています：

- 今日の若者のために、どのようなサレジオ会員を夢見ていますか、どのようなサレジオ会員であることを願いますか？
- そのようなサレジオ会員であるために、今日、サレジオ会員に何が足りないと思いますか？
- 主にどのようなことのために、サレジオ会員の助けがほしいですか？
- あなたのいる環境で、サレジオ会員と共にほかの若者に仕えるために、自分はどうしたら積極的に貢献できると思いますか？

ドン・ボスコがバルトロメオ・ガレツリと初めて出会ったときのことを読むと（オ

ラトリオ回想録)、それが多くの問いから成る対話だということに気づきます。最初の一步を踏み出さなければ、若者と話し、耳を傾け、問いかけをやり取りする時間を取らなければ、真のサレジオ会員、真のサレジオ家族ではありえません！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(55)

2018年10月1日/タイ・サンプラン

## 宣教する若者 (Gioventú missionaria)、今日もありえる？

友人の皆さん、サレジオ家族の皆さん、

タイの“バチカン”、バンコク近郊のサンプランから特別なごあいさつを送ります。つい昨日、総長によって、さらなる 25 人のサレジオ会員、11 人のサレジアン・シスターズが、ヴァルドッコの扶助者聖マリア大聖堂から派遣されました (第 149 回宣教派遣)。そこには、総長との任期半ばの面談のためドン・ボスコゆかりの聖なる地を訪れている EAO の 3 人の管区長も参列していました。ヨセフ・クァン神父 (ベトナム)、ゴドフレド・アティエンサ神父 (フィリピン南)、チャールズ・ソー神父 (ミャンマー) です。

1875 年以来派遣されてきた 11,000 人余りのサレジオ会海外派遣宣教師のほとんどは、かなり若い年齢で故国を後にしました (15 歳の宣教師もいました)。修練前に宣教地に赴いた宣教師さえ何千人もいました。この宣教の炎は、大胆で遠くを見通すサレジオの宣教の文化によって可能となっていました。その文化には、多くの支部にあった宣教グループも含まれています。ヨーロッパの多くの管区にあった宣教志願院を結ぶ幅広いネットワークがあり、活気ある若者向けの雑誌 ‘Gioventú missionaria’ (宣教する若者) が 6 か国語で出版されていました。

現代の若者は、50 年前、100 年前の若者と比べて勇気がないのでしょうか？ 私はそうは思いません！ おそらく現代の私たちに欠けているのは、福音を ‘地の果て’ までも出かけて行って分かち合う宣教精神と熱意なのです。どこでも、十代の若者に人生の夢について尋ねると、‘宣教する中高生’ はいつもほかのキリスト教宗派の教育を受けた子ばかり、カトリックの子の中にはいません！ 数年前、宣教顧問を務めていたとき (2008-2014)、私は心がわくわくするようなサレジオの伝統を発見しました—我々 EAO の多くの管区でほとんど忘れられてしまっている体験：宣教グループです。

「宣教グループ」とは何をするのでしょうか？ 名称よりも大切なのは、その理念と行動です。最近のカリエロ 11（8月号）に次の簡単な指針が示されています：①毎日、世界中の宣教師のため祈る－例えば、宣教のロザリオ；②現代の宣教の frontline についてグループ研究を行う；③宣教地への個人的貢献（募金活動）；④宣教のニュース、必要とされていることについて分かち合う [ソーシャルメディアでカリエロ 11 を]；⑤個人としてカテケージスに、あるいはキリスト者でない人々と福音を分かち合うことに取り組む；⑥自分の宣教召命、宣教活動において成長する（主よ、お遣わしてください！）

私たちの SYM（サレジオ青年運動）、ユースセンター、養成支部（志願院から始めて）、教会、学校で、宣教グループを再び編成し始めることができるでしょう。「ナムクラ少年隊」、「カリエロの友」など、どうですか？

この 10 月、ローマで「若者、信仰、そして召命の識別」についての司教シノドス（10月 3 - 28 日）と、サレジアニ・コオペラトリー世界大会（10月 25 - 28 日）が開催されます。このロザリオの月、宣教の月が私たちにとり、若者の必要を通して共におられる神を中心とする、真のサレジオ的な祈りの生活の時となりますように！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(56)

2018 年 11 月 1 日 / 韓国 ソウル

## 世界の若者は、神の協力者=コオペラトリーを必要としています！

友人の皆さん、サレジオ家族の皆さん、

数日前まで、私たちはローマで開催されたサレジアニ・コオペラトリーの第 5 回世界大会を見守りました。大会はちょうど、「若者、信仰、そして召命の識別」をテーマとする司教シノドス 2018 の最終週と重なっていました。この数年、私たちの地域では全体的にサレジアニ・コオペラトリーの召命の成長が見られます。しかし、EAO の 5 つの国にコオペラトリーのメンバーはまだいません：フィジー、ラオス、パキスタン、ミャンマー、ニュージーランドです。それでも、「若返りの歩み」は明らかに進んでいます。世界大会の「夢」- 行動の指針 2019-2024 は希望を抱かせるものです：弱い立場にある子どもと若者を効果的に助けるため、信頼できるダイナミックなあかしに焦点を当てる！

私たちの父ドン・ボスコが帰天したとき（1888年）、約800人のサレジオ会員、そして8万人のサレジアニ・コオペラトーリがいました。その中には多くの教区司教、司祭もいました。ドン・ルアの時代（1910年帰天）、コオペラトーリの数は40万人と、主にヨーロッパで急増しました。この50年、サレジオ会はすべての大陸、134か国へと大きく広がりましたが、サレジオ会員やサレジアン・シスターズがこの美しい召命を信徒や若者のリーダーたちと必ずしも分かち合えたとは限らないことがわかります。今日、EAO地域には、全世界の3万人のメンバーのうち、2170人のサレジアニ・コオペラトーリ会員が暮らしています。

総長も参加し（ボナノッテ、最後の文化の夕べ「アカデミア」）、大会のテーマ「サレジアニ・コオペラトーリ：『新しい挑戦に応えるため共に責任を担うように呼ばれて』」は、大会におけるより幅広い普遍教会のビジョンのうちにしっかり位置づけられました：「世界の若者はサレジアニ・コオペラトーリを必要としています。……私たちそれぞれのいる場で、若者を擁護しなければなりません！」 共同責任は、具体的には、3万人のメンバー全員の世界会員名簿の出版、世界評議会による財務報告を通して目に見えるものになっていました。

大会の地域ごとのワークショップで、EAOの20名の代表は、今後数年間の3つの目標を特定しました：①私たち自身の召命の養成；②若者のサレジアニ・コオペラトーリへの召命識別を助ける；③家庭教育：サレジアニ・コオペラトーリはそれぞれの家庭で子どもたちの模範となるため、自らのアイデンティティを良く生きる。

大会の最後に、総長は、2019 - 2024年の任期を務める新しい世界コーディネーターも任命しました。アントニオ・ボッチャ氏（56歳、イタリア - ナポリ、2015年からイタリア - 中東地域の世界評議員）です。祈りをもってアントニオを支えましょう！

世界大会の資料は下記のリンクにあります：

[http://www.bosco.link/index.php?document\\_srl=42343&mid=side\\_right](http://www.bosco.link/index.php?document_srl=42343&mid=side_right)

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

## 聞くことはいつも最初の一步 — カリエロ 11！

友人、サレジオ家族の皆さん、

ヴァルドッコより、心からのごあいさつを送ります。プロジェクト・ヨーロッパのため、総長とその評議会と共に、“旧大陸“の全サレジオ会管区長 30 名がここに集っています。耳を傾けること、共に歩むことに満ちた 1 年を、このサレジオの母なる家に持ち寄る良い機会になっています。私たちも、耳を傾ける機会は豊かに与えられました。

第 28 回総会の問いかけ、「今日の若者のために、どのようなサレジオ会員に？」について、協働者ミッションパートナーの多くに耳を傾けたこと。総長のストレンナ 2018 が私たちに求めたように、若者と共に歩む同伴の第一歩として耳を傾けること。私たちの地域 5 か国—東ティモール、インドネシア、タイ、ラオス、カンボジア—への特別視察の際、多くの会員、協働者ミッションパートナー、若者に耳を傾けたこと。また、大きなインスピレーションとなったのは、10 月に開催されたシノドス、「若者、信仰、そして召命の識別」でした。私たちは教皇とシノドスの教父たちが、若者に絶えず耳を傾けるのを目の当たりにしました。

今月、私たちはまた「カリエロ 11」第 1 号の 10 周年を記念します。サレジオの宣教を活性化する月刊のニュースレターです。カリエロ 11 は、2008 年 12 月から 2018 年 12 月までに、120 以上の宣教師召命の証しを掲載してきました。サレジオ会として宣教師に耳を傾けてきた 10 年、おそらく今日、最も頻繁に、最も幅広く翻訳されているサレジオの活性化の道具となっています：EAO 地域に限っても、カリエロ 11 を英語、中国語、日本語、韓国語、タイ語、ベトナム語で読むことができます。

このカリエロ 11 の物語は、私たちに何を語るのでしょうか？ まず、とてもささやかなフォーマットであること（A4、1 枚）。これは 2007 年から 2009 年にかけてマニラで出されていたフィリピン北管区の宣教活性化ニュースレター、「Mt 28:16」にヒントを得たものです。第 2 に、カリエロ 11 は物語を語るという魅力的な宣教スタイルを提示し、宣教地のために祈るよう私たちを招き、多くの具体的な宣教師の姿を紹介します。第 3 に、カリエロ 11 は、毎月の 11 日に、実際に、具体的に宣教を活気づけるよう単純に招くものです。

カリエロ 11 はその名を最初のサレジオ会宣教師、ジョヴァンニ・カリエロ枢機卿

(1838 - 1926) からいただき、私たちの起源から、私たち家族の宣教の DNA からインスピレーションを汲むよう、全サレジオ家族を招いています。求道者に、若い宣教師に、ささやかな生活のあかしによって第 1 次福音宣教にたずさわる私たちの兄弟姉妹に耳を傾けることは、私たちにとって良薬です。いつものように今日も、居心地の良い安全地帯を後にして出かけて行くよう、助けてくれます！

今日、眠りにつく前に、カリエロ 11 の 1 つのページに目を通すか、ゆっくり読むか、してみてください、そして友人と分かち合ってください！ おやすみなさい！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(58)

2019 年 1 月 1 日 / ベッキ (コッレ・ドン・ボスコ)

**#ForYouToo 君も呼ばれている: 聖なる喜びのうちに主に仕えよう!**

サレジオ会員、サレジオ家族、ドン・ボスコの友人の皆さん、

新しい年、2019 年の心からのごあいさつを、ドン・ボスコゆかりの地から送ります！

私は 1 週間の個人黙想をここですごす恵みをいただき、私たちドン・ボスコの息子、娘の皆にとってかけがえのないこの聖なる地で、特別に皆さん一人ひとりのためにお祈りしています。

前回の聖性への招き（ストレンナ 2004 — チャーベス神父、ドメニコ・サヴィオの列聖 50 周年にあたって）から 15 年、136 か国に広がる全サレジオ家族は再び、目覚めるようにとの呼びかけ、日常生活における聖性を生きるようにとの強い促しを受けています。EAO 東アジア・オセアニア地域のサレジオ家族の皆がストレンナ 2019 の正式な解説をそれぞれの言語で早く受け取ることができるようにと、私たちは願っています（翻訳者たちに神の祝福あれ！）。それは私たち一人ひとりを、1 年を通して養う霊的な糧となるでしょう。

私の最初の思いは、EAO のサレジオ家族のよく知られている聖なる人びとに向かいます：我らが中国の殉教者の初穂、聖ルイジ・ヴェルシリアと聖カッリスト・カラヴァリオ、日本の尊者ヴィンチェンツォ・チマッティ、神の僕、タイのカルロ・デラトッレ神父、中国とベトナムで働いたアンジェイ・マチェン神父、中国とフィリピンで働いたカルロ・ブラガ神父らに。さらに、ミャンマーのフォルトゥナト・ジャコミン

神父のような、中国やそのほかの地で信仰をあかしした見事なサレジオ会員たちから、私たちは豊かな示唆を得ることができます。特に EAO の国々に暮らした人びとなので、少しずつより良く彼らを知る機会を私たちは与えられています。

第2の私の思いは、サレジオの聖性を見事に生きた若者たちに向かいます。14歳の Mak Kam Yun (+1944、中国-マカオ)、おしめない心の善良な若者として知られた15歳のロドリック・フローレス (+1984、フィリピン)、23歳のシグムンド・オカジオン (+2000、フィリピン)、18歳のヨゼフ・チミネッロ・ドリラグ (+1983、フィリピン)、19歳の殉教者、アカシュ・バシール (+2015、パキスタン)、そのほか、私たちの地域の多くの若者です。彼らの模範が、挑戦を投げかける教皇フランシスコの招き：#Holiness is for you too! 君も聖性に呼ばれている！と合わせて受けとめられることを、私は期待しています。

第3の私の思いは、個人的な分かち合いです：2013年以来、私は教皇フランシスコの最初の使徒的勧告、『福音の喜び *Evangelii Gaudium*』をいつも荷物に入れて持ち歩いてきましたが、昨年6月からは、『喜びに喜べ *Gaudete et Exsultate*』を加えました。今年、皆さんも、これらのすばらしい言葉を座右の書とすることをお勧めします。

フィリピン北-マレーシア管区 (FIN) に行くと、いまや伝統となった私たちの共同体のあいさつの言葉に、私はいつも深い感動を覚えます：「主に仕えよう-聖なる喜びのうちに！」 私たち皆も、この深くサレジオ的なあいさつを、それぞれの生活に生かすことができますように！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(59)

2019年2月1日/フィリピン セブ-ラワーン

## サレジオの聖人たちを知っていますか？

友人、サレジオ家族の皆さん、

フィリピン南管区 FIS (フィリピン南部-パキスタン) より心からのごあいさつを送ります。昨日、聖ヨハネ・ボスコの荘厳な祝いをもって、1月、サレジオの月を終えたところです！

先月、コッレ・ドン・ボスコで黙想しながら、今年、2019年の間、毎日1人「我らが聖人」を思い起こすというささやかな決心をしました。そこで簡単なことですが、私の Facebook のページに、サレジオ家族の“公式”、“非公式”の聖人を毎日一人ずつ紹介し始めました。その人物の具体的な特徴を簡単に説明し、写真を添えて。

1月の「サレジオの月」は、8日の福者ティトゥス・ゼマンを記念する典礼から始まりました。福者の帰天 50周年にあたり（1969-2019）、聖心大聖堂で特別な聖体祭儀がささげられました。福者ゼマンと共にかつて、そして今も迫害の下に暮らす、実に多くのサレジオ家族の仲間を私たちは思い起こしました。このことが私の心を捉えます：「多くの状況下で私たちはイエス・キリストのことを若者に語るができませんが、イエス・キリストが愛されたように若者を愛することは、誰にも禁じることができません！」忘れないでください、サレジオ家族の聖人、福者の7割は殉教者です！

11年前、第26回総会中、ドン・ボスコを「愛し、知り、その取りなしを求め、人びとに知らせる」よう全会は招かれました。しかしドン・ボスコだけでなく、サレジオ家族の173人の“公式の”聖人、福者、尊者、神の僕も、探求するべき—よりよく知るべき計り知れない価値を持つ宝です。実に、知らなければ、愛することも、呼び求めることも、做うこと、人びとに知らせることもできません。知り、愛する…知らせる、この好循環は、信仰とサレジオの召命において成長するよう私たちを助けてくれます。サレジオ家族の聖なる一員を少しだけよりよく知るとき、私はより大きなエネルギー、献身、喜びをもって自分の召し出しを生きる力をもらうのです！

数か月前、私は祈るために、タイ、バンポンのサレジオ墓地を訪れました。そのとき私は、ジョン・リサンドリン神父がある墓を指しながら強調し、感嘆して語るのに驚きました：「このサレジオ会修道士はもう30年前に亡くなったけれど、模範的なサレジオの教育者として今も皆が憶えている」。この修道士の飾らない生涯については、AustraLasia ニュース 4859\_” Instinct of Salesian assistance” 「周囲に伝染し皆の心を惹きつける、サレジオのアッシステンツァの模範」で読むことができます。私はこの出来事から、聖なるサレジオの生活が時の中で、どれほど多くの人にすばらしい影響を与えたか、深く考えさせられました。

この2月、一人だけサレジオの聖人を選び、その人についてよりよく知り、個人の生活、共同体の生活の中に迎えましょう！ 我らがサレジオの聖人たちと共に、良い歩みを！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

## サレジオの聖人をどのように大切にしていますか？

友人の皆さん、サレジオ家族の皆さん、

後何日かで四旬節を迎えようとする今日、心からのごあいさつを送ります。今年、灰の水曜日は3月6日になります。今から52日後、私たちはキリスト教信仰における1年の中心、主イエス・キリストの死と復活をお祝いします！

2019年1月1日から私たちは、「聖なる者になろう！」という目標を掲げ旅に歩み出しました。このストレンナのメッセージは、実に多くの公式のサレジオの聖人たち、また日常の中で出会う「身近な聖性」を発見するよう助けてくれます。しばしば単調な日々の務めに満ちた日常生活の悩み、挑戦の中で、この聖性の道を真剣に受けとめよう、若者さえも触発するストレンナ2019のビデオに私は感謝しました。

サレジオの聖人への愛を、私たちはどのように表現し、目に見えるものになっているのでしょうか？

そうです、総勢168名余りのサレジオ家族の聖人たち一人ひとりをもう少しよく知るようにしなければ、私たちはこの人びとへの愛を語れません。

管区の中には、サレジオ家族の聖人あるいは過去のサレジオ家族の著名な人の名前を学校の各教室に付けているところもあります。そうすることで、生徒が聖人たちをよりよく知る機会になります。

多くの修道院では、サレジオ家族の聖人168名の肖像をちりばめたサレジオの聖性のポスターを、目につく重要な位置に飾っています。

聖人たちについてもっと知らせるため、多くのサレジオ会員が、伝記を母国語に翻訳するため、時間とエネルギーを注いでいます。

私たちの中には、好きな聖人の写真をFacebookのページに載せたり、壁に飾ったりしている人もいます。その聖人の有名な言葉や短い紹介と共に。

私はあるサレジオ会の聴罪司祭が、告解後の償いとしてマンマ・マルゲリータの伝記を買って読むように言ったと聞き、驚きました。

サレジオ家族の聖人を知り、愛し、聖人に倣い、聖人のことを人々に知らせることは、より忠実にイエスに従う確かな道です。この地上の旅路で、互いに励まし合い、熱意を温めながら。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(61)

2019年4月1日／フィリピン セブ

**サレジオの聖人たちにどのように倣っていますか？**

**人生最高の日：ドメニコ・サヴィオの初聖体**

友人の皆さん、サレジオ家族の皆さん、

ドン・ボスコゆかりの地での黙想中（2019年1月の最初の週）、私はドメニコ・サヴィオが暮らした家に掲げられている言葉に心を打たれました。その言葉はちょうど170年前、この少年が初聖体によって、倣うべき非常に尊い遺産を私たちに残してくれたことを思い出させてくれるものでした。

じつに、ドン・ボスコは「ドメニコ・サヴィオ伝」で、復活の主日（1849年4月8日）のドメニコの初聖体について伝えるため、1章を割いています：

「主任司祭は初め躊躇し、ほかの司祭たちと相談した結果、ドメニコに7歳で初聖体を受けることを許しました。ドメニコはカテキズムを知っており、聖体も理解していたからです。ドメニコは準備のため、祈りと読書に多くの時間をかけ、母に、何か嫌な思いをさせたことがあったらゆるしてほしいと願い、それから教会に向かいました。初聖体のことを尋ねられると、ドメニコは喜びに顔を輝かせて言うのでした。『ぼくの人生でいちばん素敵な、すばらしい日だった』。」

ドメニコは初聖体の日にいくつかの決心をし、それを「小さなノート」にしたため、何度も読み返した、とドン・ボスコは書いています。あるときドン・ボスコはドメニコのノートに目を通したことがあり、初聖体の日の決心をそこから引用しています：

ぼく、ドメニコ・サヴィオの約束。1849年、7歳、初聖体をいただいたときに。

1. 頻繁にゆるしの秘跡にあずかる。聴罪司祭が許可を与えるかぎり、毎回聖体拝領を

する。

2. 日曜日と祝日を、聖化する。
3. ぼくの友達はいエス様とマリア様。
4. 罪を犯すよりも死を！

ドメニコ・サヴィオと同時代の多くの若者たちは、(4つの決心を含む) 同じカテキズムに従い初聖体の準備をしましたが、ドメニコだけがそれを、人生を方向づけるものとして、真剣に受けとめました。

数多くの子どもたちが初聖体を受けますが、それを具体的に記録する教育者は多くありません(ドン・ボスコがしたように)！

聖なる師と聖なる弟子のこの相乗効果から、私たちは何を学べるでしょうか。サレジオの聖人に倣うことは、小さな事柄におけるその具体的で単純な一貫性から始めることができるでしょう：平凡な事柄のうちに、非凡な愛をもって、心を尽くすことです。

ドン・ボスコが「あなたの心を全面的にイエスにさしあげてください！」とすべての人を招いたのは、偶然ではないのです。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(62)

2019年5月1日／オーストラリア メルボルン

**キリストは生きておられ**

**あなたがたが生きることを望んでおられます！**

友人の皆さん、サレジオ家族の皆さん、

復活節のただ中、5月のマリア月の初めの日、喜びにあふれる心からのごあいさつを送ります！ 今年の元旦から、私はベッキのコッレ・ドン・ボスコの大聖堂にある、復活のイエスの大きな像に深く心を打たれていました。明るく穏やかで、温かく迎えるイエス・キリストの腕(1984)は、ピナルディ聖堂の復活の主のフレスコ画(1929)をまさに映しています。復活のキリストに従うサレジオ霊性のルーツを、私たちはここに見ます。

そして3月25日、私たちは世界代表司教会議（シノドス）後の教皇フランシスコの使徒的勧告の題、「キリストは生きておられる（Christus Vivit）」に驚きました。2018年の司教シノドス「若者、信仰、そして召命の識別」を受けてのものであります。この生き生きとした299の段落から成る書簡は、本当に心を温めてくれます。その冒頭の言葉は、若者に語りかける調子、話し方を表しています：

「若いキリスト者の皆さんに私が述べたいと願う最初の言葉はこれです：キリストは生きておられ、あなたがたが生きることを望んでおられます！ キリストはあなたがたの内におられ、あなたがたと共におられ、決してあなたがたを見捨てません。皆さんがどれほど遠くをさまよっても、復活された方、キリストは必ずそこにおられます。キリストはあなたがたを呼んでおられ、ご自分のもとへあなたがたが帰り、再出発するのを待っておられます。悲しみや怒り、不安、疑いや失敗により自分が年取っていくと感じるとき、キリストはいつもおられ、あなたがたの力、あなたがたの希望を回復してくださるのです。」（教皇フランシスコ, Christus Vivit, 1-2）

ベッキのドン・ボスコ大聖堂で祈りながら、私たちは「光の道行」の14留をも思いめぐらします：復活から聖霊降臨まで、そして弟子が宣教のために世界中に派遣されることを。サレジオの若者の霊性は、イエスのエマオへの道からインスピレーションを汲んでいます；私たちサレジオ会員は、旅を歩んでいるとき自分らしく感じます。教皇フランシスコはエマオへの旅を全カトリック共同体の道として示しており、私たちはますますカトリック—普遍教会の心、中心にいると感じます。

今日の若者のために、どのようなサレジオ会員に？ EAO 東アジア・オセアニア地域各地の管区会議で、私たちは、若者たちの同じ願いを耳にしています：

「サレジオ会員の皆さん、私たちの中に、共にいてください！ 共に時間を無駄に過ごし、私たちに耳を傾けてください！ サレジオ会員の皆さん、惜しみなく時間を無駄にして一緒に歩んでください！ 私たちには皆さんが必要です！」

このような期待への私たちの最良の応答は、教皇フランシスコの勧告「キリストは生きておられる」を手に取り、私たちの共同体の中で、聖霊降臨に向けて歩む50日間、日々、読み、思いめぐらすことでしょう。復活されたイエスに、私たちのいのち・人生をも変容させていただきましょう！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

## サレジオの聖人にどのように取りなしを願っていますか？

友人、サレジオ家族の皆さん、

今日は、ローマを出ての今年最初の訪問旅行の、最後の日になりました。今日、ジャカルタを発ち、ローマのイエスのみ心大聖堂へ帰ります。この20週に及ぶ、我々が美しい地域の10か国訪問の旅で、私は多くの会員とサレジオ家族のメンバー、若者たちに会いました。

それから皆さんに打ち明けますが、今年の1月以来、私は総長のストレンナ 2019のビデオ(19分)をさまざまな国や共同体で40回以上見ました。じつに心温まる体験でした！ 「聖なる者になろう、あなたも聖性に呼ばれている！」 — 教皇フランシスコのこの力強くシンプルな招きは、アンヘル神父の姿のうちにローマ・テルミニ駅で、ヴァルドッコでこだまし、若者たちのためにも新たな地平を開きます。私たちは、聖性の篤い文化をのこしてくれた一人の聖人の息子、娘、弟子なのです。このストレンナのビデオを今いちど見る機会を逃さないでください。すでにウルドゥー語(パキスタン)とセブ語(フィリピン)を含む42の言語で見ることができます！

もう一つ告白しなければなりません。私にとって、サレジオの聖人の取りなしによって何かを願うよりも、聖人たちを敬愛し、その生涯について分かち合うほうが楽です。私たちの地域にはじつに、聖なるサレジオ会員の列福を願うため、数々の祈りが広められています：日本-韓国(Mgr. ヴィンチェンツォ・チマッティ, +1965)、フィリピン-中国(カルロ・ブラガ神父, +1971)、タイ(カルロ・デッラ・トッレ神父, +1982)、ベトナム(アンジェイ・マチェン神父, +1999)、ミャンマー(フォルトナート・ジャコミン神父, +2000)。しかし、私たちのうちどれほどの人が、実際に我らが神の僕や尊者たちに、心を尽くして「取りなしを願って」いるのでしょうか？ 聖なるサレジオ会員たちの取りなしを願って祈りを唱えるとき、その祈りに本当に心をこめていますか？

フィリピン人サレジオ会員、ロバート N. 修道士(オベトさん)は、集中治療室で何の見込みもなく、すでに2週間昏睡状態にあった兄弟のために家族に祈りを求めたとき、その後、起こることを全く想像していませんでした。家族全員、信頼のうちに、福者アルテミデ・ザッティの取りなしによる回復を祈りました。すると、オベトさんの兄弟は意識を取り戻しました！ あれから4年後の現在、神が特別に介入して下さるよう願った家族の篤い祈りの結果、オベトさんの兄弟はとても元気になっており、

この奇跡と思われる出来事の調査が進められています。深い信仰だけが、このような心からの祈りを生むのです！

私たちはつい、心をこめずにただ機械的に繰り返しがちです、「聖ヨハネ・ボスコ、私たちのためにお祈りください」と。しかし、少し立ちどまり、「箸にも棒にも掛からぬマゴーネのような少年」の、あるいはサレジオの学校の生徒や教会の壊れた家庭の、またそのほかの、具体的な緊急なニーズに思いを馳せ、そしてこのような短い祈りをささやいてみてはどうでしょうか？ 「愛するドン・チマッティ、あの子のために、あの家庭のために……お祈りください」と。

ボナノッテ、おやすみなさい！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

Video interview with Salesian Brother 'Obet' (2018)

<https://www.youtube.com/watch?v=ub8GbAFIfqk>

EAO ボナノッテ(64)

2019年7月1日／聖地巡礼にて

## サレジオの聖人たちを知らせていますか？

(ローマ、サクロ・クオレのブラザー・コジモ)

友人の皆さん、サレジオ家族の皆さん、

イエスの聖地、私たちの一人としてお生まれになったベツレヘム、ふつうの家庭の中で成長されたナザレ、十字架につけられ、死に、復活されたエルサレムより、心からのごあいさつを送ります。この巡礼をたどる全最高評議会とドン・ボスコの後継者は、この聖なる地に皆さんの意向をも運んで来ていることをお伝えします。

私たちの共同体、家庭、サレジオ家族のすべてのグループにおけるどのような良い出来事も、鍵となるのは、耳を傾けることだと、私はますます確信しています。サクロ・クオレのドン・ボスコ記念館で、総長と最高評議員との木曜の朝のミサの後、私はコジモ修士と少し言葉を交わしました。年配のコジモ修士は、ドン・ボスコ記念館の熱心な管理人です。コジモさんは、巡礼者や訪問者に短い祈りの言葉をドン・ボスコの聖画の裏に書いてもらい、それをドン・ボスコが最後のローマ滞在中、ミサを

ささげた祭壇にそなえるのを習慣にしています。彼は分かち合いの終わりに、ため息をつきながら言わずにはられません。「たいてい信徒の皆さんのほうがサレジオ会員よりも、サレジオの聖人たちに愛着をもっているんだ。なぜだかわかる？」 コジモさんの答えは簡単です。「今、若いサレジオ会員はドン・ボスコのことをあまり語らない、ドン・ボスコのことを十分に知らないんだよ！ テレジオ・ボスコのドン・ボスコ伝を読んだだけではだめなんだ。」 かつてエクアドルで宣教師として働き、イタリア語、スペイン語、英語を駆使するコジモ修士は、優れたガイド、ドン・ボスコの熱心な弟子です。その祭壇に、たくさんのドン・ボスコの聖画を目にすることができます。その一つひとつの裏にさまざまな言語で、私たちの父の取りなしによって願う恵みが手書きで記されています。

聖地、聖なる人びと、聖なるところ……お生まれになった聖地は神の子がおられたことによって聖化されました。同じように、ドン・ボスコゆかりの聖なところは、イタリア：ピエモンテ、ローマ、ベッキ、キエリ、ヴァルドッコだけではなく、世界中にあります。

ドン・ボスコの息子、娘たちがドン・ボスコをよりよく知り、より深く愛し、心から親しみ、しばしば取りなしを願い呼び求めようとするところでは、若者に、まわりの教育者やそのほかの人びとに、よりたやすくドン・ボスコを知らせることができます。心がドン・ボスコで満たされているなら、生き方からそれはあふれ出るので。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(65)

2019年8月1日／カンボジア プノンペン

## 主よ、安全地帯の外へと私を遣わしてください！

友人、サレジオ家族の皆さん、

カンボジアより心からのあいさつを送ります。今年2期目のEAO 東アジア・オセアニア地域巡回の旅の、2つ目の訪問地に来ています。EAO ボナノッテは、2014年4月、第27回総会の後、23か国から成る私たちの広く多様な地域において、サレジオ家族のメンバーの帰属意識を高めるささやかな試みとして始まりました。EAOの多くの文化は、共同体を築くため、人間関係を深めるために、物語を語ることに価値を見いだします。

今年、私がチェコスロバキアを脱出してから早、35 年になります。国を出たのは、プロジェクト・アフリカの宣教師になるためでした！ 1984 年 8 月のある夜、若いサレジオ会員であった私はユーゴスラビアとイタリアの国境のアルプスを越えました。その冒険は私の全人生と召命にしろしを刻み、さまざまな場で何百回もそれについて語りました。共産主義国、チェコスロバキアの脱出を計画するのに、1982 年から 2 年かかりました。Missionary ad gentes すべての民への宣教師となるためでした。そして、とうとうその時が来て、1984 年 8 月、プラハからアドリア海の沿岸（ユーゴスラビア）まで行くのに 2 日、そしてイタリアとの国境の山を越えるのに一晩しかかかりませんでした。

神に、そして一人のサレジアニ・コオペラトリー会員に感謝、私はアルプスを越えることができ、トリエステ（イタリア）にたどり着きました。そこは、私がサレジオ会員となって初めて出会った、教会法にのっとって設立されたサレジオ会修道院でした。当時は、私が母国に二度と帰れないことがはっきりしていました。私はパスポートも無く、小さなカバン 1 つ、何枚かの夏服、1 冊の本—新約聖書だけを持って国を出たのです。実に、私はすべてを後にしました。安全上の理由から、両親にも、友人にも、ほかのサレジオ会員にさえ、何も言っていませんでした。

なぜすべてを後にしたのでしょうか？ イエスに従うためです。宣教の道をたどるためです。人々に福音をもたらす道具として、主が私をさまざまな方法で準備してくださったと理解したからです。最初のアフリカの夢に代わり、長上の意向で韓国に行くことになりましたが、人生の全体的方向性は変わりませんでした。それは、「すべてを後にし、すべての人のためにすべてとなる」ことでした。

それ以来、この 35 年間、困難の中にあっても努力と喜びあふれる熱意、使徒職への情熱を湧き上がらせるのは、いつも比較的容易でした。すべてを後にすること - *Cetera tolle* - は、若者の魂、兄弟会員の心にますます自分を近づけさせると、何年も後になって、私ははじめて理解するようになりました。呼びかけへの従順は、自分自身を余すところなくイエスにささげるために大きな力をくれる、日々の賜物となっていました！ 多くのサレジオ家族のメンバーが、それぞれの安全地帯の外へと日々出て行き、若者の心に近づく喜びを体験することができますように、主に願いましょう！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

## 召命の文化は心を惹きつける魅力を通して（はじめて）育まれる

友人、サレジオ家族の皆さん、

ミャンマー、アニサカンより心からのあいさつをお送りします。今年ミャンマー準管区は、1939年に最初の宣教師たちがマンダレーに着いてから80周年を記念しています。数日前まで、EAO（東アジア・オセアニア地域）第2回翻訳者ワークショップがこちらで開催され、すばらしい時を過ごしました。30人の勤勉で忍耐強い翻訳者たち、年齢も若い人、年配者とさまざまな、サレジオ会員、サレジアン・シスターズ、サレジアニ・コオペラトリー、協働者ミッションパートナーが、EAOの9つの管区から集いました。

心を惹きつける魅力！ これはこの数か月、私が頻繁に黙想したテーマの一つです。召命の話を通して信仰を分かち合うとき、それぞれの召命のきっかけとなった最初の出来事について、若いサレジオ会宣教師から聞くとき、——私たちがいつも見いだすのは、心を惹きつける魅力のダイナミズムです。わあ！ すごい、美しい、すばらしい話だ——イエスの、神の民の、聖人やイエスの弟子たちの心を惹きつける魅力を、私たちはさまざまな形で表現します！

サレジオ会修道士たちのインタビュー（2018）やサレジアニ・コオペラトリーのインタビュー（2019）を何度も読み返しながら、心を惹きつける魅力のダイナミズムという点で皆の証言が共通していることに、私は絶えず心を打たれます：

志願院、修練準備期の支部に、ただ一人の喜びあふれるサレジオ会修道士（洗礼者ヨハネ修士）がいたために、ベトナム・モンゴル管区には多くの若い修道士がいるのです！

そうです、今日もなお、サレジオ会奉献生活の単純な美しさは、心を惹きつける魅力なのです！

養成支部で、あるいは「カリエロ 11」を通して召命の話分かち合うようサレジオ会宣教師たちに勧めること、ただそれだけで、私たちの間に新たな宣教師の世代が生まれています！ そうです、人びとのもとへ出かけて行く生き方のすばらしさは、今も心を強く惹きつけるのです！

ドン・ボスコが若者やカトリックの人びとの共同体で自らの召命の物語を分かち合ったように、私たちが分かち合うからこそ、サレジアニ・コオペラトーリの新たな世代を再び見いだすことができるでしょう。そうです、サレジオの召命の文化の最も魅力あふれる柱は常に、ドン・ボスコの計り知れないほど尊い生き方の物語なのです！

何が、誰が、イエスに、あるいはドン・ボスコの家族にあなたを惹きつけましたか？ 家庭的な精神、それともサレジオ会の共同体で体験した飾らない友情の絆でしょうか？ 教会や学校で出会った、勇気ある、いつも温かく迎えてくれる宣教師の模範でしょうか？ いつも話を聞いてくれる、忍耐強く、共に歩んでくれる先生——それはサレジアニ・コオペラトーリ会員かもしれません——学生のころ、自分のために時間をさいてくれた先生でしょうか？ ドン・ボスコの学校の門のところで、いつも笑顔で迎えてくれた院長やカテキスタでしょうか？

私たちサレジオの環境を含む召命の文化は、魅力的な物語を通してどこでも育まれます。この9月、日常生活や使命を果たす場で出会うことのできる友人、若者と、どの魅力的な物語を分かち合いますか？ 皆さんが魅力的な物語の時を過ごすことを願っています。それは世界に広がるカトリック共同体全体の召命を築き上げる大きなプロセスの中で、ささやかでありながら非常に大切な石なのです。

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

神の僕 ニーノ (アントニオ)・バリエリ Nino (Antonio) Baglieri, (1951-2007) 在俗会 CDB (Con Don Bosco) - 'Volunteers With Don Bosco' メンバー CDB は創立 25 周年を祝っています。EAO で最初の CDB のグループはフィリピンのマニラに設立されています(1994-2019)。

EAO ボナノッテ(67)

2019年10月1日／ベトナム ホーチミン

## ミッションとなりたいですか？

友人、サレジオ家族の皆さん、

2019年10月、「福音宣教のための特別月間」の最初の日に、心からのあいさつをお送りします。教皇フランシスコがこの6年夢見てきた、宣教する教会と共に成長する、本当に素晴らしい機会です。

何日か前(9月12日)、私たちは在俗会 CDB(ドン・ボスコ・ボランティア Con Don Bosco)の25周年(1994-2019)を祝いました。CDB 会員は世界に85人しかいませんが(EAO 東アジア・オセアニア地域初のマニラの4人を含め)、私たちは一つの大切な信条を CDB から学ぶことができます。

1週間前、私はソウルでサレジオ家族に、サレジオ霊性と宣教・ミッションについて話す機会に恵まれました。今日、サレジオ家族を見回すと、多くの輝かしい宣教の模範があることに私たちは気づきます、そしてその人びとから学び、インスピレーションをもらうことができるのです!

SDB サレジオ会員 アンドレ・フォン修士  
(ベトナム出身、パプアニューギニア、モンゴルの宣教師)

ASC サレジアニ・コオペラトリー会員 テレサ辻村直さん  
(日本の同窓生、東ティモールで宣教)

VDB ドン・ボスコ女子在俗会会員 オルガ・クリツォヴァさん  
(スロバキア出身、「歩く聖櫃として生きる」ことが夢)

CDB ドン・ボスコ・ボランティア会員 神の僕ニーノ・バリエリ  
(イタリア出身、38年間全身まひ、世界への喜びの宣教者)

SCG イエスのカリタス修道女会のシスターたち  
(韓国出身、パプアニューギニアのキンベでコンテナの修道院に暮らす)

EXDB ドン・ボスコ同窓生 サンニャーさん  
(タイ出身、ビエンチャンのラオス・サレジオ・ミッション創設者の一人)

……そのほか、ジョヴァンニ・カリエロ枢機卿に始まる、サレジオ家族の多くの宣教師たち

サレジオ家族のこの人びとは、“スーパーマン、スーパーウーマン”ではなく、ただ飾らない、喜びあふれる、意味深いサレジオ的な生き方をもって「ミッションとなる」道を示してくれるのです!

2019年10月のこの「福音宣教のための特別月間」において、毎日、小さな宣教の行いや取り組みをすることをお勧めします。イエスへの信仰を周りの人びとと分かち合うとき、はじめて信仰を生き生きと保つことができると私たちは信じます! ……日ごとの短いふり返りを収めたサレジオの宣教の冊子からインスピレーションを汲みましよう! また、ベトナム-モンゴルと韓国の宣教促進チームによるたゆみない努力

に賛辞を送りたいと思います。それぞれ、冊子をただ翻訳するのではなく、その国の文化や感性に合わせた「地元」版を作ったのです。サレジオの宣教師たちからインスピレーションをもらいましょう！

あなたは、ミッションとなりたいですか？

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

\* \* \* \* \*

【参考1】

ともに喜びをもって福音を伝える教会へ

「福音宣教のための特別月間」（2019年10月）に向けての司教団の呼びかけ  
（カトリック中央協議会 HP）

<https://www.cbcj.catholic.jp/2019/03/15/18723/>

◆ともに喜びをもって福音を伝えるための祈り

喜びの源である神よ、

あなたは、御子キリストを遣わし、

その受難と復活を通して、救いに導く喜びの福音を

この世にもたらしてくださいました。

また、あなたは、キリストの後に従う働き手を通して、

諸国の民に福音を告げ知らせ、どんな逆境にあっても、

キリストを信じる人々の喜びを支えてくださいました。

さまざまな困難に直面している現代社会の中で、

人々の救いに奉仕する教会を顧みてください。

キリストの救いの喜びを

新たな熱意、手段、表現をもって伝えることができるよう、

わたしたちを聖霊によって強めてください。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

【参考2】

サレジオ会宣教部門「福音宣教のための特別月間」資料

（BoscoLink 2019年6月6日）

5110(I)\_Salesian Resource for the Extraordinary Missionary Month

<https://www.bosco.link/webzine/48266>

◆2019年10月 福音宣教のための特別月間 毎日の意向

1. 火をもってのみ、火を広めることができる Only a Fire can spread a Fire
2. 収穫は大きい The Harvest is great
3. 牧者の責務 Responsibility of Pastors
4. 奉献された修道者の特別な責務 Special responsibility of consecrated religious
5. 福音宣教のための適切な仕組み Adequate structures for evangelization
6. 福音宣教における協力 Collaboration in evangelization
7. 地元の召命を育む Nurturing local vocations
8. 高い資質を備えた地元の聖職者 Well qualified local clergy
9. キリストはあらゆる文化に迎えられる Christ is at home in every culture
10. 宣教師の召命の気高さ Nobility of the missionary call
11. 呼ばれているのは、神の国の建設 The call is to build his Kingdom
12. 神の国、私の国ではなく His Kingdom, not my Country
13. 神の国は普遍的 The Kingdom is universal
14. Cetera Tolle (ほかは取り去り給え Take away all the rest)
15. 科学的・実証的知識の必要性 Need for scientific knowledge
16. 母国語の音いろ The music of the mother tongue
17. 聖性はなくてはならない Holiness is indispensable
18. 模範の力 The power of example
19. すべての人への燃える愛 A burning love for all
20. 迫害にあう Not without persecution
21. 神、私たちの信頼の源 God, the source of our confidence
22. 宣教地で働く女子修道者 Religious women in the missions
23. 信徒宣教師 Lay Missionaries
24. 祈りによる支え Support through prayer
25. 宣教召命を育む Fostering missionary vocations
26. 良いリーダーとなる人を選ぶ Selection of leaders
27. 宣教地への物的支援 Material support to the missions
28. 支援グループ Support groups
29. 子どもたちと宣教地 Children and the Missions
30. 教区聖職者の中の宣教師 Missionaries among the diocesan clergy
31. わが魂は主の偉大さを讃える My soul proclaims the greatness of the Lord

## Don Bosco Green Alliance - 今、行動しよう！

友人、サレジオ家族の皆さん、

セブより心からのごあいさつを送ります。2019年最後になる、まるひと月の管区訪問が始まります。私はこの7月以来、環境問題への敏感さ、‘皆の家’への関心の高まりに驚いています。一般社会では、これは「環境への関心、または気候変動に取り組む活動」であり、カトリック共同体にとっては、すばらしい回勅『ラウダート・シ』にしたがって歩むことです。

10月に東ティモールのディリで開催された地元のドン・ボスコ同窓生大会の参加者は、全員、緑色のTシャツを着ました。年配の同窓生は色の意味を問われると、希望の色と説明しましたが、若い同窓生たちは環境問題、自然保護への関心を表す色だと明確に答えました！ また私たちは、「Don Bosco Green Alliance (ドン・ボスコ緑の同盟)」の200のメンバー団体の中には、オーストラリア、カンボジア、香港、マカオ、モンゴル、パプアニューギニア、ベトナム、フィリピンの団体があることに気づきます。ご存じかもしれませんが、この草の根のサレジオ運動、「ドン・ボスコ緑の同盟」は、2018年5月に誕生しました。今日、50か国に200を下らない登録団体があります。ウェブサイト (<https://donbosco.org>) を見ると、簡潔で非常に具体的な目標を掲げた、シンプルでありながら行動を中心とする優先分野がすぐにわかるようになっていきます。

公害と闘う - 地球温暖化を弱める - 使い捨てプラスチックを無くす

どこでも、シンプルでありながら意味のある環境保護の活動を目指すよう若者たちに勧めると、良い反応があります。これまで、何のキャンペーンもせずに、EAO 東アジア・オセアニア地域7管区の15のサレジオ事業が、すでに「ドン・ボスコ緑の同盟」に登録し、EAOのほとんどの管区の多くの支部が意識を高め、環境問題に結びついた活動を奨励しています。

しかし、次のように尋ねる人もいるかもしれません：自分たちの教育事業で環境問題のためにすでに「何かしている」なら、登録することで何が変わるのかと。それはどのような運動にも見られる単なる熱意のように見えます。しかし、若者たちは、より大きなものに参加しているのを感じます：世界的なサレジオのネットワーク、被造世界を守る地球規模の運動です。若者たちはまた、ほかの国々で行われている同様の

活動に触発され、学びます。若者らしい情熱をもって、ほかの人びとにも参加を呼びかけるかもしれません。私たちの時代の主要な世界的問題の一つに関わるこの運動のおかげで、サレジオの若者たちは、親、導いてくれる大人やサレジオ家族のメンバーも巻き込んでいるのです！ ドン・ボスコ緑の同盟からインスピレーションを受けましょう！

EAO ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(69)

2019年12月1日／日本 東京

**教皇フランシスコ、私たちの地域を訪れてくださりありがとうございます！**

友人の皆さん、サレジオ家族の皆さん、

東京より、心からのごあいさつを送ります。教皇フランシスコによる日本の広島、長崎、東京への記念すべき訪問が、ほんの数日前に終わりました。教皇フランシスコが訪れた私たちの地域の国として、日本は、韓国（2014）、フィリピン（2015）、ミャンマー（2017）、そしてタイ（2019）に次いで、すでに5か国目です。

あらゆる大陸での暴力的な市民の抗議活動、地域紛争の増加に見られる世界的な混乱の中、ペトロの後継者の謙遜でありながら力強い世界平和のための道義的な権威の姿を目にし、私たちは心が明るくなりました。タイと日本の両方の使徒的訪問で、サレジオ家族が大いに関わり奉仕していたことを、私たちはうれしく、謙遜のうちに誇りに思います：日本の広報において - 関連グッズ、書籍の制作、主要メディアへのコメントなどの対応（阿部神父、大川氏、関谷神父）、音楽・典礼の奉仕（長崎と東京でのイエスのカリタス会による聖歌隊；タイのサレジオ学校のマーチングバンド）、教皇の若者との集いの準備と活気づけ（バンコク、東京）などです。最後になりますが、やはり大切な働きをしたのは、タイで働くアルゼンチン人宣教師、教皇のはとこであるシスター・アンナ=マリア・シヴォリ, FMA、タイ国王と教皇フランシスコの間の通訳を務めました。この二つの訪問を伝える数多くの YouTube の動画を見ることができます。しかし、私たち皆にとって、一つの単純な問いが残されています：

私たちの地域への教皇の訪問というこのすばらしい日々を終え、これからどのような実りが残るでしょうか？

教皇フランシスコは、社会から疎外された人びとへの、また過度に競争主義的で、時に‘情け容赦のない’社会の犠牲者への心からの関心から、共感にあふれて多くを語りました。教皇はカトリック信者にとどまらず、すべてのタイ人、日本人に語りかけました。その‘教え’方は、愛にあふれた関心をもって人びとに語りかけるものでした。教皇はすべての人の心に感動を与えました。教皇の訪問は、少数派のカトリックの生徒たちにとっては「信仰を再生させる」機会に、「またキリスト者でないほかの生徒たちにとってはキリスト教がどんなものなのかを考える」機会になりました。

教皇のある説教は、私たち皆にとり見事な宣教の教え、インスピレーションになります：「……母、父、兄弟、姉妹たち、主が私たちに与えたいと望みながらも、主の食卓にその姿のない人びと（=人身売買・取引の犠牲者、薬物依存に陥っている人びと、物的な貧しさのために搾取に直面する人びとなど、さまざまな理由のために貧しく、苦しむすべての人）。その人びとは皆、私たち家族の一員です、私たちの母、兄弟、姉妹です！」 教皇はただ、宣教の心と呼びかけているのです。その人びとの顔を、その傷、ほほえみ、その人生を見ることができ、傷と痛みをいやす神の愛のあわれみ深い香油の注ぎをその人びとが体験できるようにする、そのような宣教の心。宣教する弟子となり、喜びのうちに、私たちの周りの人びとの顔を一つの人類家族の顔として発見するようにと、教皇フランシスコは私たちに挑戦を投げかけています。

聖ペトロの後継者、ドン・ボスコの同窓生、教皇フランシスコからインスピレーションを受けましょう！ 希望どおりにいけば、2020年、東ティモール、パプアニューギニア（もしかするとインドネシア）も教皇の旅程表に載るでしょう！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(70)

2020年1月1日/ローマ サクロクオーレ

## あなたの話を聞かせてくれますか？

会員の皆さん、友人、サレジオ家族の皆さん！

新しい年、2020年の最初の日に、幸いな、祝福に満ちた新年をお祈り申し上げます！

2014-2020年の6か年の終わりにあたり、次期、第28回総会まで数週間（2月16日-4月4日）と迫るなか、私たちは伝統的に振り返りと評価に時間とエネルギーを注

ぎます。私たちの地域におけるこの6か年の活性化のダイナミズムに目を向けると、興味深い体験があることに気づきます – サレジオの物語の魅力です。

この22年、AustraLasia ニュースを通して、Boscolink (<http://www.bosco.link>) で絶えず行われている EAO 東アジア・オセアニア地域の分かち合いに貢献して下さったすべての人に感謝します。また、現在、3名の会員から成るチーム（ベトナム、韓国、オーストラリア）に感謝します。このチームのおかげで、新しい年、2020年にもこのサービスが可能になるのです！

サレジオ会宣教師の物語は2009年以来、宣教促進の最良のダイナミズムとして、毎月、「カリエロ 11」で分かち合われてきました。新しい宣教師の召命はたいいてい、ほかの宣教師の人生の物語を聞くことから生まれます。

サレジオの翻訳者の物語は通常、あまり目に見えないものですが、2回にわたる EAO ワークショップの実りであり、その霊性や模範を発見するのを助けてくれます。例えば、ヒラリオ・パッセーロ神父（88歳）は、総本部で今も、サレジオのニュースや資料をイタリア語からポルトガル語に翻訳しています。

サレジオ会修道士の物語は、2018年の第7回 EAO サレジオ会修道士大会の前も、その後も、サレジオの奉獻召命をより目に見えるものとししました。実に、出版された52人の修道士のインタビュー、また YouTube で見ることのできる50人の修道士のインタビューは、多くの人の霊的糧、霊的読書となっています！

ASC サレジアニ・コオペラトリーの物語、そのデレガートの物語は、第1回目のASC 養成担当者の養成ワークショップ（2019年、カンボジア）を開催する主なインスピレーションとなりました。

サレジオの信徒宣教者の物語は私たちの間であまりよく知られていません。最近東ティモールで開催された、青少年司牧と宣教促進の担当者会議の後、私たちはボランティアと、ボランティアを受け入れた修道共同体のインタビュー‘第2ラウンド’の制作を始めました。

対話は、私たちのカリスマの心・中心であり、インタビューはこれらの物語を分かち合うために私たちが用いる対話の一種です。すでにドン・ボスコは、1841年12月8日のバルトロメオ・ガレツリとの対話（オラトリオ回想録、12章）のなかで、15を下らない質問をしています！ 物語を惜しみなく分かち合ってくれる皆さんに感謝します。新しい年も、この分かち合いが続きますように！ これらの物語は、人生・生活の核心に分け入るのを助けてくれます。私たちは、より大きな力と熱意をもって、より親しくイエスに従うようインスピレーションを受け、惹きつけられるのです。

私の今年の願いは、私たちがさらに心を開き、それぞれの物語を分かち合い、耳を傾ける時間を取ることです！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(71)

2020年2月1日／中国 香港

## 若者がいなければ、私たちは天国にたどり着けない！

会員、友人、サレジオ家族の皆さん！

第28回総会前、私にとって最後の訪問のなか、皆さんにごあいさつできることをうれしく思います。まず、ラシオ教区（ミャンマー）の補佐司教に新たに叙階された我らがルカス・ダウ・ツェ司教 SDB からの祈りのお願いを皆さんにお伝えします。ルカス司教は、1月29日に叙階されたばかりです。中国国境に近い遠隔地の教区、ラシオは、45年ほど前、サレジオ会員の労苦の実りとして創設されました。そしてミャンマーのこの地方で青少年が前にする大きな挑戦（武力紛争、麻薬、人身取引・売買）のため、24年ぶりに、再びサレジオ会員司教が「召し出された」のです！

この新しい年、2020年は、私たちにどのような賜物、機会をもたらすでしょうか？

ストレンナ 2020 は、探求すべきすばらしい賜物です。日本で制作されたストレンナ 2020 の美しいポスターや「DOCAT」は、「良いキリスト者、誠実な市民（誠実な社会人、キリストに倣う者）」として若者と共に、若者のために歩む多くの具体的な生き方を示してくれます。ストレンナの解説とビデオも、私たちの日々の教育活動に多くの具体的な光を与えてくれます。

第28回総会（2月16日～4月4日）がまもなくヴァルドッコで始まります。再び、私たちの「サレジオの聖霊降臨」の中心にあるのは、若者と若者のニーズです。私たちは初めて、開かれた問いを思い巡らすようにと招く総会に入ります：「今日の若者のために、どんなサレジオ会員に？」これは今後6年のあいだ問い続けるべき、真にカリスマ的な問いです。

また、2020年6月24日、私たちはドン・ボスコ同窓会の誕生150周年を祝います。祝いの年は、父、師、友であるドン・ボスコへの感謝の行事をもって、ヴァルドッコから始まります。私たちのミッションの実りに目を向けながらこの年を生きる貴重な

機会です！

今年の主要な 3 つのテーマは、いずれも、若者が私たちの生活の中心であることを確認する良い機会です。数日前、ナザレの家（ミャンマー）で、寮の生徒たちは、チャールズ・ボー枢機卿へのあいさつで次のように表明しました：

「喜びは愛の実りであると私たちは信じます。ここで、私たちは皆、良き主に愛されていると感じています。私たちはサレジオ会員に愛されていると感じ、サレジオ会員も、私たちに愛されていると感じています。サレジオ会のブラザーや神父様たちは、誠実な市民、良いキリスト者になれるように、私たちと共に歩んでくれます。そして私たちは、サレジオ会員が聖性への道をたどれるように、サレジオ会員と共に歩みます。こうして私たちは、幸せへと続く同じ道を、互いのために共に歩みます。」

最近、ドン・ボスコの祝日を祝った私たちは、若者がいなければ天の故郷にたどり着けないということを、あらためて謙虚に認めます。それがどこであろうと、若者たちのいるところでイエスと出会うというドン・ボスコの道に、私たちは感謝します。より若者中心のドン・ボスコの息子、娘たちとなるよう、今年、2020 年という機会を活かしましょう！

EAO 地域顧問 ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB

EAO ボナノッテ(72)

2020 年 3 月 1 日 / トリノ ヴァルドッコ

**心からありがとう！ 感謝の心で成長しながら……**

兄弟会員の皆さん、友人、サレジオ家族の皆さん！

第 28 回総会の仕事の日々の中、ヴァルドッコから皆さんにごあいさつできることをうれしく思います。数週間後（3 月 16-20 日）に新しい最高評議員が選挙で選ばれるので、これはおそらく、私が送る最後の EAO ボナノッテになるでしょう。

今日は、この 18 年の間に世界各地で、特に EAO 東アジア・オセアニア地域の 23 か国で出会ったすべての兄弟会員、サレジオ家族の皆さん、信徒・ミッションパートナー、若者の皆さんと、私の感謝の心を分かち合いたいと思います。数え切れないほどの集会、イベント、研修会、インタラクティブな講話、グループや個人との会合がありました — いつも、耳を傾け、心から心へと分かち合い、共に夢見、ふりかえる、貴重な機会でした。皆さんの信頼、支え、そして喜びの時、苦しみの時を分かち合っ

た多くのすばらしい時を、皆さんに感謝します。多くの祝祭、祈り、共同体の分かち合いに、心を開いて参加していただき、ありがとうございます。

十年たてば、山も川も変わる、という韓国のことわざがあります。2002 年以來、EAO 地域の何百ものサレジオ会員、サレジオ家族のメンバー、若者たちはどうでしょうか？ かつて修練生で、今、修練長になっている人たちもいます。かつて実地課程生で、今、管区長の人もいます。それが、共に歩み、互いを豊かにし合う人生です。学生時代、何百回も朝の講話を聴いた人たちは今、家庭で、子どもたちとボナノッテを分かち合っているかもしれません — こうして物語は続いていきます。少しの間、皆さんの人生の物語の一部になれたことを、感謝します。

あなたの家、故郷はどこですか？ これは、皆さんと出会った各地で、いちばんよく訊かれた質問の一つです。私の最も頻繁な答えは — 「私の家、本籍地はドン・ボスコです！」 私がどこへ行っても、わが家のように感じさせていただき、ありがとうございました。それは大きな贈りものです。いつまでも大切にします。

ドン・ボスコのヴァルドッコの母院から、この最後のボナノッテを書きながら私が願うのは、各サレジオ会共同体が、ボナノッテというこの素朴でありながら本質的なカリスマの体験を、日常生活の中で大切にしてほしいということです。そう、単純素朴なボナノッテを通して分かち合いながら、私たちは成長するのです。

ドン・ボスコと共に、ヴァルドッコより — ボナノッテ、おやすみなさい！

**EAO 東アジア・オセアニア地域顧問 (2014-2020)**

**ヴァツラフ・クレメンテ神父, SDB**